

ぼちぼちいにかっ！

2000

いくら口では「無理して学校に行かなくて良いんだよ」とは言ってみても、今思えば心のそこからの言葉ではなかったように思います。その分だけゆーたは傷ついていたんだろう、と……。
毎日、毎日、ゆーたの言動に振り回されていました。
イヤ、それだけゆーたの気持ちがわかっていなかったのでしょうか。

途中、パタッと書けなくなった時期がありました。
無理して書く必要はない、という以前に、自分の気持ちも全然整理がつかなかったんだと思います。

6年生の担任になったY先生は、とっても素敵な先生でした。
今でも、「ゆーた君、どうしてます？」と遊びに来てくれます。

P T Aの会長になりました。
息子が学校に行っていないのに。

おばあちゃんとの関わりについても、随分と表面化してきました。
そして、この問題は今も続いています。むしろ僕とお袋との問題になってきています。

- 目次 -

2000年1月	5
梅池スキー場にて -2000/01/03(月) Vol.138-	5
主夫 -2000/01/11(火) Vol.139-	5
お年玉 -2000/01/12(水) Vol.140-	7
魚の小骨 -2000/01/13(木) Vol.141-	7
エントリー -2000/01/14(金) Vol.142-	9
タバコ -2000/01/15(金) Vol.143-	9
些細なことで -2000/01/16(日) Vol.144-	10
5年目 -2000/01/17(月) Vol.145-	12
指名委員会 -2000/01/18(月) Vol.146-	12
走るゾ~っ! -2000/01/19(水) Vol.147-	13
太っていた方が -2000/01/21(金) Vol.149-	15
しがらみ -2000/01/24(月) Vol.150-	16
おはよーっ! -2000/01/25(火) Vol.151-	17
説得力 -2000/01/26(水) Vol.152-	18
ゆーたのため? ~キックボード(^_^ -2000/01/27(木) Vol.153-	19
ヒット! ~キックボードにトライ! ~ -2000/01/28(金) Vol.154-	21
意志 -2000/01/30(日) Vol.155-	22
登校刺激 -2000/01/31(月) Vol.156-	22
2000年2月	23
変質者 -2000/02/02(水) Vol.157-	23
公約書(笑) ~ 財布の中には.....(;_;) -2000/02/03(木) Vol.158-	24
久々の学校 -2000/02/05(土) Vol.160-	25
人物像 -2000/02/06(日) Vol.161-	26
Gコード -2000/02/07(月) Vol.162-	27
雪 -2000/02/09(水) Vol.163-	28
「楽しかったねっ!」 -2000/02/12(土) Vol.164-	28
白馬あれこれ -2000/02/14(月) Vol.165-	29
我慢、我慢! -2000/02/16(水) Vol.166-	31
No.5596 -2000/02/17(木) Vol.167-	31
嗚呼、役員改選 -2000/02/19(土) Vol.168-	31
iモード -2000/02/20(日) Vol.169-	32
家族で陶芸 -2000/02/21(月) Vol.170-	33
オークション -2000/02/22(火) Vol.171-	34
ゆたぼん -2000/02/23(水) Vol.172-	34
それぞれ -2000/02/26(土) Vol.173-	35
いつかは42.195! -2000/02/27(日) Vol.174-	36
先生が来るぞっ! -2000/02/28(月) Vol.175-	37
コ口付き自転車 -2000/02/29(火) Vol.176-	38
2000年3月	39
次の手術 -2000/03/02(木) Vol.177-	39
都会 -2000/03/06(月) Vol.178-	39
じゃがいも10kg -2000/03/07(火) Vol.179-	40
何なんだ! -2000/03/08(水) Vol.180-	41

勉強 -2000/03/09(木) Vol.181-	42
落札!! -2000/03/12(日) Vol.182-	42
どんぶり勘定 -2000/03/13(月) Vol.183-	43
肩書き -2000/03/14(火) Vol.184-	44
旗振り当番表 -2000/03/16(木) Vol.185-	45
卒業式 -2000/03/17(金) Vol.186-	46
不安定 -2000/03/19(日) Vol.187-	46
シブタク -2000/03/20(月) Vol.188-	47
ホットカーペット -2000/03/21(火) Vol.189-	48
送迎 -2000/03/22(水) Vol.190-	49
プリケー -2000/03/23(木) Vol.191-	50
コ口付き自転車 -2000/03/26(日) Vol.192-	51
安心感 -2000/03/27(月) Vol.193-	51
ジグソーパズル -2000/03/28(火) Vol.194-	52
我慢のできない子 -2000/03/29(水) Vol.195-	53
空気のふるえ -2000/03/30(木) Vol.196-	54
2000年4月	55
買い物 -2000/04/02(日) Vol.197-	55
2人で外へ... -2000/04/03(月) Vol.198-	56
無洗米 -2000/04/05(水) Vol.199-	57
モスバーガー -2000/04/06(木) Vol.200-	58
新しい担任 -2000/04/07(金) Vol.201-	59
電話がけ -2000/04/09(日) Vol.202-	60
学級通信 -2000/04/10(月) Vol.203-	60
いよいよ..... -2000/04/14(金) Vol.204-	61
ガッツポーズ -2000/04/16(日) Vol.205-	62
教材販売 -2000/04/17(月) Vol.206-	63
留守番契約 -2000/04/18(火) Vol.207-	64
筍 -2000/04/23(日) Vol.208-	65
観客二人 -2000/04/24(月) Vol.209-	66
たかがゲーム -2000/04/26(水) Vol.210-	67
やっぱりゲーム -2000/04/27(木) Vol.211-	68
2000年5月	69
やっぱりヌメモン(;_;) -2000/05/01(月) Vol.212-	69
喫茶店 -2000/05/03(水) Vol.213-	70
いつかは... -2000/05/04(木) Vol.214-	71
「親は...」 -2000/05/07(日) Vol.215-	72
不安定 -2000/05/09(日) Vol.216-	73
伊豆高原 -2000/05/14(日) Vol.218-	73
エビフライ -2000/05/16(火) Vol.219-	75
ハードディスク -2000/05/22(月) Vol.220-	75
元教員 -2000/05/24(水) Vol.222-	76
友達 -2000/05/23(火) Vol.221-	77
2000年6月	78
背中を押す -2000/06/01(木) Vol.222-	78
へこむ -2000/06/05(月) Vol.223-	80

2000年8月	81
発熱 -2000/08/08(火) Vol.224-	81
ドラクエ7 -2000/08/28(月) Vol.225-	82
2000年10月	83
修学旅行 -2000/10/05(木) Vol.226-	83
不安 -2000/10/06(金) Vol.227-	84
行きたかった -2000/10/07(土) Vol.228-	85
フレッツI S D N -2000/10/11(水) Vol.229-	86
立ち話 -2000/10/12(木) Vol.230-	87
親父の入院 -2000/10/28(土) Vol.231-	88
老い -2000/10/30(月) Vol.232-	89
2000年11月	89
ハーフマラソン -2000/11/18(土) Vol.233-	89
2時間02分 -2000/11/20(月) Vol.234-	90
成長速度 -2000/11/21(火) Vol.235-	91
2000年12月	91
親ばか -2000/12/2(土) Vol.236-	91
空振り -2000/12/4(月) Vol.237-	92
コピー用紙 -2000/12/5(火) Vol.238-	93
20世紀 -2000/12/31(日) Vol.239-	94

2000年1月

梅池スキー場にて -2000/01/03(月) Vol.138-

今、長野県の梅池に向かうバスの中。
女房が参加している体育の勉強会のスキーツアーに親子三人で参加。

スキーは一昨年あたりまで、近場に行ったり、女房の学校の職員ツアーに行ってきたりもしたが、結局、ゆーたはうまく滑れず、今年はそり遊びとスノーシューイングをメインにすることになった。

:.:.:'° 。 .:*.:'° ° '°:*.:. .:*.:'° 。 .:*.:.:*.:

スキー場に着いたのが午後の一時過ぎ。
早速三人でソリができるような場所を探して遊び始めた。
日頃動くことが嫌いなゆーたも、とても嬉しそうに雪の中を動き回った。

ソリと言っても、バランスがうまくとれないゆーたは、一人では他の小さな子どもたちと一緒に突っ込みそうで、見ていておっかない。
そのくせ、急なところから滑り降りるスリルを求めるのだった。

結局、僕と二人で、何度も滑ることになるのだが、僕の方も次第にソリのコントロールがわかってきて、うまく左右に曲がれるようになってきた。そうすると、色々なコース取り(というほどでもないが)を考えて、次はどういうふうな滑り降りようか、ということが楽しくなってくる。

何度も滑り降りては上り、上っては滑り降り.....。
疲れはしたけれど、僕もゆーたもとっても楽しんだ。
そして、喜んでるゆーたの姿を見られることが、僕たち夫婦にとっては一番の喜びだった。

時々、あまりにも鈍いゆーたの運動神経を恨めしく思う気持ちが、頭をかすめるときものある。一緒に海や山などのアウトドアスポーツをもっともっとできるのに、等と思ったり.....。
でも、それは仕方がないこと。
ゆーたができること、ゆーたが楽しめることを探していかなければ。
そして家族三人で楽しめるアウトドアのスタイルを。

.....。とは言いつつも、スキー場に来て、スキーをはかない、ってのも、悲しいものがあるなあ。(;_;))

あけましておめでとうございます。
今年、我が家にとって、大きな環境的な変化があるかもしれません。
どんな一年になる事やら？
不安でもあり、楽しみでもあり.....。
今年もよろしく願います。

主夫 -2000/01/11(火) Vol.139-

昨年末、そして新年早々「インターネットのホームページを見ました」ということで取材の打診があった。TV局と雑誌社と。

どうやら「主夫」という言葉をキーワードにして、HPを検索して、引っかけたようだ。雑誌社の方は「脱サラ・その天国と地獄」というタイトルで特集記事を書きたいだということだった。(^^)

ちょっと違うよなあ、と思いつつ話だけは聞いてみるのも面白いと、こちらの連絡先を教えておいたら、早速電話がかかってきた。

「どうしてお仕事をやめられたんです？」
「家事はどの程度やっておられるんです？」

.....こちらの事情を話した後、
「天国でもなければ地獄でもないです。これが現実だと思ってます」と。

「もう一度編集長と話をしまして、OKが出たら、取材をしたいのですが、よろしいでしょうか？」

電話は切れ、その後連絡はこなかった。(笑)
そうだろうなあ、と思いながらも内心ホッとした。

:*:・!° 。.:*:・!° ° !.:*:.. .!:*:・!° 。.:*:...*::

「主夫」という言葉を使うと、非常にわかりやすいのかもしれない。
確かに我が家は女房が稼ぎ、僕が家にいてゆーたの相手をしている。ゆーたの相手といっても、学校に行かなくなってからというものは、のんびりのんびり一緒にゲームをやったり、病院やカウンセリングに行ったり、時々散歩をしたり、という具合。
家事の大部分は、やはり女房が担っているし、僕自身はあまり好きではなから積極的に関わることはない。女房に言われるからやっているという域をいっこうに出ないでいる。
「生活するってのは、好き嫌いでやるモンじゃないのよ！
どんなに疲れていても、やらなくてはならないのよ！」

女房がよく口にする言葉だ。

その度に、
「じゃあ、俺が働きに出るから、よしこが毎日家にいて、ゆーたの相手をする？」
と切り替える。
そうすると、女房は黙ってしまい、僕は勝ち誇った笑みを浮かべる。

しかし全く持って気ままな生活だと自分でも思う。

:*:・!° 。.:*:・!° ° !.:*:.. .!:*:・!° 。.:*:...*::

時々、ふと思う。

.....俺の人生、このままだこへいくんだろ、と。

1980年に僕は教壇に立ち、1990年に沼津から浜松に帰ってきた。
そして2000年。
これから先10年の間、僕はどこに向かっているのだろうか？

梅池での雪遊びが楽しい思い出となりました。
2月くらいにもう一度出かけよう、という話。
雪道を車で出かけることにおそれおのいています。
スタッドレスタイヤ?チェーン?全然わからんよぉ~ (;_;))

お年玉 -2000/01/12(水) Vol.140-

昨日ゆーたと今年のお年玉をいくらもらったかを数えた。
お札を一枚一枚広げ、その度に
「何千円でえ...」
と楽しそうに計算していくゆーた。可愛いモンだ。

.....しめて、4万6千円也 (;´_`;))

1000円札ばかりで分厚くなってしまったゆーたは、「パパぁ~、これ、一万円札と換えて!」と。

何を言ってるんだ!
パパにはそんなお金はないんだよ! (;_;))
財布の中には千円札が数枚あるだけなんだから.....

:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.. .*:.'° 。.:*...*:

我が家では小遣いというものをあげていない。
ゆーたの収入は、このお年玉と、女房の実家に帰るたび、おじいちゃんからもらう小遣い。

「おい、ゆーたぁ。ほれ!小遣い!」
自分のお金だから、自分で考えて使いな!
まだまだ、その段階。
少しずつでもいいから、考えるきっかけになれば良いと思う。

:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.. .*:.'° 。.:*...*:

「貯金したら?」と女房が言う。
でも、決してウンとは言わない。
自分の手元にお金がないと安心できないみたいだ。

知らない間に僕がお金を借りているということをゆーたは、全く知らないのだ!
シアワセというか、何というか.....(--;))

2月の10日から再び、白馬に行くことに決定。
昨晚、女房は宿探しにインターネットに接続しっぱなし。その横で僕は、「雪道の安全走行」「タイヤ、チェーン」etcetcを必死に読み進めてました。
雪山走行、アドバイスお願いしま~す!

魚の小骨 -2000/01/13(木) Vol.141-

昨夜もPTAの役員会だった。
登校方法の来年度の基本方針もほぼ固まり、それに伴い学校に出かけての打ち合わせも多くなった。

僕が学校に顔を出すたびに、色々な先生が「ゆーた君、元気ですか？何してます？」と聞いてくる。
心底心配してくれている様子がわかる。

「まあ、のんびりのんびり僕と遊んでますわぁ」と笑って答える。

一応ゆーたには、学校に行くときには、

「おい、今日パパ学校行ってくるけれど、ゆーたも付き合うか？ 保健の先生も顔見たがってたゾ」と声をかける。

しかしゆーたの答えは決まっている。

「うーん、でもなぁ、気になることがあるからなぁ……」

ゆーたの言う気になることと言うのは、二つある。

一つは自分の好きなボンバーマンをある女の子に、からかわれたこと。

もう一つは、クラスの男の子に、首のあたりをふざけてギョッとやられたこと。

「謝ってもらいたい」

そういう思いがゆーたの根底にはくすぶっている。

その気持ちはわからないわけではないが、どうその子達に話しかけていって良いのか、切り口が全然見えてこない。

特に男の子の方は、以前学級懇談会で、担任批判の急先鋒になったお母さん。

こちらの状況をきちんと説明して理解してもらえないと、かえって話はこじれるし、相手の子ども達を傷つけることにもなる。

ただ、この「小骨」は、5年生が終わるまでには、何とかしてあげたいと思っている。

:*:~'°。.:*:~'°。'~*:..。.:*:~'°。.:*:~*:~*:

最近、同じクラスのお母さん達と話す機会が何度かあった。

「ゆーた君、元気？何してるの？」

皆、口々に聞いてきてくれる。

何やら、もう一人クラスの女の子が、いじめにあって学校に来なくなっているとのこと。

「担任がねえ……(--;)」

そのお母さん達は口を揃えて言う。

担任の評判、すごぶる悪し、といったところだ。

さて、どうすべえ……。 (..)

「雪山走行、アドバイスお願いしま〜す！」へのメールありがとうございます。

宿も決め、今日はスタッドレスタイヤを買いに行くことにしました。

でも、心配だなぁ……。

2月末に5 km、4月中旬に10 kmのマラソンにエントリーしようかと考えてます。だはははは、大丈夫かなあ〜。

でも、今年中には最低、ハーフマラソンにはチャレンジしたいと思っています。可能ならば、フルマラソンに！（自爆？）

エントリー -2000/01/14(金) Vol.142-

意を決してマラソンのエントリーをしてきた。
「決する」ほどのものではないかもしれないが、
2/27...杉の里ロードレース 5km
4/16...小笠・掛川マラソン 10km
の二つ。

昨年未から自宅近所を走り始め、遠い昔になってしまっていた「走る楽しさ」を再び感じるようになった。

時間はその時の都合がつくとき。
夕方の時もあれば、女房やゆーたが寝っかけている10時、11時の時もある。
その時、その時、見慣れた風景は様々な顔を見せてくれる。
夕食時には、通りすぎる家々から、いろんな臭いが流れてくる。
暖かく、真っ白なご飯...。家族の団欒を思い浮かべる。

寒さが身に凍みるときもある。
冴え渡った空気、透き通るような月。
寒さもまた良いものだと思った。

.*:.'° 。 .*:.'° ° .'*:.. .*:.'° 。 .*:..*:

走ることが楽しく、雨が降っていても外に出たくなる。
そんな僕を見て女房は
「シューズが濡れるから、やめなっ！」と一言。(--;)

「来年の春頃には、フルマラソンに挑戦してみたいなあ〜」と。
「あのねえ〜、フルマラソンなんて簡単に言うけれどね、そんな簡単じゃあないんだよ」
.....おっ！さすが体育の先生、と思いきや

「練習しないといけないし、すればするほど、シューズだって買わないといけないし、シューズとかも高いんだよあ。わかってる？ お金がかかるんだよ」

.....(..)
なんのこたあない、言いたいのはそれかいな！！ 一瞬といえども、体育的なまともなアドバイスを期待した僕がアホだった。(;-;)

今日はゆーたと一緒にいつものストアまで買い物。
夕方の番組に間に合わない！と走り出すゆーた。追いかける僕。走ったり、歩いたり生活の中に溶け込んでいったらいいなあ、と。

タバコ -2000/01/15(金) Vol.143-

...を止めようかと、換気扇の下でタバコを吸いながら思った。

誰の言葉か忘れてしまったが、
「世の中に禁煙ほど簡単なものはない。わたしは、今までに何回も禁煙をした」と。

タバコとつきあい始めて、もう25年。四半世紀にもなろうとしている。
このタバコのおかげで、高校三年生の時には、家庭謹慎にもなった。(^^)

大学の寮の壁に、

「いかなる理論を構築しようとも、この一服の紫煙に勝るもの無し」
などという落書きがしてあった。

「タバコを止めないのなら、付き合うのを止める」

大学時代付き合っていた彼女に言われた。

それでもタバコは止めなかったし、彼女とのつきあいも終わりにはならなかった。

教師をしていたとき、クラスのロッカーからタバコの吸い殻の入った空き缶が見つかった。

「吸った者は名乗り出る！」

大体の目星はついてはいたけれど、敢えて問いつめることなく、クラスの全員に語り続けた。一週間ほど過ぎただろうか？ こりゃ、ダメかなあ、と音を上げそうになった頃、やっとのことで、本人達が名乗り出た。

「もう、タバコは止める！俺も止める！」

そう一方的に言い放ち、禁煙した。しかし、3ヶ月しかもたなかった。

ニコチンガムを試したこともあった。

確かに本数は激減した。

しかし、ニコチンガムが無くなる頃、メチャクチャ忙しい日々が続いた。

病院に行かなければならなかったが、行く機会を逸した。

タバコの本数は、しっかり元に戻った。

:*:~!° 。.:*:~!° ° !~*:~!° .:~*:~!° 。.:~*:~!~*:

「自分の身体は自分一人のものではない」

ゆーたが学校に行かなくなってから、その思いは一層強くなった。

タバコを止めようか.....？

その思いも日に日に強くなっている。

しかし、まだ最後の踏ん切りがつかないでいる。

「ランナーズ」などという、マラソンの月刊誌を買ってしまった。のめり込むと止まらない性格。
女房はいい加減、あきれってます。(^^)

些細なこと -2000/01/16(日) Vol.144-

ホントに些細なことだった。

ゆーたが僕の「水」を飲んでしまった。

結局はそれだけのことだったのだ。

しかし僕はゆーたに対して、イライラを募らせ、次々とゆーたを傷つけていったのだった。

:*:~!° 。.:*:~!° ° !~*:~!° .:~*:~!° 。.:~*:~!~*:

一度沸騰させた水を、ペットボトルに詰め替え、凍らせたりして水分補給用に何本か冷蔵庫に用意してある。昨日の朝、フト見るその内の一本をゆーたが飲んでしまっていた。
「ねえ、これヤカンのお湯が冷えたら、それをペットボトルに移してるんだよ。せっかく作ってあるのに、黙って飲んじゃいかん〜っ」

最初の内、僕もゆーたも笑いながら、やりとりをしていた。

その内、

「『飲んじゃったよ』、『ごめんね〜』って言ってくればいいんだよ」

とか、僕の方がネチネチ言い続けた。

僕は前の日から、全く別のことでイライラしていた。

そんなイライラが表れたのだろう。ここら辺りはゆーたは敏感だ。

次第にゆーたの言葉も訳の分からないことを言い出したり.....。

終いには

「ゆーたがこうなるのは、悪魔に支配されているからだ！」

「だから謝れないんだ！」

と悪魔を登場させてきた。

:*:~'° 。.:*:~'° ° '.:*:~'. .:~*:~'° 。.:~*:~'.~*:

この「悪魔」だが、学校に行かなくなってから時々登場するようになってきた。

自分の行動や感情を整理できないとき、「何か」を登場させることによって、心の安定を保とうとするのだった。これは、かつては「A君」「Bくん」「Cさん」であったり、通学路にいる「スズメバチ」であったりという具合に、色々と形を変えて登場してくるのだった。

昨日は、更に僕は追い打ちをかけてしまった。

「そっか！じゃパパも悪魔に感染したから、今度ゆーたのものを黙って食べたり、飲んだりするからなっ！」と。

ゆーたは怒った。

「悪魔の感染はそんな簡単なものじゃないんだ！」

僕は、その場を離れ、パソコンに向かい始めた。

ゆーたはブツブツ言いながらゲームを続けた。

:*:~'° 。.:*:~'° ° '.:*:~'. .:~*:~'° 。.:~*:~'.~*:

僕が悪かったのだった。

イライラをそのままゆーたにぶつけてしまって。

メンタルクリニックでは、

「家の中で、のんびり遊んだりすることが大事です。だからお父さんが『鍵』になりますよ」と言われている。

時々、その言葉が重く感じる時がある。

初めて10km走ってみました。時間は1時間0分27秒。

上り下りが何度も出てくるところ。きつかったです。でも、頭を空っぽにすることができました。

5年目 -2000/01/17(月) Vol.145-

この間色々なテレビで、阪神淡路大震災の特集をやっている。

日常生活の中に埋もれてしまっている僕にしてみれば、「そうか、もう五年も経つのか...」というものになってしまっている。

しかし、肉親など身近な人を失った人にとっては、決して「もう」とか「まだ」という簡単な言葉でくくれるものではないんだ、と改めて思った。

:.:.'° 。.:*.'° ° '.:*:. .:*. '° 。.:*...*:

「被災地NGO協働センター」の方たちとお会いしたのは、2年ほど前だっただろうか？ 昨日、5ヶ月ぶりにニュースが届いた。

仮設住宅が撤去され、震災の痕跡は次第に姿を消しつつあるが、だからこそ心の傷跡は、より深く刻まれ続けるのだろうか？

直接体験はしていないものが、とてもその辛苦を語ることはできないにしても、その痛みを想像する心は、決して失うまいと思った。

:.:.'° 。.:*.'° ° '.:*:. .:*. '° 。.:*...*:

僕のHPの「まけないぞう」のページも全然更新してないなあ.....。
今、改めて読み返すと、少し恥ずかしくなってきた。

<http://osamu.net/top/makenaizo.htm>

被災地NGO協働センターのHPはこちらです。
一度ご覧下さい。 <http://www.pure.co.jp/~ngo/>

指名委員会 -2000/01/18(月) Vol.146-

1月の初め、町内の子ども会の来年度役員改選が行われた。

その決め方は、来年6年生になる家庭の中から、これまで子ども会の会長や三役等の大きな役を経験した家庭を除いて、くじ引きで決めるというものだった。

まず、4役(会長、副会長、会計、地区代表)の4人をくじで決め、その後4人の中で上記役割をこれまた、くじで決めるというやりかただった。

くじの前に、我が家の事情を話し、みんなの理解を求めた。

「ゆーたが学校に行っておらず、地域の活動にも参加していない。どうなるかわからない状態の中で、とても責任をおえるような状況ではないから、勘弁してもらえないだろうか？」と。

ホントはその会合に参加するのも気が重かった。

もし、「みんな大変なんだから、それは理由にはならない」とでも言われようものなら、「じゃあ、子ども会を脱会させてもらいます」そう言って帰ってくるつもりだった。

しかし、同じ5年生という事でゆーたと同じクラスの親もいたり、「それはしょうがないわよ」というこ

とで、役員になることを免除してもらった。

:.:.:'° 。.:*:.:'° ° ' .:*:.. .:*:.:'° 。.:*:.:~*:

年明け早々に現PTA会長から、
「OSMさん、来年度のPTA会長をお願いしたいんだけど」
と正式な要請を受けた。それまでも色々な雑談の中で、「来年は頼むよ」と言われてはいた。
ゆーたも学校に行っており、僕としては引き受けざるを得ないかなあ、等とも思っていた。しかし、ゆーたが学校に行かなくなってからは、とても引き受けられないということで、事情を話して断った。

で、次期会長だが、PTAの会則の中に、
「三役を除いた、運営委員(10名)と学年代表委員(6名)で、『指名委員会』を構成し、時期PTA三役を指名する」というのがあり、その会合が開かれた。

:.:.:'° 。.:*:.:'° ° ' .:*:.. .:*:.:'° 。.:*:.:~*:

現副会長の男性二人の中からお願いするということになった。
しかし一人はお父さんが病気で家庭が非常に大変だと言うこと。
また、もう一人は会社の上司から、PTAの活動を来年は自粛するようにとされていると。

他の役員のお母さん。
同居している義母から、
「アンタはいつまで家の事を放りだして、外にばかり出ているの！」
そう言われて、今日の会合に出てきたと言う。

僕などは条件的には非常に恵まれていると思っている。
じいちゃん、ばあちゃんの協力もあるし、仕事も基本的には自由に設定できる。
しかし、責任を持って行う立場にはとても立てない。

:.:.:'° 。.:*:.:'° ° ' .:*:.. .:*:.:'° 。.:*:.:~*:

指名委員会のメンバーで、お宅に伺って時期会長をお願いしに行くのが通例だそうだ。「自分はできませんけれど、お願いします」
僕には、とても言えそうもない.....。

WindowsDTPソフト、PageMakerを使い始めました。
雑誌等を買って勉強始めましたが、よくわからない! (;_;)
誰か初歩的なことから教えてください。(^^)

走るゾ~っ! -2000/01/19(水) Vol.147-

今日、初めてゆーたと一緒に走った。
走った、と言うほどの距離でもないのだが、とにかく走ったことには変わらない。
「あの看板の前」までであったり、「十字路の路上点滅」までの200mにも満たない距離ではあったが.....。

「ポケモンの攻略本とコロコロコミックが欲しいなあ」
「じゃあ、買いにいこっ」

と、いつものストアの横にある本屋さんまで歩いていった時。

「よしっ、あそこまで走るか？」

「いいよっ」

「ごーっ！」

だだだだだっ、と走り出す僕。

負けまいとすぐに僕の前を走っていくゆーた。

「ゴールううううっ！」

呼吸を整えながら、しばらく歩く。

「おっ、前方に本屋発見！ダッシュううっ！」

再び走り始める僕とゆーた。

:*:~'° 。.:*:~'° ° ' .:*:~. .:*:~'° 。.:*:~:~*:

「パパのダイエットが終わったら、ゆーたの番だね」

最近、こんな事をゆーたが口にするようになった。

昨年の夏頃より15kg近く体重が落ちた僕の体つきは、明らかに変わってきた。……でも、まだまだ太い！（;_;）

家にいてばかりいて、ゴロゴロしている自分を何かにつけて気にしているゆーたに「動かないとダメだよ」と家族は何度も言ってきた。それでもゆーたはなかなか動こうとしなかった。

この間購入した「ランナース」の表紙の「ランニングこそ最強のダイエットだ！」なんていうコピーも気になっていたのかもしれない。

「パパも最初走り始めたとき、100mも行かない内に息があがって、情けなかったんだよ……」

歩きながらそんなことを話したり……。

:*:~'° 。.:*:~'° ° ' .:*:~. .:*:~'° 。.:*:~:~*:

2月27日に地元で行われるマラソン大会。

5kmに申し込んだが、女房にはゆーたと一緒に見に来て欲しい、と頼んである。颯爽と走り抜ける姿には程遠いけれど、ゆーたにも応援して欲しいと思っている。

4月16日に行われる小笠・掛川マラソンには10kmに申し込む。

この時は、当日申込み可能な「1kmファンラン」というのが行われる。

女房と一緒に走ってみればいいのになあ、そんなかすかな願望が頭を持ち上げてくる。

「焦らせたくなるのはわかるけどお」 -2000/01/20(木) Vol.148-

例によって例のごとく、出かけるギリギリまでゆーたはなかなか動こうとしない。

今日はメンタルクリニックへ出かける日だった。時間は6時半から。

時間帯によっては20分ほどで行かれるのだが、夕方のラッシュ時には、下手をすると1時間近くかかるときもある。だから、5時半には家を出たいのだ。

昨日買ってきたポケモンの攻略本により、しばらく遠ざかっていたポケモンの金バージョンに再びのめり込み始めた。

「オイ、行くぞお〜」

「チョット待って！今、戦ってるから！」

「オイ、まだか？
「今、ポケモンセンター行くから！」
「早くレポートを書いて！」
「ちょっと待って！」

……。(--;)

やっとの事でゲームを終え、動き始めたゆーた。

「靴下はいて！服ちゃんとして！コート着て！」
「そんないっぺんに言わないでよ～。焦らせないでよ！」

今までなら、こちらのイライラが伝わって、怒り出したりするときもあったが、今日ゆーたの口について
出た言葉は、

「まあ、パパが焦らせたくない気持ちもわかるけれどね」

だった。

:*:.'° 。.:*:.'° ° ।.:*:..。.:*:.'° 。.:*:...*::

今までのやりとりの中、こんな言葉は聞いたことがなかった。

大体、最初は穏やかに。次第に声が荒くなり、それに伴い、ゆーたも怒り出す……。

他者の気持ちを自分の中に取り入れていく、ということは考えてみれば、とても難しいことなのだろう
なあ。

まあ、これでゆーたが大きく成長した、なんてことは毛頭思わないが、こうしたことを一つずつ積み重ね
ていくんだろう。同時に、さりげない我が子の成長をしっかり見つめていくことが大事なんだろうなあ
……。

欲をかいてはいかん、いかん！（^^ゞ

太っていた方が -2000/01/21(金) Vol.149-

突然女房が言った。

「やっぱ、パパは太っていた頃の方が良いよ」と。
「何じゃそりゃ？どういうことだぁ？」

僕は聞き返した。

「いや、別にコロコロしていた方が、良いかなあ、って。ただそんだけ！」

つい数ヶ月前までは

「見るに耐えられない」
「一緒に連れて歩けない」

そんなことを散々言っていたくせに、一体なんだぁっ！
怒るぞぉ！（笑）

側にいたゆーたは、

「そう、そう！パパは太っていた方が良いよ！」と女房に同調。

これは僕の身体がしまっていけばいくほど、自分の運動不足がやり玉にあげられるのが、イヤだからだ。

僕が太っていることが、ゆーたにとっては絶好の隠れ蓑だったのだが、その隠れ蓑が最近、小さくなってきていることにキャツも気がついているのだ！

∴∴∴∴ ∴∴∴∴ ∴∴∴∴ ∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴∴

カウンセラーによく言われる。

「あまり『ダイエット』とか『やせなくてはいけない』という言い方はしない方が良いでしょう」と。

よくわかる。

「ねばならない」が最初に来ると、どうしても自分を追いつめていくことになる。

あくまでも自分が楽しむために身体を動かすのであり、身体を動かすことが目的になっていくと、次第に重荷になっていくのだろう。

学校に行かなくなってから、家からほとんど外に出なくなったゆーた。

僕と一緒にストアまで歩き始めた頃、おじいちゃんやおばあちゃんが「それは良いねえ～。身体を動かさないねえ～」

「家にいてゴロゴロしていたら、どんどん太っちゃうからね～」

とかなり言った。

そう言われれば言われるほど、ゆーたにとっては、「歩く」ことが「楽しみ」ではなく「重荷」に変わってしまったのだ。

∴∴∴∴ ∴∴∴∴ ∴∴∴∴ ∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴∴

いくら女房に「太っていた方が」と言われても、今更、当時に戻るつもりは僕には毛頭ない。

走ることが楽しくて仕方がないから……。

「全く好き勝手言って！」

僕がそう言うと

「また、メールマガジンに書くネタができたでしょ？」

そう言って笑った。

今まで日付とナンバーでしたが、今日から変えてみました。
自分で何書いたかわからなくなってしまいまして……。(^^ゞ

しがらみ -2000/01/24(月) Vol.150-

昨日、我が家にゆーたの学年の主任の先生がやってきた。

丁度近くの公民館で、「公民館祭り」が行われ、子ども達の引率のついでによってくれたのだった。

この主任の先生、実は姉貴の友人。

ゆーたが小学校に入学したときから、ずっと同じ学校。

だから、何かにつけて今までも気を遣ってくれてきた。

とってもありがたいことだと思う。

∴∴∴∴ ∴∴∴∴ ∴∴∴∴ ∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴∴

僕の姉夫婦は小学校の教員をしている。

20年以上もこの地域の教員をしていれば、色々なところで人のつながりはできていく。

校長は、姉貴と以前勤務校が同じだったと。当時は研修主任をしていて、お世話になったという。校長さんが、「OSMさんは、M先生の弟さんなんだってねえ。そうなんですかぁ……」と。

教頭さんと教務主任さんは義兄と面識があり、特に教務主任さんは高校の先輩後輩にあたるとかで、我が家にも昔、寄ったことがあったそうだ。

隣の家に住む僕の伯父は、地域の老人会の会長をしている。

小学校の行事の時など、来賓か何かで来ている人に、

「Hさんの甥御さんなんですかぁ」

等と言われることもある。

親父は親父で、リサイクルの工夫をして公民館に講師でまねかれたりもしている。

こうして考えると我が家の家系は、非常に地域や社会的に貢献しているとは言える。また、「誰々の」という血縁関係がわかると、途端に距離が縮んでいくのも事実。

特に学校に相談したくとも誰に相談して良いのかわからずにいる、多くのお母さん達にしてみれば、羨ましい限りだろうなぁと思う。

確かにそうだ、確かに……。

：*：・'° 。 ..*：・'° ° '°*：..° ..*：・'° 。 ..*：...*：

それでも、やっぱりそうした「しがらみ」がうっとうしく思う。

「誰々の」なんて関係なく、そのままの自分と接して欲しいのに、と。もっともこれは、小さい頃から「優秀な姉貴」と比較され続けてきた僕の歪んだ人生観かもしれないが……。(笑)

姉貴の長女が明日、推薦入試だとのこと。いよいよそういう年齢になってきたんだなぁと思いますね。2年後には甥っ子が、その2年後にはゆーたが、と言う順番ですが、ゆーたはまあねっ！

おはよーっ！ -2000/01/25(火) Vol.151-

今朝は小学校の旗振り当番が回ってきた。

2～3ヶ月に一度くらいの割合で横断歩道に立つ。

時間は7時20分から50分まで。

僕が担当しているところは、小学校の校門近くのため、ラッシュ時(笑)には、結構な数の子ども達を通る。

「チョット待ってね～」 「さぁ、渡ろうっ！」

なんて声をかけながら、子ども達を渡す。

「おはようございますっ！」

元気良く向こうから声をかけてくる子どももいれば、ムスっとした顔の子もいる。横断歩道の手前で、今にも飛び出しそうな子から、足取りの重い子……。実に様々だ。

色々な子ども達が、その子達なりの生活の臭いをさせながら学校に向かっている。

：*：*！° 。：*：*！° ° '！*：*..。：*：*！° 。：*：*...*：

小学生のピークが過ぎた頃、中学生のラッシュがやってくる。
僕の横を通りすぎる中学生達にも、同じように「おはよーっ」と声をかける。

「なんや、このオッサン！」

みたいな感じで胡散臭そうにこちらをチラッと見て、通りすぎるのもいれば、ニコッと笑って「おはよーございます」と応えてくれる中学生もいる。

顔に似合わず声変わりをしている男の子。

眉毛をそって、ついつい学校生活で生活指導の先生達とのバトルを思い浮かばせる女の子。

一人でうつむきがちにゆっくりゆっくり学校に向かっている子.....。

：*：*！° 。：*：*！° ° '！*：*..。：*：*！° 。：*：*...*：

「最近の子ども達は、挨拶ができなくなっている」

色々な親の集まりでそんな声を聞くことが多い。

「もっと挨拶ができるように、大人から声をかけていきましょう～」

「挨拶運動などをやっていきましょう～」

確かに一理あると思うのだが、ホントにそうなのかなあ？

挨拶は強制でやるものではないし、時には挨拶したくもないような朝もあるのではないだろうか？挨拶どころか、学校の行くのがイヤでイヤで、かといって休むわけにもいかず.....といった子どもには、「おはよー」どころか「バカヤロー」ってな感じではなからうか？ そんなことを思う。

挨拶ができないよりはできる方が良い。

けれど、子ども達が気持ちよく挨拶のできるように、家庭や学校、社会からもっともっとストレスをなくしてあげてくれる方が、先だと思うのだが？

説得力 -2000/01/26(水) Vol.152-

「口で言ってわからなければ、身体で覚えさせるしかない」

そう言う考え方がある。

「口で言ってわからないことが、暴力でわかるはずがない」

一方の考え方。

「体罰」の一番の恐ろしいところは、それが表面的であるにしても、一定の効果が表れるところにある。また、表面的であることに気がつかずに、「効果があるのだ」と思いこませるところにある。

僕は、体罰などが何の効果も持たないと思っているから、暴力に訴えることは基本的にはしてこなかった。

.....若気のいたりで、ということはあったし、息子に対しても二度ほど、感情を抑えられずにひっぱいたこともあったが.....。

ただ、「口で言う」だけで相手を説得し、納得させる力もないんだなあ、とゆーたと毎日付き合う中で強く感じる。

:.:.:'° 。 .:.:.:'° ° ' .:.:'. .:.:.:'° 。 .:.:'.:.:':

昨日、例のごとくストアーに買い物に行くとき、

「よし、走るかぁ～！」

と僕が走り出した。

「ダイエットになるかなあ？」

そう口にしながら一緒に走るゆーた。

ゆーたが疲れて歩き出しても、僕はその横で足を動かしながら歩くスピードに合わせる。

ひと頃の僕よりも、体重にして15kg近く、ウェストにして13cmほど縮まった。と言っても、決してスマートには程遠い体型だが、少なくとも毎日見慣れている家族の目にも、「身体がしまった」というのははっきりわかるのだった。

ゆーたは最初、僕の体型が変わってきたことを認めようとしなかった。

ゆーたの心の中には、「パパだって太っているジャン！」という思いが根強くあったことと思う。

しかし、最近、僕が外を走っていることも知っている。

昨日の帰り道、走っては歩き、歩いては走りながら、

「こうやって身体を動かすことは、とっても気持ちいいんだなぁ、ってパパは思うようになったよ。ゆーたのため、っていうよりも、自分のために走ってるんだぁ」

そう言った。

「うみゅー……」

「どう？ 最近パパの言うこと説得力あるでしょ？」 (^)

やや勝ち誇った気持ちを抑えながら僕は言った。

「うみゅ～！ (^ヾ」とゆーた……。

:.:.:'° 。 .:.:.:'° ° ' .:.:'. .:.:.:'° 。 .:.:'.:.:':

「子どもは親の背中を見て育つ」とはよくいわれる言葉。

ゆーたも僕の背中を見ているのだろうか？

少なくとも、ゆーたに見つめ続けられる親でありたいと思った。

まぁ、ゆーたが見てるのは、おなかの贅肉なのかはわからないが……。

些細なことでのゆーたとの喧嘩。相変わらずですね。

そんなゆーたと僕のやりとりを女房やカウンセラーは、子ども同士の喧嘩みたいだ、と。まっ、いっか！ (^ヾ

ゆーたのため？～キックボード (^ヾ -2000/01/27(木) Vol.153-

我が家は二世帯住宅。

二階の居住部分には、畳はなく全てがフローリング。

これは女房の意見でそうなったわけだが、僕としてはコタツ蜜柑に未だに憧れてはいる。

でも、そのフローリングの床が役に立っている。

衝動買いした「キックボード」が気に入ったらしく、アチコチにぶつかりながら、室内を乗り回っている。

:.:.:'° 。 .:.:.:'° ° ' .:.:'. .:.:.:'° 。 .:.:'.:.:':

この「キックボード」というヤツ。昨年辺りに日本で発売され、ブレイクしているとかどうかで、何度かテレビなどでも見たことがあった。

簡単に言えば、スケボーみたいな板に前輪と後輪、そしてハンドルがついたようなもの。(う～ん、表現が難しい!)

最近散歩のついでに少し走ったりと、身体を動かすことに多少ではあるが抵抗がなくなってきたことから、インターネットで色々と情報を仕入れ始めた。

自転車に乗れないゆーたの移動手段として.....。

少しでもバランス感覚が養えるように.....。

キャンプなどで手軽に持って行かれる.....。

外に出て遊ぶきっかけに.....。

等と色々理由をこねくり回してみたが、一番は、僕自身が欲しい!面白そうだ!やってみたい!というのがある。(^^ゞ

スポーツショップに片っ端から電話をかけまくったが、欲しかったK2のキックボード(¥38,000)は全然見つからず、Razorのキックボード(¥15,800)がやっとのことで見つかった。

:*:~!° 。.:*:~!° ° '!:*:.。.:*:~!° 。.:*:~!~*:

金額が金額だけに、正直悩んだ。

ハードディスクも欲しいし、メモリーも増やしたい.....。

木曜日はメンタルクリニックに出かける日。

クリニックでもその話をした。

「お父さんが楽しんでいる姿が一番ですよ!」

その一言が僕の心を軽くしたのだった!

しかもその店は運がよいことに(?)クリニックの通り道にあたりしたのもだから、これはもう止まらない。なけなしの貯金(ホントに何もなくなった!)をおろして、買ってしまったのだった。(笑)

:*:~!° 。.:*:~!° ° '!:*:.。.:*:~!° 。.:*:~!~*:

「せっかく買ってあげたのに!」

僕自身も何度もこの言葉を口にしてきた。

でも、結局これって親のおしつけだったのかな、と思ったりもする。

「ゆーたのため」によかれと思ってすることが、かえってゆーたを追いつめている事ってあったんだろうなあ、と最近気がついた。

反省、反省! f(^^ゞ

「キックボード」って何?という方へ。こちらのHPがわかりやすいです。

<http://user2.allnet.ne.jp/yochi-uhiji/kb.html>

どこぞにK2のキックボードがないでしょうか?

もし、見かけられたらご連絡下さい。欲しいです!

K2 Japanの取り扱いショップ一覧は、こちら!お近くの方は是非、足を運んでみてください!

(爆)

<http://www.k2-japan.co.jp/kick-shoplist.html>

Razor のキックボード、昨日行ったお店に、まだ、5 , 6 個ありました。
全国的に品薄状態が続いているみたいですが、2月の初めには入荷されるらしいです。

ヒット！～キックボードにトライ！～ -2000/01/28(金) Vol.154-

今日も昼間、ゆーたは家の中でキックボードをゴロゴロ走らせて(?)いた。
「オイ、外でやろうぜ～！」
いくらそう言っても、
「う～ん、まだ家の中で練習してからの方が……」
と気が乗らない様子。 (--;)

「パパ、タバコが切れたから、買ってくるから。キックボード外におろすぞ！」
「え-----っ！まだ早いよお！」
「だって車で行くと、CO2をばらまくから、キックボードの方がいいだろ？」
「うーうむっ、仕方がない！」
と渋々ゆーたは納得した。いや、無理矢理納得させた！(^_^)

:.:.'° 。.:*:.'° ° '.:*:.。.:*:.'° 。.:*...*:

アスファルトの上は、フローリングとは比べものにならないくらい、ガタゴトしている。路面のショックが足にダイレクトに伝わってくる。調子に乗ってヒュンヒュン走らせると、結構足にこたえる。

しかし、一番楽しかったのは、道行く人達が「なんじゃこりゃ？」という顔をしてこちらを見ていること。コンビニにいた高校生は、それこそ「何、このオッサンは？」ってな感じで会話を中断してしまった。小学生にも出会った。4、5年生くらいだろうか？目を丸くして、じい~っとこっちを見つめ続けていた。

僕はそうした目を意識しつつも、素知らぬ顔をして走り抜けていった。

:.:.'° 。.:*:.'° ° '.:*:.。.:*:.'° 。.:*...*:

コタツの中に縮こまっているゆーたを何とか外に引っ張り出した。
「怖くないよ。そんなスピードが出ないから。大丈夫だよ」

ゆーたは、自分のバランス感覚が悪いと言うことを知っているのだ。だから、外でやることに対して、極端に臆病になっているのだ。

ところがやり始めたら、自分が思っていたほど難しくないし怖くもない、と言ったところだろうか？ 僕がいくら「今度はパパの番だ」と言ってもなかなか譲ろうとしなくなってしまった。30分くらい外で遊んでいたが、最後の方では、バランスをとりながら、くるっと方向転換もできるようになってきた。

ゆーた曰く
「これ、なかなかいいジャン！」
だと。(--;)
ゆーたの喜んでる顔を見ていると、僕も嬉しくなってくる。

「ゆーたっ！これ、ヒット商品だろ！」
「ウン、そうだね！でも、アウト商品ってあるのかなあ？」

キックボードに乗りながらそんなことを話していた。

Razorのキックボード、もう一台欲しくなってしまうなあ～。
二人でガラガラやったら、もっと楽しいだろうなあ……。

意志 -2000/01/30(日) Vol.155-

いよいよ今月も明日でお終い。早いもんだ、あれだけ騒がれた2000年も12分の1が終わってしまうのだから。(--;)

昨年末から始めた屋外でのジョギング。

走った日と距離を記録している。

この1月に走った距離が、94 km。明日6 kmほど走れば、100 km走ったことになる。

本当にマラソンが好きな人は、一ヶ月に何百kmも走ると言うから、それから考えたら、「屁」みたいなもんかもしれない。でも、人は人、僕は僕。よくもまあ飽きずに走ってきたもんだと、自分で誉めてやろうと思っている。

：*：*’° 。：*：*’° ° ’*：*..：*：*’° 。：*：*...*：

月刊誌で「ランナーズ」というのがある。

3月号の記事の中にこんな一節があった。

「人が走らない理由など、実は無数にある。逆にランナーがランナーになった理由は一つしかない。『走る意志を持った』ただ、それだけなのである」

なるほどなあ、と。

今まで何度も女房に「毎日20分で良いから、歩きなよ！」と言われても生返事だけで、結局は何もしてこなかった。ただひたすら膨張を続ける身体に「これじゃあいかんなあ」とは思いつつも、呟くだけだったあの頃から考えると、この変容はどこから来ているのだろうか？

「走る意志を持った」という言葉は僕の心にストンと入ってきた。

まあ、僕の場合はランナーではなくジョガーだが……。

：*：*’° 。：*：*’° ° ’*：*..：*：*’° 。：*：*...*：

ゆーたはいつになったら、自分の足で歩き始めるのだろうか？

その「いつ」がわからないが故に、苛立ったりのする。

「いつ」であるかはゆーた自身が決めていくこと。それを「待つ」こともまた、意志なのだろうか？

—昨日夕方のテレビで、足をワイヤーのようなもので切断された子犬のニュースをやっていました。愛らしい子犬の表情と、切断された前足。思わず目を背けてしまいました……。

登校刺激 -2000/01/31(月) Vol.156-

夕方、例によってストアーに出かけ家に戻ってくると、車が一台止まっていた。

「もしや」と思ったら、案の定学年主任の先生だった。

公民館祭りの時に、ゆーたが書いたCさんへの手紙の返事を持ってきてくれたのだった。手紙には「ごめんなさいね」と書いてあった。

「今度の土曜日には、学校おいでよ」
そう声をかけて帰っていった。

:.:.・'° 。 .:.*:・'° ° ' .:.*:.. .:.*:・'° 。 .:.*:....*:

あの手紙をどうしたんだろうか？とずっと気にはしていた。
日頃のゆーたの言動から考えると、Cさんを傷つけるには十分すぎるほどの内容だと思うのだ。
もし、Cさんが「自分のせいでゆーた君が学校に来られなくなった」と受け止めたとしたら、どうだろうか？ Cさんの問題ではなく、ゆーた自身の問題に起因するところが大きいのだから。
無論、クラスの友達を初めとして、学校の中のいたるところにゆーたを追いつめる要因があったのは事実だが.....。

Cさんを傷つけないためには、なんらかのフォローが必要になる。
どんな風にフォローしてくれたのだろうか？

現在病気で療養中の担任の先生とは、友人の問題は本質的な問題ではなく、表面的な問題だから、ということ、当事者には何も言わないできた。

学校の先生が気にしてくれるのは嬉しい。「学校に顔を見せて欲しい」という思いもわからないではない。でもなあ、そうしたことを素直に喜べない自分がある。

:.:.・'° 。 .:.*:・'° ° ' .:.*:.. .:.*:・'° 。 .:.*:....*:

女房に話をし、Cさんからの手紙を見せた。
女房も僕と同じ反応をした。

「ゆーたが学校に行っていないと、ホント気楽だわ〜」
あっけらかんと言う。
「朝だって急がなくて良いし、夜だっていちいちせかさなくて良いし」

全くもってその通り。(^^)

いよいよ2月です。雪道走行が目前に迫っています。ドキドキ.....。
色々メールでのアドバイス、ありがとうございます。
1月の走行距離、101kmでした。わあ、すごーい！
颯爽・軽快とは程遠いドテバタした走りですが、気持ちいいです。

2000年2月

変質者 -2000/02/02(水) Vol.157-

ようやく来年度の登校方法を説明する地区会が終わった。
先週の月曜日から始まり、計8ヶ所の会場で行われた。

その内僕は、6ヶ所に参加して来年度の方針等を説明した。
こうした説明などは、今までの経験からさほど苦になるものではなかったが、それでも疲れた。

教育、子育てに関する考え方がホント色々あるんだなあ、と改めて思った。
地域毎にコミュニケーションが取れているところと、そうでないところ、全く説明会の雰囲気が違う。

：*：*’° 。：*：*’° ° ’*：*：*。：*：*’° 。：*：*：*’*：*

子ども達の安全を各家庭、各地区でもっと考えていこう、というのが今回の説明会の主眼だったが、折れもおり、一昨日、学区のある地域で変質者が出た。

被害にあったのは一年生。
警察に通報し、昨日もパトカーで巡回中に再度表れたとのこと。
結局、パトカー3台が追いかけたが、その変質者は、車を竹藪に乗り捨て逃げていったということだった。

：*：*’° 。：*：*’° ° ’*：*：*。：*：*’° 。：*：*：*’*：*

何の理由もなく幼い命が奪われていく。
そうしたニュースを聞くたびに、胸が締め付けられる。

今の集団登校も、結局は車社会が子ども達を道路の隅に追いやった。
確かに、道は色々な危険もあるけれど、それ以上に楽しいものだった。
子ども達が、どんどん隅に追いやられていく……。

タイヤチェーン買ってきました。
早速取り付けてみましたが、うまくいかなかった……。(；_；)
特訓しなくては！

公約書（笑） ~ 財布の中には……(；_；) -2000/02/03(木) Vol.158-

朝、女房が出かけるときに、お金をもらうのを忘れていた。
僕の財布の中には、1000円札が一枚しか入ってなかった。
銀行に行っても、この間キックボードを買ってしまったので、残金は数百円しかない。タバコも買いに行かなければならない……。
毎週木曜日は、ゆーたと一緒にメンタルクリニックに出かけるのだが、診察代は1400円。それすら払えない……。

出かける前に、
「ゆーたあ～、今日、お金を貸してくれない?????」
「絶対に返してくれる？」
「返す、返す！今までだって、ちゃんと返してただろ？」
……これは半分、嘘。少し心が痛んだ。
「ウン、わかった。いくら？」
「3000円でいいから……」

：*：*’° 。：*：*’° ° ’*：*：*。：*：*’° 。：*：*：*’*：*

ゆーたは何やらゴソゴソやり始めた。

紙と鉛筆を持ってきて、

「じゃあ、公約書を書くからね」

「ん？ 公約書？ なんじゃ、そりゃ？」

「だから、お金を貸した、ってことをちゃんと書いておくの！」

「だあ、それは借用書。それから、借用書は、借りた方のパパが書くヤツなの」

「ふうん、そっかあ～」

そう言いながらもゆーたは一度書いた「公約書」という文字を消して、「借用書」と書き換えていた。

.:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.. .:*.:'° 。.:*...*:

行きの車の中、

「『公約』っての、知ってるか？ 選挙なんかの時にみんなにする約束のことだよ」

「.....」

「『誓約』って知ってるか？ これは誓って、約束する、ってことだよ。『ゲームがうまくいかなくても、怒ったり、人に当たったりしません』って、誓ったりすることだぜ」 (^)

「だああああああつ！」

「わかったかあ？」

「ふみゆううううううう??????」 (@_@)

.....

メンタルクリニックから帰ってきたのが8時前。

急いで食事をして、お風呂に入って、テレビを見て、9時過ぎに女房と一緒に布団に入ったゆーたは、すっかり「借用書」の事を忘れていた。

明日になってもゆーたは、3000円の事を覚えているのだろうか？
忘れてくれたら嬉しいが、反面、悲しい部分もあるなあ.....(--;)

久々の学校 -2000/02/05(土) Vol.160-

実に、4ヶ月ぶりだろうか？

今日、ゆーたは久々に学校に行った。

これは、学年主任の先生の電話と、Cさんからの手紙が「行ってみようかなあ」という気持ちを起こさせたのだと思う。

「行ってみいたいなあ、っていう気持ちはあるの？」

「ウン、すこ～っしはねっ」

僕としてはどうしても気が乗らなかった。

臆病になっているのだろう。ゆーたがまた学校でイヤな思いをしたら...そうした事を考えてしまう。

「とりあえず保健室と職員室に行って、教室に行くか行かないかは、様子を見て決める」

そういうゆーた。

やはり本人も、色々な友達(?)に会うことには、ある種の警戒感があったのだろう。

。 .:*. '° 。 .:*. '° ° ' .:*. .。 .:*. '° 。 .:*. .:*.:

受付には、ゆーたのお気に入りの先生がいた。

職員室に顔を出すと、校長先生、教頭先生が嬉しそうな顔をして、ゆーたに声をかけてくれた。

保健室の先生は、涙を流さんばかりに喜んでくれた。

一人で行くのはどうも、というゆーたの要望に、保健の先生は新しい担任の先生を呼んできてくれた。病気で入院している担任の代わりとしてやってきた23歳の先生だった。

第一印象は、とってもさっぱりした感じ。なかなかいい雰囲気を持っている。その先生にお任せして僕は、しばし職員室で校長さん教頭さんとお茶を飲みながら話をしていた。

その後、体育館で行っているPTAの企画のお手伝い。

行事の終了のアナウンスがあり、再び保健室に行った。

。 .:*. '° 。 .:*. '° ° ' .:*. .。 .:*. '° 。 .:*. .:*.:

ゆーたはとっても楽しそうだった。

案ずるより、と言ったところだろうか？

でも、僕としてはゆーたをとりまく学校の状況が本質的には変わっていないと思っている。

心配するのは、これからますます「学校においでよコール」が激しくなるのでは、ということ。

帰り道、

「今日は行事だから行ったんだからね」

と何度か繰り返すゆーた。

「いいよ、それで。決して無理したらいかんよぉ～」

保健室の先生は、

「お父さん、本当に良かったですねえ～。教室に行けなくても、保健室に来られただけでもすごい進歩ですよね。」

ううううううう.....。

不登校の親は、もっと喜ばないといけないのだろうか？

とても複雑な心境だった。

ただ、「楽しかった」という思いをゆーたがしたことは、とっても嬉しかった。

人物像 -2000/02/06(日) Vol.161-

朝からテレビで、大阪の小学生殺害事件の容疑者が自殺した、というニュースがひっきりなしに流れている。

例によって、精神科医の登場。今回は警察のOBとかも出てきて、捜査のあり方に対する批判が延々と繰り返されている。

一方では、新潟での9年間に及ぶ誘拐、監禁事件のニュース。

いずれにせよ、「犯人の人物像」と言うものが、これでもかという具合に語られている。

「中学時代はどうだった」「高校時代は……」「仕事に就いても……」etcetc。

僕はこの「人物像」というヤツに、何とも言えない嫌悪感を覚える。

:.:.'° 。.:*:.:'° ° '.:*:.。.:*:.:'° 。.:*:.:.'*:

悲惨な事件が多すぎるし、同じような事件が再び起こらないように事実をきちんと整理することは確かに大切だろう。しかし、中学時代の顔写真を見せたり、同級生や近所の人にインタビューして何になるというのだろうか？

そして、断片的な情報を元に、さもその人間を知っているかのように、分析をする人達……。

中学生時代に色々不安定になるのは当たり前だろ？

無口な人間がいたって当たり前だろ？

不登校になるのは、特別な子どもだけじゃないぞ！

結局は、マスコミから報道される、「人物像」とセットになった言葉だけが一人歩きを始めていく。そしてその言葉に踊らされ、ますます我が子が見えなくなっていく親達が増えていく。

最近、遺族や被害者への興味本位的な取材は、なりを潜めてきているが、その分だけ、犯罪に対する「分析」が一層時間を費やされているように思えてならない。

Gコード -2000/02/07(月) Vol.162-

全く便利で簡単になったものだと思う。

昨年、長い間使っていたビデオが調子悪くなり買い換えた。

その際、一番のポイントは「簡単にビデオ録画ができる」ということだった。

以前のビデオは、Gコードがついておらず、確かに面倒くさいと言えば面倒くさかった。

ビデオの録画は、僕よりもむしろゆーたや女房がよく使った。

二人は夜9時過ぎには寝てしまうため、面白い番組があると決まって、「ビデオ録画しといて！」という言い残して、さっさと布団に入ってしまう。

そして、大体、そのビデオは見ないまま、いつしかどこに何を録画したのかわからない状態になる。

:.:.'° 。.:*:.:'° ° '.:*:.。.:*:.:'° 。.:*:.:.'*:

「今度のビデオはね、Gコードってボタンを押して、番号を入れて、決定をおして、転送、それでお終いだからね！」

この新しいビデオの機能に、一番感激したのは僕だった。

これでビデオ録画のうっとうしさから解放されると。

その認識がいかに甘かったかと思い知らされるのに、それほど長い時間はかからなかった。 (;_;)

本質的に女房は、機械が嫌いなのだ。

たとえいくら簡単だ、と言ってもボタンが並んでいるだけで、拒否反応を起こすらしい。いくら説明してもわからない。いや、わかつてほしい。頭っから「私は機械はダメなのよ」という姿勢を頑なまでに崩そうとしない。あわせて「マニュアルを読む」ということもしない。

「ホラ、ここに書いてあるでしょ？」

僕の知っているお母さん達の中には、旦那が機械の事が全然ダメで、パソコンの色々な設定もマニュアルを見ながらやっていると言うのに.....。

結局は頼れる人間がいるかないか、ということなのだろう。

まあ、これ以上言っても、仕方ないだろうと思いつつ、「ビデオ撮っておいて〜」といわれる度に、「自分でやれよ!」とプツプツ言いながら、Gコードを調べるのだった.....。

雪 -2000/02/09(水) Vol.163-

僕は高校3年生の3月4日まで、横から降って来る「雪」しか知らなかった。

「上州の空っ風」と同じように(?)、遠州の空っ風と言うくらい、浜松市は風が強い地域だ。「雪」は南アルプスからの冷たい風に乗って、横から降って来るものだった。それしか見たことがなかった。

ある朝、目がさめたら雪が積もり、真っ白な世界になったことがあった。古いアルバムの中に、模型の飛行機を持って、雪の中に立っている、小学校時代の写真がある。それくらいだろうか？

1976年3月5日。

大学受験で岡山に行った時のことだった。試験場に向かう途中、空から雪が降ってきた。そう、「上から」雪が降ってきた。何故か嬉しくなって、ずっと空を見上げていた覚えがある。雪は上から静かに降るものだと、初めて知った。

:*:~!° 。:~*:~!° ° ~!*:~!° 。:~*:~!° 。:~*:~!*:~!*

この正月に、スノーシューというものを体験した。

「西洋かんじき」と言われる、かんじきの踵が自由になるようなものをはいて裏山などを散策する。別に技術も何も無い。ただ、ただ、雪の中をゆっくりゆっくり歩いていく。

新しい雪の上に、リスや小動物などの足跡が、点々と続いている。

「キュッ、キュッ」と歩くたびに雪が鳴る。

スキー場のような喧噪もなく、形作られた美しさもない。

白い世界がそこにはあるだけ。

雪の中を駆け回るゆーた。

駆け回ること自体が楽しいのだ。

いよいよ明日からは、白馬へ出かける。大雪も峠を越したようだ。

ゆーたもとても楽しみにしている。勿論、僕も女房も.....。

「北国」で生活する大変さを何も知らないからだろが、どうしてこんなに心が躍るんだろうか.....? (^)

白馬から、もし、アクセスできたら、現地レポートをお届けします。ま、多分、無理でしょうから明日から土曜日まではお休みします。

「楽しかったねっ!」 -2000/02/12(土) Vol.164-

お昼過ぎ、正月の時には時間切れで断念した、「かまくらづくり」が何とか完成した辺りから、ゆーたの「帰ろう〜」が始まった。5時半からのテレビが何ともして見たいというのだった。

「もう、今から出ても間に合わないよ」

「急げば、間に合うかもしれない!」

しばし、そんなことを言い合った。

時間的に見ても間に合うわけがないし、ゆーたもそれは無理だということを薄々わかっている。しかし一端口にした以上、次第に意固地になって、我を通そうとする。

「もう少し、辺りを散歩してくるけれど？」

ガイドの吉沢のおばちゃんを先頭にして、女房達は、再び散策に出かけた。
後には、僕とゆーたの二人が残った。

「一番確実なのは、パパの知り合いに電話で頼むことだろ？それで良いだろ？」

最後には、僕の語気もかなり荒くなっていたと思う。
ゆーたは涙を流していた。

:.:.'° 。.:*:.:.'° ° '.:*:.:.'° .:~*:.:.'° 。.:*:.:.'°:

今日のスノーシューは、冬場で使われていないゴルフ場。あちこちに、斜面がある。
適当な斜面を見つけ、持ってきたソリを僕は始めた。
これが面白い。
スピードも出るし、最後にはサラサラの雪の中に突っ込んでいって止まる。

「ゆーた、めっちゃ面白いぞ！」

少し顔をあげた。

ベキッ！

雪の中に突っ込んだ途端に、ソリの一部が割れた！

「わ、われたぁ～っ！」

ゆーたがこっちにやってきた。

.....

自分の気持ちを切り替えるきっかけが、ゆーたも欲しかったんだと思う。

女房達が戻ってきたのは1時間半近く経ってからだった。

その間二人で、延々と斜面をソリで滑っては雪の中に突っ込み、転げ回って笑いあった。

「こう言うところに来たら、浜松じゃぁ絶対にできないことをして楽しまなくっちゃ！」「ふみゅう……」とゆーた。

帰りの車の中、「楽しかったねえ」「また、いこうねえ～」と言い続けていた。

僕たちが泊まった「峠方」では、携帯も「圏外」でした。(J-Phone)
さすがに6時間の運転は疲れました。「白馬あれこれ」は、明日にでも。

白馬あれこれ -2000/02/14(月) Vol.165-

～スタッドレスタイヤ～

白馬駅を過ぎたところから、右折。

駅前の賑わいとはほど遠い所にみねかたスキー場はあった。

途中、路面が凍結していたり、雪が積もっているところがあったり。

雪の中をノーマルタイヤで走る怖さを体験している僕にとっては、雪は恐怖の対象に変わっていた。

ところがどうだ！

スタッドレスタイヤは、そんな道をもものともせず、どんどん進んで行くではないか！ いやあ、ホントすごいやっ！

用意したチェーンを使うことなく、宿泊地に着いた。

二日目は更に雪が降り、みるみるうちに車は白くなっていった。

勿論道路も、昨日以上に真っ白に。

道行く車はチェーンをつけていない。それが一つの目安だと教わった。

「凄い！ 凄い！」を連発する横で、女房は、「この人、一体、何はしゃいでんの？」というふうで、僕が「凄い」と口にする度に、「はいはい」と返事をしていた。

～宿～

宿舎に着いた。

電話で予約をしたときから女房は「なんか無愛想だなあ」と言っていた。

「じゃあ、やめればいいじゃん！」と僕。

「でも、安いんだもん」

「そうかあ？」

それ以上、何を言ってもダメだとわかっていたから、僕は黙った。

「大学生の合宿所ね」

開口一番女房が言った。

部屋には金庫もない、電話もない。風呂もいまいち……。

風呂から上がってきた僕に、

「ねえ、明日は他の宿を探そうか？」

と言ってきた。

「何を今更！ だから言っただろ？」

「だってえ……安さに負けたんだモン！」

ブツブツブツブツブツ……………。

「ま、この次にしようかっ」

最後には、そう言って覚悟を決めたようだ。

部屋のドアを開ける音。壁の向こうから聞こえる話し声。廊下を歩く足音。スリッパのぱたぱた。階下から聞こえるくぐもった声。

何だろう、この雰囲気は？

そう、大学時代の「下宿」だと思った。20年以上前の「下宿」だ。

～見栄～

レンタルスキーの申込書に、「スキーは？ 初めて、初級者、中級者、上級者」という欄があった。

一瞬、迷った。勿論初めてではないが、中級者か？ と。しかし初級者というところに をつけるのもなあと。

その欄を飛ばして、住所や氏名を記入した。そして最後に、「中級者」の欄に をつけてしまった。(笑)

一番上まで行って降りてくる時、途中でコースが分かれる。

右は「初・中級者コース」。まっすぐは「中・上級者コース」。そこに来るたびにためらい、そして、一瞬のためらいの後、僕は右のコースを選び続けた。

何度目だろうか？ 例の「ためらい」をしている僕の横を、まだ、小学校前くらいの子どもが、「ボーゲン」で突っ込んで行くではないか！ 僕は、後に続いた。

我慢、我慢！ -2000/02/16(水) Vol.166-

何を思ったのだろう、ゆーたが突然貯金をしたいと言い出した。

聞くと、「チビまるこ」のお姉さんが一年間で8万円をためたから、自分もためるのだ、と。しかし、キャッシュは銀行にお金を預けておけば、勝手にお金が増えていくと思っていたらしい。(--;)

「世の中、そんなに甘くはない！がははははは！」と僕は笑った。

「なんだあ、そうだったのかあ……」とゆーた。

「でも、沼津に行ってお小遣いもらったら、少し遣って、後は貯金するようにしたらいいんじゃない？」

そう言って、二人で銀行に出かけた。

しかし、子どもが通帳を作るのに、保険証か住民票が必要とのこと。

スゴスゴと引き返し、明日また出直すことにした。

:.:.'° 。.:*:.:.'° ° '.:*:.:° .:~*:.:.'° 。.:*:.:~*:

夕方、コロコロコミックを買いにコンビニに歩いていった。

レジの所にカードがあり、ゆーたは手に取った。

どうするのかなあ？ そう思っていると、

「ウン、我慢、我慢」

そう言って、また、そのカードを元に戻した。

へえっ！ 今までにないことだなあ、そう思いながら二人して、また、冷たい風の中を帰った。

No.5596 -2000/02/17(木) Vol.167-

来週の日曜日に出る、「天竜杉の里ロードレース大会」のゼッケン引換券が届いた。番号は「5596」。いよいよ近づいてきたなあ、という感じがする。

僕がエントリーしたのは5 km。他にも10 km、20 kmがあったのだが、今回はとりあえず参加して、完走することが目標。

1月の後半から、週に3日は6、7 kmを走っているから、まあ、完走はできるだろうとは思うけれど、いざ、レースに出るとなると色々わからないことがある。

ゼッケンってどうやってつけるんだろう？

コースには距離の表示ってあるんだろうか？

レースに出るときは何を着たら良いんだろう？

着替えは？

……。

僕の通っている、スポーツクラブにもこのレースに参加する人がいるから、色々聞いてみようとは思っている。

でも、自分の知らない世界を体験するドキドキするのは、良いもんだと思う。

何かしら、小学校の頃の遠足前の気分だ。(^^ゞ

嗚呼、役員改選 -2000/02/19(土) Vol.168-

次期PTA会長がなかなか決まらない。

以前にもお願いしに行った現副会長からは、職場からの強い要請で、これ以上役員はできないと断られた。

委員会で、再度会合を開き、別の人に頼みに行くことになった。

火曜日、指名委員会(*)のメンバー全員で、次期会長候補者のお宅までお願いしに行ったが、「家庭の理解が得られない」と断られた。その後、学校に戻りみんなと相談し、再度、木曜の夜、現PTA会長と指名委員会委員長、小 学校の先生、僕の4人で突っ込んだ話をしようということになった。

で、木曜の夜は、「自宅はまずい」というので、近くの喫茶店に行き、結局10時半過ぎまで話しあった。その席上、僕も「 さんが会長をやるなら、僕も一緒にやりますから」と言った。

結局、「家族の反対が大きいけれど、とにかく話をしてみる」ということで僕たちは別れた。感触的には、本人はやるしかないかなあ、と言った風。

:*:~'° 。.:*:~'° ° '°*:~.。.:*:~'° 。.:*:~:~*:~:

昨日の朝、現会長から電話があった。

「夕方学校に来てくれないか？」とのこと。

「昨夜、僕たちが話をしているときに、奥さんから僕の自宅に電話が入ってずいぶんきついことを言われたみたいで、家に帰ったら女房が泣いていた」というのだった。

5時。PTA会長、校長、教頭、教務主任、僕の5人で話しあった。

奥さんは、学校にやってきて、校長さんに「今は子どもも小さいので、会長は勘弁してください」と言ったとのこと。

重苦しい時間が過ぎた。

結局、「んじゃあ、僕がやるよ」と言ってしまった。(--;)

:*:~'° 。.:*:~'° ° '°*:~.。.:*:~'° 。.:*:~:~*:~:

家に帰り、女房に話をした。

「ばっかだねえ……。パパはいつもそうなんだから！」

「しょうがないだろっ！ よしこだって一緒だろ？」

ゆーたが行っていない学校のPTA会長かあ……。

何とも気が重いのが、まっ、ネタ的には面白いだろう、と自分に言い聞かせた。

「指名委員会」…小学校のPTAの規約で、
「次期会長は指名委員会が指名する」指名委員会は、PTA運営委員と各学年代表6名」で構成する、
となっております。

i モード -2000/02/20(日) Vol.169-

手に入れてしまった。

例のごとく、女房には「ばっかだねえ~っ！」と言われた。

そして決まってその後には、「お金もないのっ！」と続くのだ。

きっかけは、みねかたのスキー場でJ-hpone が繋がらなかった、というのもあるが、それが大きな理由ではない。

先だって、「新日本探訪」の再放送を見た。内容は、「聴覚障害者の文字通信」。今までコミュニケーション

ンに非常に苦労していた人達が、PHSや携帯のメール機能を使うことによって、新しいコミュニケーションを生み出しているというものだった。

その中のある人の言葉が心に残った。

「PHSを家に忘れるなんてことはありません。私にとっては身体の一部です。耳や目を家に置いていく人はいないでしょ？」と。

:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.. .*:.'° 。.:*:...*:

携帯、PHSに関しては、むしろ犯罪に使われたりといった、マイナスイメージが強調されるきらいもある。僕ももう一つ、興味を持ちつつも、手を出していなかった。

聴覚に障害を持っている人だけではなく、新しいコミュニケーションツール、情報収集、発信の手段としての携帯、PHS。その辺りを見定めてみたいなあ、そんな思いがした。

:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.. .*:.'° 。.:*:...*:

一番気になるのは、やはり通信料。

昨夜は、iモード対応のHPをみたりしていた。

昨日一晩で「178円」のポケット通信料がかかった。

「ばっかだねえ～っ」とまた、女房に言われそうだ……。(^_^)

家族で陶芸 -2000/02/21(月) Vol.170-

我が家が二世帯住宅にしたのは、今から8年ほど前。

女房と僕のお袋との折り合いが悪く、一時期は親子三人で暮らすためのアパートの契約まで行った。

折り合いと言っても、ほんの些細なことの食い違いなのだ。みそ汁の味、洗濯の仕方、食事のおかず、子育ての考え方……。些細な溝であっても、どうしようもない感覚のずれの中で、毎日顔を付き合わせるのやはり大変なことだったと思う。

お袋に女房への愚痴を聞かされると、「わかった、わかった、言っておくから」と。方や女房からもお袋に対する愚痴をネチャネチャと聞かされ、こちらでもまた、「わかった、わかった、言っておくよ。でもお袋も歳だから、そんな簡単に染みついた考え方は変わらないからなあ……」

お袋と女房との間に入って、右往左往する毎日がホトホトイヤになった。

:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.. .*:.'° 。.:*:...*:

二世帯住宅にしてからというもの、ゆーただけが都合よく、一階と二階を行き来している。今では、正月とか誕生日とか時々一緒に食事をするだけだ。

でも、これが一番気楽で良い。特にゆーたのことを考えると、絶えず「逃げ場」があることは大切だと思う。

:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.. .*:.'° 。.:*:...*:

昨日の日曜日、「アクティ森」というところに家族五人で出かけ、「陶芸教室」の体験をしてきた。これは、我が家を建てたセキスイハイムのお客様サービスの一環だった。

最初、僕は余り気が乗らなかった。

しかし、一時間半の体験の中で、家族それぞれが、色々な形のものを作り上げ、お互いのできを見ながら

笑い会う。僕もいつしか陶芸に夢中になっていった。

帰路、みんなで食事をした。

「何にする?」「これ、おいしそうねえ~」等と言いながら注文をする。
出てきた食事を互いに見定めたり.....。

出かける前、女房に

「家族サービスなんだからね」
と言われていた。

僕がお袋に対して、普段あまりにもそっけないことを知っているからだ。

「なかなか良いもんだ」
そう思った。

「アクティ森」ってこんな所です。って書いてどうすんだあ?(笑)

http://www.enshu-net.or.jp/morimachi/Acty_Mori/Acty00.HTM

オークション -2000/02/22(火) Vol.171-

「楽天市場しよお~っ!」

最近、夕食後女房が口にする言葉。

「コーヒー飲みたい!」

と食後のコーヒーを注文し、やにわにパソコンのスイッチを入れる。

「う~ん、これ、どうかなあ.....」

「注文しちゃおうかなあ.....」

片づけが終わった後、僕もパソコンに向かう。

横から、あーだこーだと呟いたり、色々と話しかけたりしてくる女房。

僕も画面に見入ったり、つつい

「おっ、これ良いんじゃない?」

等と口を出してしまう。いやあ、なかなか面白いもんだ。

:*:~!° 。.:*:~!° ° !~*:~.。.:*:~!° 。.:*:~!~*:

女房が「楽天市場」なら、僕は「Yahoo!オークション」の画面をあれこれ見始めた。

女房は女房で時々、僕の画面を見ながらチェックを怠らない。

「何々? K2のキックボードが2万円?」そんな僕の言葉に

「お金、ないんだからねっ!」と釘をさすことを忘れない。

「お風呂入ってくるね~っ」そう言って女房はようやく接続を切った。

ここのところ、毎晩繰り広げられる我が家の光景だ。

ゆたぼん -2000/02/23(水) Vol.172-

「おい、ゆーた!メール来てるみたいだぞ」

「ゆたぼん」というのは、ゆーた用のポストペットの名前。以前は、僕のパソコンのデスクトップに、「ゆたぼん」のショートカットを作っていた。僕がパソコンを立ち上げているときに限って、「あ、ゆたぼん、

やるっ！」

などと仕事の邪魔をしたり……。

この夏、e-oneを購入した際に、ゆたぼんもそちらに移した。

:.:.:'° 。 .:.*:.'° ° ' .:.*:.. .:.*:.'° 。 .:.*:..:.*:

ゆーたの小学校でe-mailを使っている先生が一人いる。

その先生には、メールアドレスを覚えておいた。

時々、ゆーたにあててメールを送ってくれる。

「元気かい？」と。

ゆーたはなかなか返事を書かない。いや、書けない。ローマ字入力がよくわからないから。

昨日の夜、ゆーたの後ろから両手を添えて、一緒に返事を書いた。

「『ば』は『B A』だから、こことここ」

「で、スペース、次にENTER」

一緒になって文章を考えながら、マウスを操作したり。

ゆーたの手は、大きくなったとは言え、まだ僕の手の中にすっぽりに入る。

送信ボタンを押す。ペットが出かけていき、ポストマンが配達に行く。

:.:.:'° 。 .:.*:.'° ° ' .:.*:.. .:.*:.'° 。 .:.*:..:.*:

「一人でやっごらん」

そう言うには、まだまだ難しいだろうなあ。理屈ではなく、一緒にやるのが大切なんだろうなあ…。そのうち色々覚えていくだろうなあ、そんなことを思った。

それぞれ -2000/02/26(土) Vol.173-

「今度の日曜だけれどお、薫製作りたいなあ～」

「日曜日は『お邪魔女ドレミ#』があるからなあ」

先週あたりから、女房とゆーたの口から、そんな言葉がきかれるようになっていた。

- ・今度のレースで早いわけではないけれど、一生懸命走っている姿を見てもらう。
- ・4月16日の小笠・掛川のマラソンと一緒に出かけに行く。
- ・当日参加OKの1.5km ファンランというのがあるから、女房とゆーたが二人で参加する。

その目論見は、女房の「パパ、一人で行って来な」という言葉と共に瓦解した。

まあ、そりゃそうだろうなあ。

わざわざ休みの日に、人が走っている姿を見に行くなんてのはねえ。

一緒に行くとなると朝の7時半に出かけていってレースのスタートは10時半過ぎ。走り終わって、帰り支度を始めるのは12時近く。半日をただ待つだけで潰すのだから。別に自分が走ることが好きなわけでもないし……。

「薫製づくりの講習会が半日あるから外で待っていて」

そう言われたら、僕も断るだろうな。(^^ゞ

:.:.:'° 。 .:.*:.'° ° ' .:.*:.. .:.*:.'° 。 .:.*:..:.*:

そんなかなで、一人で出かけることになった明日のレース。

のんびり、のんびりと楽しんでこよう。

応援に来て欲しいなあ、という気持ちが全然ないと言えば、嘘になる。けれど、気乗りしないのを無理矢理付き合ってくれる家族よりも、それぞれがそれぞれのやりたいことを、はっきりと主張しあえる家族のほうが、僕は好きだ。

仕事だとか地域とのつきあいの中では、自分の気持ちを押し殺して、うまく折り合いをつけることもあるだろうが、せめて、家族の中では無理に相手にあわせることはしたくないし、して欲しくないことだな。

ぼちぼちのiモード版を作るかと.....(おい!)

とりあえず、まなびやfor iモード「まなびi」っての作ってみました。

まだ、登録マガジンは「0」ですが。(爆)

<http://www.manabiya.net/i/>

いつかは42.195! -2000/02/27(日) Vol.174-

家に帰ってきたとき、誰も居なかった。

汚れたウェアなどを洗濯機に放り込み、ホットカーペットに寝ころび、完走証や配布された資料などを読んでいたら、いつしか眠ってしまっていた。

女房とゆーたが帰ってきた。

「ゆーたあっ!走ってきたぞ!」

「ん!42.195キロ?」

「ちゃう、5キロ!」

「あちゃ!」

「フルマラソンは、いつか!」

僕の言葉を聞いているのかいないのか、「色鉛筆、色鉛筆...」と言いながらさっさと下に行ってしまった。(笑)

:*:°'°。.:*:°'° °'°.:*:°'°。.:*:°'°。.:*:°'°:

.....23分28秒、5kmの部283位(418人中)、これが僕の初めてのマラソン「公式記録」だった(笑)。

どうしようかと迷っていたけれど、スタート直前になって、走るときにいつもつけているMP3のレコーダーをしまった。楽しんで走りたい、いつもと同じに走りたい、そう思って持ってきたのだが、それ以上に、色々な「音」を聞きたいと思った。

「 kmスタート10分前...」「5分前...」「 kmレースに参加される選手は.....」等々、次々と流される場内アナウンス、ハンドマイクからの声、観客の声援、足音.....。

今まで一人で走っていたときには、決して耳に入らなかった「音達」が響いてくる。

.....折り返し点を過ぎた辺りから、周りのランナーの息づかいがはっきりと聞こえてくるようになった。しかもかなり荒い呼吸が。あ、みんな疲れているんだなあ、そう思うと途端に気持ちが楽になった。

ゼッケンナンバーから見ると、中学生だったろう。僕の前をチョロチョロ走っていた。坂道で抜かした。するとしばらくすると彼がまた、僕を抜かした。僕はまた追い抜いた。彼は.....。そんなことを繰り返していた。

他にも自分の少し前にいるランナーの中で、勝手にライバルに仕立て上げて、「よし、抜こう!」なあって。

茶パツのお兄ちゃんに抜かれた。抜き返そうと思ったけれど、ついていけなかった。

残り1 kmの表示のあるところで、5分遅れでスタートした一般女子の高校生に抜かれた。そう、颯爽と、というのはああいう走りと言うんだらう。

規則正しい呼吸、スッ、スッと伸びるしなやかな足は力強く地面を蹴っていく。美しい、と思った。抜かれて悔しいなんて、少しも思わなかった。どんどん遠ざかっていく後ろ姿に見とれていた。

:.:.:'° 。.:*:.:'° ° ' .:*:.. .:*:.:'° 。.:*:.:~*:

夕食時、僕は女房とゆーたに一生懸命話をした。

今日走りながら感じたことが次々と思い出され、口をついて出てくるのだった。

.....だが、二人ともあまり関心は示さず、上の空で聞いていた。

「君たちい～、あまりパパの話、聞いてないでしょお????」

「ウン！」と二人の元気のいい返事。

ま、いっか！

女房は女房で今日一日、薫製づくりがうまくいったみたいではしゃいでいるし、ゆーたはゆーたで、買い物に行って買ってもらった色鉛筆で何かやって楽しんでいるし。

そして僕も「もっと走っていたいなぁ～」と思う瞬間を体験できたことが何よりも嬉しかったから.....。

親子三人がそれぞれハッピーな一日ってのは良いもんだ、と。(^^)

「いつかは42.195」というメールマガジンを発行します。まぐまぐに申請しようと思います。これはiモード対応。走りながら考えたことを、ね。

先生が来るぞっ！ -2000/02/28(月) Vol.175-

今日、久しぶりに学校に行った。

と言っても、ゆーたではなく僕の方だが。

教頭先生と話をしていたら、学年主任のK先生が

「ゆーた君元気ですか？もしよろしかったらまた、顔を見に行きたいと思って連絡しようと思っていたんですよ」

とのこと。現在、学級担任は病気療養中のため、臨時に来ている講師の先生と一緒に来たいということだ。

このK先生は、僕の姉貴の教員仲間。姉貴は姉貴なりに色々と気を遣って、相談をしてくれているみたいだ。だから、僕としては苦手だ。背後霊のように後ろに見え隠れする姉貴の姿が気になって、言いたいことも言えないときがある。

困ったモンだ.....(..)

結局、明後日水曜日に来ることになった。

:.:.:'° 。.:*:.:'° ° ' .:*:.. .:*:.:'° 。.:*:.:~*:

さて、大変。

部屋の片づけをしないといけない、と女房は慌てた。

来て何を話すのだらう。

学年末が近づいてきているから、学校としてはそれなりの形をつけたいと思っているのだらう。

僕としてもその点は気になる。5年3組というクラスの一年間を振り返ったとき、ゆーたはどうクラスの

中で、学校として位置づけられるのだろうか、と。

恐らく教室に行くことはないと思う。

だが、そんなゆーたを学校や先生達はクラスの子どもに何と語るのだろう？

「最後だから、一度教室に行ってみようよ」

そう言った安直な声かけだけはしてほしくない。

「学級担任よちよちある記」なんてのを、昔書いていたことを、ふと思い出しました。久しぶりに学級通信でも引っ張り出してみます。

コロ付き自転車 -2000/02/29(火) Vol.176-

「コロ付き自転車が欲しいんだ」

最近、ゆーたはそう口にすることがある。

ゆーたは自転車に乗れるのだ。サイクルスポーツセンターの2 kmコースなど喜んで乗るのだ。勿論、コロなどついていない。確かに危なっかしいところもあるが、それでも自分なりに気をつけながら乗っている。

：*：° 。：*：° ° '：*：。：*：° 。：*：*：*：

確か4年生の頃だったと思う。

3年生の頃からサイクルスポーツセンターで転ばずに自転車に乗れるようになっていたから、それまでつけていたコロをおじいちゃんが外してしまった。勿論、僕も「コロは必要ないよ」と言った。

もう大丈夫、という思いと他の友達に「バカにされる材料」になることを危惧したからだ。「恥ずかしい」という思いもあったと思う。

しかしコロを外してからゆーたは自転車に乗ろうとしなくなった。「怖い」と言って……。

：*：° 。：*：° ° '：*：。：*：° 。：*：*：*：

「キックボードで遊ぼうよ～」そう声をかけるのだが、今一つゆーたは乗ってこない。ハンドルにブレーキがないから、と。

その代わりに、「コロ付きの自転車」がしきりと登場するようになったのだった。

先週のメンタルクリニックでも、その話をしたとき、カウンセラーの人が

「お父さん、それは凄いことですよ。キックボードのおかげですね」

そう笑いながら話してくれた。

僕もそう思った。

キックボードでストアに行ったり、家の前でゴロゴロ走らせたりするようになってからだ。「風を切って走る」という感覚が気持ちいいということがわかったのかな、とも思う。いやそこまででないかもしれないが、そう思いたい。

結局の所、「コロ付き自転車」を恥ずかしいと思うのは、僕自身だったのだ。たとえ周りがどうであろうと、ゆーた自身、それがいい、と思うものを僕が奪っていたんだなぁと改めて思い知らされた。

iモード対応のHPつくりました。勿論、普通のパソコンでも見られます。

是非、一度見てやって下さいませませ。

「いつかは42.195」<http://www.osamu.net/i/>

「まなびi」 <http://www.manabiya.net/i/> です。

2000年3月

次の手術 -2000/03/02(木) Vol.177-

「ゆーた、いつかは夜、一人で寝るときがくると思ってるでしょ？」
「ウン、いつかはね。でも、そのいつかがいつかはわからないけどね」
「そうだろうなあ、ゆーたが60歳にジサマになったら、ママは90歳のオババさまだもんなあ。ジサマとオババさまが二人で寝てるのを想像したら、メチャクチャ笑えるぞお～」
ゆーたはしばらく笑い転がっていた。

:.:.:'° 。 .:*.:'° ° ' .:*.:. .:*.:'° 。 .:*.:.:.*:

静岡の子ども病院へ行く車の中で、ゆーたとのそんな会話をしていた。
そして、脳外科の診察。
ゆーたは頭にたまる水をお腹に逃がすための管(シャント)を埋め込んでいる。前回の手術が、小学校に上がる前だったので、身長も伸び、管も古くなってきているから、入れ替えの手術をしなければならない。

CTをとった後、お腹のレントゲンを取り、診察。
「もう、古くなっているから、今年中には手術をしないといけないな」
そう、主治医の先生は言った。
「あのお、一つ良いですか？ その時は、ママに付き添ってもらえますか？」
とゆーた。
「う～ん、大人はばい菌を持ってくるから、付き添いは一切できないんだよなあ。」

そんなやりとりがあった。
小学校に上がる前の手術の時も、どんなに泣こうがわめこうが、僕たちは5時(?)には、ゆーたを残して病院を後にした。その時の辛さ、寂しさがゆーたの心の中には深く彫りつけられているようだ。

手術をいつ頃行うかを相談して、また、病院に連絡をすることになった。

:.:.:'° 。 .:*.:'° ° ' .:*.:. .:*.:'° 。 .:*.:.:.*:

小学校に上がってからゆーたは手術をしていない。
外科的な心配よりも精神的な心配が大きくなっていて、「手術」の時のつらい思いでは、遠くの方に行ってしまった。いや、自然と忘れ去ろうとしていたのかもしれない。
待合室でただ待つだけの時間.....。
泣いているゆーたをただ見ていることしかできない僕たち.....。

そうした記憶がまざまざと蘇ってきた。

都会 -2000/03/06(月) Vol.178-

昨日、東京へ行って来た。
朝、8:00の新幹線に乗ると9:30には東京駅に降り立っている。
駅に着いた途端、色々な音が飛び込んできた。
そして中央線で新宿まで。

アチコチから飛び込んでくる音にはうるささを通り越し、身体全体で拒否している自分を感じていた。

音は不意打ちのように襲いかかってくる。

ドキッとしてそちらを振り向いたところで、そこには影も形もなく、次にはまた、別の所からの音が僕を襲う。

アナウンス、軋む音、クラクション、自動ドアの開閉……。

全部が全部、人工的な音なのだ。疲れるなあ、と。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

一週間前、杉の里ロードレースの時に聞こえてきた音とは全く違う。

木々を揺する風の音、川のせせらぎ、人の足音、息づかい……。それらは皆「いのちの鼓動」を持ち合わせていた。

都会には住めないと改めて思った。

恐らく、都会に住めばそうした「音」とのつきあいにも慣れてしまうだろうが、慣れてしまうこと自体が、イヤだなあ、とも。

自然を感じながら暮らしたいなあ……。と。

BMIの基準による、肥満度チェックのCGIを作りました。一度チェックしてみても如何ですか？

<http://www.osamu.net/i/cgi/check.html> 標準体重も出ます。(爆)

じゃがいも 10kg -2000/03/07(火) Vol.179-

「オークションどうなった？」

流して食器を洗いながら、女房にそんな言葉をかける。

「見てみるか！」

と、おもむろにパソコンに向かう女房。もちろん、「コーヒーが飲みたい」と付け加えることを忘れない。

こここのところ、何件かオークションに申し込んでいる。

「テレビ」「有機野菜」「自転車」……。

落札できる価格ではないだろう、と思いつつも二人で楽しんでいる。

今日、女房が申し込んだのは、「じゃがいも 10kg」。

「これ、安いよ～！ 落札できるよ、これ！」

……とっても無邪気！ 見ていて楽しい。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

「ファンランに出よっかな？」

一昨日の日曜日、「静岡駿府マラソン」のダイジェスト放送をやっていたとのこと。色々な格好をして走ったり、マラソンを楽しんでいる人達の姿もたくさん映されたようだ。

「シリアスランナー」に憧れはない、と言えは少し嘘っぽいけど、今はとにかく走るのが楽しいから走っている。

東京から帰ってきた僕に、女房は
「今度の小笠、やっぱり、私とゆーたも行くわ。ファンランにゆーたと出てみようかな？ ってテレビ見てて
思ったの」と。

やったあ！ 一人で行くよりはそれは楽しいに決まってる！
でも、こういうのって結構、ぬか喜びになることが多いということも、僕はよくわかっている……。

「いつかは42.195！」配信開始
まぐまぐで登録処理が終了！ iモード対応のメールマガジンだから、250
文字以内でまとめる必要がある。これはこれで難しいなあ、と思う。

何なんだ！ -2000/03/08(水) Vol.180-

とある中小企業の役員さん達3人にインターネットを教えた。
当初10時半からの1時間半の予定だったが、昨日「9時45分からはしてほしい」と連絡があり、9時
過ぎには事務所に着いた。
ところが時間になってもやってこない。
階段を上がる足音が聞こえ、顔を揃えたのは10時を回っていた。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*:

一応、エクセルなどは使っているために、キーボードやマウス操作、漢字入力等はできるが、インター
ネットはわからないということで、簡単な説明をした後、とにかくIEの操作、「Yahoo!」や「Goo」を使っ
ての検索などを行った。

インターネットそのものは、驚きながらも興味深く操作をしていた。
しかし、問題はそこではなかった。

教えている最中に携帯電話がなり話を始めたり、途中で連絡が入り、席を立ったり……。そのため説明が
中断したが、タバコを吸い出したり。
事務員が、パソコンの向こうから、声をかけてきたり、側のコピー機の所でコピーを取りながら大きな声
で話をしていたり……。

途中で、「もうやめましょ！」と言いたくなった。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*:

11時過ぎ、ある程度わかったつもりになったのか、全体的に落ち着きがなくなってきたので、他にもや
ろうとしていたことがあったが、終わりにした。

明日、もう一回、今度はe-mailの使い方を説明する。
時間は今日と同じ9時45分からだそうだ。
……ホントに始まるのかい？

今までにも「教える」ということはたくさんやってきた。
教員だった頃、授業がうまくいかなかったり、反発されたりしたとき、授業に行くのがとても気が重いと

きもあった。しかし、今日ほど「教えたくない」と思ったことは記憶にない。

傲慢なんだな。結局は.....。
二度と彼らに教えることはないだろう.....。

勉強 -2000/03/09(木) Vol.181-

毎週木曜日に行っている、メンタルクリニック。

先週から、カウンセラーのお姉さん(?)とゆーたはジグゾーパズルを始めた。他の部屋にあったジグゾーパズルを見て、やってみたいなんてことをゆーたが言ったのだろうか? カウンセラーの方が、ゆーたの好きな「猫」(僕は嫌いだ...)のパズルを用意しておいてくれた。

先週は二人で1時間以上やっていた。ゆーたは例によって横から口をだすだけみたいだったが.....。今日は、僕の予定もあり早く終わって欲しいと言ってあったので、今日は40分ほどだった。

ゆーたと交代してカウンセラー室へ。
今日は、前回よりも随分と自分でパズルをやったとのことだ。

このパズルが完成したら、新しいパズルを家でも買いに行こう、ということになった。パズルは勿論、ゆーたの好きな「猫ちゃん」だ。(笑)

:*:~!° 。.:*:~!° ° !~*:~!° .:~*:~!° 。.:~*:~!~*:~!~*:

行き帰りの車の中では、ちょっとした話を二人でしていく。

「消費税がまた、あがるみたいだよ、パパ!困ったもんだねえ~」

「そうだねえ。ゆーたももっと社会の仕組みを勉強して、消費税あがらないようにしとくれよ」

.....そこから話は「勉強」へ。

「パパが言う、『勉強』ってのは、学校でやるプリントとかそんなんじゃないぞ。テレビや本を見たりして、ゆーたが興味や関心を持ったことを、自分の目で確かめたり、体験することだぞ。それがホントの勉強だぞ」

「ゆーたがホントにイギリスのミステリーサークルを見てみたい、ってことなら、ママと相談して、三人で旅行に行ったらいいと思ってるぞ」

.....

「でも、借金があるんでしょ? ウチは?」

「まあなあ、確かに..... (^^ゞ」

落札!! -2000/03/12(日) Vol.182-

先だっの楽天市場の「ジャガイモ10kg」の落札結果がわかった。
見事「落札」できたのだが、結局の所

落札価格(¥1,500)+ 送料 + 手数料 = ¥3,000超

ということだったようだ。

「う~ん、良かったねえ~。落札できて.....」

僕はもう、笑い転げてしまった。(^^)

今日も、生協に行って来た後、

「ねえねえ、やっぱ、新ジャガは高いのよ!」

等と一生懸命に話しかけてくる姿は、何とも可笑しく、可愛いモンだ。

ま、これも経験、勉強。こうやって賢くなっていくのだ！ 等とほくそ笑むのだった。

.*:.*'° 。 .*:.*'° ° '.*:.*。 .*:.*'° 。 .*:.*:.*:

昨日、今日と沼津の実家に行ってきた。

が、あいにくの雨で船も出せず、カゴもおろせず、おまけに僕の方が、何やら寒気がしたりして、結局、ゆーたがおじいちゃんにお小遣いをもらって女房とゆーたが義妹の赤ちゃんを見に行き、沼津港で魚を買って帰ってきた、という何とも間の抜けた二日間になってしまった。

僕はといえば、昨日は久しぶりに布団で(おい！) しかも9時過ぎには寝てしまった。そのせいか、きょうになったら寒気もとれ、元気回復、というところ。

我ながら丈夫な体を持ったもんだと感心する。

今日こそは、布団で寝よう！

どんぶり勘定 -2000/03/13(月) Vol.183-

NHKの日本人の質問でやっていた。

「『どんぶり勘定』の『どんぶり』とは何から来ているのか？」と。

これは大工さんなどの腹掛けのポケットを「どんぶり」と言って、ここからおおざっぱにお金を出したりする所から来ているそうだ。

で、我が家の家計だがまさしくこの「どんぶり勘定」。

大体、女房は1000円、2000円と言った単位までは、高い安い、を口にするがケタが4ケタになると、もう訳が分からなくなるらしい。

「あそこのスーパーでは、100円安かった」

「こっちは、少し高い！」etcetc.....

勿論、家計簿何ぞというものはない。

僕はこうした数字をコチョコチョやるのは嫌いではないが、長続きはしない。直に飽きてしまう。女房は女房で、家計簿をつけるなどという気持ちなど、はなから持ち合わせていない。

.*:.*'° 。 .*:.*'° ° '.*:.*。 .*:.*'° 。 .*:.*:.*:

「オイ、お金頂戴よう！ この間、メンタルクリニックとか、ストアーとか結構、お金出してるじゃん！」

「いくら？」

「そうだなあ、5000円くらいかなあ？」

「そおおっ？」

「そうだよっ！」

女房がどんぶりなら、僕もどんぶり。

.*:.*'° 。 .*:.*'° ° '.*:.*。 .*:.*'° 。 .*:.*:.*:

でも、僕がパソコンを教えたりして手にした小遣いも結構、生活費に消えていることが多い。勿論、タバコ代もバカにならない金額だが.....。

僕はいつも財布の中に、後いくら残っているか、ということに気がしながら毎日を送っている。だから何か欲しいものがあったって、なかなか買うことができないでいる。

それに対して女房は、欲しいものがあると、どんどん買ってくる。

曰く

「私が買うものは、家族の生活に役立つものでしょ？ 薫製のサーモンとか、ジャガイモとか」
「パパにだって、買ってあげてるじゃん！」

そう言う問題ではないのだ、といつも僕は反論する。
自分で買う買わないを決められることが重要なんだ、と。

ま、もっとも僕がボーナスをもらっていた頃は、楽器やらパソコンやら、自分の趣味や遊びのものばかりだったが.....。

キックボード、売りに出そうかと思ってる。足にかなり負担がかかり、やりすぎて足を痛めてしまった。キックする右足が痛くて、走れない。
う～ん、誰か買う人いるだろうか？ ん、オークションか？（笑）

肩書き -2000/03/14(火) Vol.184-

「OSMさんが、会長やるなら運営委員やらせてもらいます」
一緒に役員をやっている人が、来年度のPTA役員をお願いした時、そう言って引き受けた人がいたと聞いた。

嬉しさ半分、ためらい半分.....。

僕はその人が誰なのか、何をもってそんなことを言うのかが、よくわからなかった。

1月末から2月にかけて、8会場で開催した「新登校方法検討会」の説明会で趣旨説明をしたから、多くのPTA会員に顔を売ったのも確かだろうが。

:*:~!° 。.:*:~!° ° !~*:~.。.:*:~!° 。.:*:~!~*:

「今年は、扶養を外れても大丈夫くらいな収入を得られるようにしたいなあ」そう言う僕に、
「何言ってるの！ アンタ今度会長やるんでしょ？ まともな仕事なんてできるわけないじゃん！」そう、女房は言い放った。

そうしたとき、改めて「会長」という言葉が重くのしかかってくるのだった。

入学式や卒業式はやっぱり出ないといけないのかなあ？
地域の懇談会の総会の時、前に座る人はみんなネクタイ、背広だなあ....。
学校行事の時、リボンをつけるのぉ？

そして、壇上に上がるとき、僕の目の前には、「日の丸」がある.....。

「肩書き」なんて何も無い、この数年間。

「OSMさん！」「すずきさん！」
それだけだった。

自分の思惑だけではいけないんだろうなあ、そう思わされることが段々増えてくるにつれ、気持ちも重くなってきた.....。

「いつかは 42.195」……「単位が書いてないね」という指摘が(爆)
確かに！

旗振り当番表 -2000/03/16(木) Vol.185-

これを書いているのは、17日の朝の4時半。
小学校の来年度の「旗振り当番表」を作成していて、ようやく後、少しのところまできた。いい加減イヤになっちゃった。面倒くさい！

手順は……

- 1) 住宅地図で自宅の場所を確認する。
- 2) 6カ所の旗振り場所に割り振る。
- 3) 隣近所で行えるように順番を考える。
- 4) 各場所の回数のバランスを確認する。
- 5) 一覧表に書き写す。

と、ここまでは、校外指導部(なんちゅう名称!)の部員さん達全員で行う。
で、ここからが僕の夜なべ仕事になる。

- 1) 学校からもらった名簿と住所、保護者等の確認。
 - 2) あわせて、漏れがないかのチェック。
 - 3) 兄弟姉妹がいるところは1回にまとめる。
 - 4) 順番を書いた当番表一覧を作成
 - 5) 学校行事予定表に旗振り当番を転記(各場所毎)
- ようやくプリントアウトが終わって、一息。(@_@)

:.:.'° 。.:*:.:'° ° '.:*:.° .:~*:.:'° 。.:*:.:~*:.:

「旗振り当番」は今まで突然やってきた。

前日になって、前の当番の人が「明日、お願いします」と持ってくる。仕事を持っている人などは大変だ。
「こんなん、学校行事に名前を入れればいいじゃん！」

ずっと思っていたから、来年度への土産として、きちんと作っておかないと思う。
でも、今までの資料は全く使えなかったのには、閉口する。
学校の名簿も、きちんとしていないから、それを整理するだけで一苦労。

エクセル様々、だ。

ふう〜っ。

後は、父母への「来年度の旗振り当番について」という文書を書けば、お終い！

明日は、もとい今日は、小学校の卒業式。

僕は、式の間、職員室で電話番を頼まれている。

その間に、印刷してホッチキスで綴じて……。

副部長さんが仕事を休んで一緒にやってくれるのが、ありがたい。

雨もあがったようだ。

卒業式 -2000/03/17(金) Vol.186-

5年生と教職員がつくった校門までの道を、卒業生と親が一緒になって歩いていく。電話番を頼まれた僕は、事務室からその光景を眺めていた。勿論その5年生達の中にゆーたはいない。

卒業生達のにこやかな顔と、その横にいるお母さん達のちょっぴり照れくさそうな、そのくせ何とも言えない安堵感をのぞかせた顔……。中には、とうにお母さんの背よりもはるかに大きくなった6年生。

卒業式。

一つの区切りなんだなあ、と改めて思う。

そんな光景をボーッと眺めながら、かつて僕が送り出した卒業生達のことを思い出していた。「今頃、何をしているのだろうか」と。

:*:~'° 。.:*:~'° ° '.:*:.。.:*:~'° 。.:*~:~*:

僕には小学校、中学校の卒業式の記憶が全くない。
何も覚えていないのだ。自分がいつ卒業したのかもわからない。
また、高校の卒業式は、丁度大学の受験のため出られなかった。
卒業証書は、僕の代わりにお袋がもらいに行った。

卒業式の記憶は送り出した記憶しか残っていない。

:*:~'° 。.:*:~'° ° '.:*:.。.:*:~'° 。.:*~:~*:

来年の今日、ゆーたはどうしているだろうか？

形の上では「卒業」するのだろうが、ゆーたの心の中に、何かしらの区切りが生まれているのだろうか？
「学校を卒業すること」にこだわっているのではなく、ゆーたの中で、今までの自分から、新しい自分へと巣立っていく、そんな区切りができるのは、いつのことだろうか？ ゆーたが思いっきり笑顔を見せられる日は、いつなんだろうか……？

卒業生達の笑顔を見ながら、そんなことを思っていた。

春になると、何となく感傷的になってしまいます。

不安定 -2000/03/19(日) Vol.187-

今月始め、子ども病院で次の手術の話が出てから、ゆーたはとっても不安定になってきたような感じがする。

おばあちゃんの姿が見えなくなると、やたら「どこに行った！」を繰り返したり、すぐにしなしな~っとなってしまうたり、小さなことで怒り出したり……。

先週、女房の飲み会があったときもそうだった。

なかなか帰ってこない女房。さらに眠さも加わって、もう、ハチャメチャ。

:*:~'° 。.:*:~'° ° '.:*:.。.:*:~'° 。.:*~:~*:

とにかく不安が募っているんだろう、と。
カウンセラーのSさんも同じように感じたようだった。
「しばらく『赤ちゃんがえり』みたいになるかもしれませんね」と。

入院して女房と離れて寝ないといけない。
一人になることへの恐怖。不安。

しかし、ゆーたはこの不安に一人で折り合いをつけていかなければならないのだ。
僕たち親としては、どうすることもできないのだ。

こうしたゆーたのイライラのはけ口は、おばあちゃんに向かっていく。おばあちゃんは、はっきり「ダメなものダメ」と言わずにきたから、あまりに手を焼くと「パパ、チョット来て！」と助けを求めるしかない。

ゆーたにしてみれば、「どうしてパパに言いつけるんだ！」と言うことになり、ますます怒りのボルテージがあがっていく。

しかし、ゆーたもどうすることもできない自分が、イヤになったりしているようだ。それもわかる。
「不憫」という言葉で片づけられるものではないのだが.....

プレステ2とK2のキックボード買った！

シブタク -2000/03/20(月) Vol.188-

「渋谷の卓球ブーム」.....。略して「渋谷卓」というそうだ。

少し前から、テレビなどで「卓球がブームに.....」というニュースを目にすることが多くなってきた。

「卓球なんて、簡単にできるもんね」
「卓球なんて、授業の時間つぶしにやるわよ」
「卓球なんて.....」

体育の先生の口からついて出てくる、これらの「卓球なんて...」という言葉に今までの「卓球」の置かれていた立場が如実に表されている。

もっとも「卓球なんて」って言ったら失礼になるけれどね」と、口にした後、「あ、しまった」という顔をして女房は言うが。 (--;)

僕は、中学、高校と卓球部だったのだ。(^^ゞ

∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴

まあ、確かに「卓球 = 暗い」というイメージがあるのだと思う。
他のスポーツに比べ、マイナーなイメージも拭い去れない。
「部活は何をやってたんですか？」
「あ、卓球です」
そう答えるたびに、質問した人の反応を見てきてよくわかる。

温泉宿に、必ずと言っていいほど置いてある「卓球台」。

気軽にできて、そこそこラリーも続けば、みんなで楽しめる。
一時間で一台600円という安さも受けているそうだ。

テレビで放映される卓球を楽しむ姿を見ていると、何とも言えない違和感を感じてしまう。フォームも何もあったものではないけれど、それでも楽しそうに卓球をしている若者達……。厚底靴と卓球台が妙にマッチしているようにも思えてしまったり。

楽しくスポーツに接すること、これはとっても良いことなんだなぁ、と思う。マラソンを始めてレースに参加し始めた僕の姿と同じなんだ、と。

イチゴ狩りにいってきました。今年高校に入る、姪っ子と一緒に。春の味
でした。でも、しばらくイチゴはいりません。

ホットカーペット -2000/03/21(火) Vol.189-

「ねえ、ママぁ！ 今日パパの布団敷くのぉ？ 敷かなくていいらぁ？」
「そうねえ、夕べも布団で寝なかったからねえ。」
そんなやりとりが寝室から聞こえてくる。

布団を敷くのはゆーたと女房。布団を上げるのが僕。
これが我が家のパターン。

冬場、ファンヒーターをつけ、ホットカーペットの上に横たわりそのまま朝まで、というパターンが随分と多くなった。

しかも、キャンプ用のシュラフがいつもそばにあるから、寒さはどうってことない。

一段落したとき、ゴロンと横になり、ゲームボーイカラーの電源を入れる。
そのうち、ぼかぼかしてきて、とぉっても幸せな気分になる。
ハッと気がつくと、明け方だったりと……。

まずい！ とおもむろにコンタクトを外し、寝室に行きゴソゴソと布団に入る。しかし、布団が敷いてないときは、そのままシュラフを引っかけて寝てしまうか、ゆーた達が起きてくるまで、パソコンに向かっているか、だ。

：*：*！° 。：*：*！° ° '！*：*..：*：*！° 。：*：*...*：

布団敷きは、女房とゆーたの2人が交代交代でやっているようだが、ゆーたにしてみれば、少しでも楽をしたいから、僕の布団はできることなら敷かないですませたい。
だから、すぐに「今日、パパの布団はいいら？」となるのだった。

布団は敷かなければ寝ることはできない。
ところが、布団を上げなくても、まぁ部屋の汚さを我慢すれば、どうってことはないのだ。また、そこに寝ればいいのだから。

結局、この話は僕には随分と分の悪い話。
布団に入ってぐっすり寝ることが疲れをとることだとは、思っているのだが、ついつい、「ゴロン」となってしまう。

これから暖かくなってきて、ホットカーペットもファンヒーターもいらなくなれば、床の上にゴロン、がますます多くなりそうだ。(^^ゞ

あと4日！あと4日！毎日カウントダウンしてます。(^^ゞ
「トルネコの大冒険」、プレステのソフトで一番やってみたいヤツです。やった方、おられますでしょうか？

送迎 -2000/03/22(水) Vol.190-

大体高校という所は、飲み会が多いのだ。
教科、学年、分掌（進路とか教務とか...）、そして学校全体。

年度末にきて、女房の飲み会がここ二日ほど続いた。
我が家から町まで、往復で50分近くかかる。
送り迎えとなると、結構時間が細切れになってしまってイヤだ。
しかも迎えの時間は決まっておらず、出先からほろ酔い気分の声で
「終わったよ～。迎え来て～」
と携帯に電話が入る。

「バスで帰ってくればいいじゃないかっ！」と言っても
「ヤダ」の一言。

この間なども、迎えに行く途中に、家の側を通るバスとすれ違ったりして。
ったく.....(--;)

.:*:.'° 。.:*:.'° °'.*:.. .:*.:'° 。.:*...*:

ゆーたは毎晩、9時過ぎには布団にはいるのが習慣になっている。その時間になったら布団にいかないと気が済まないのだ。しかも、寝るときは女房と一緒に。
毎日の決まったパターンが崩れると、非常に不安定になる。
ここら辺りが、小さい頃から自閉症「的」と言われてきたところだろう。

だから、9時を回る頃になると、眠さも手伝って、機嫌が悪くなり、おじいちゃんやおばあちゃんに当たったり、更には僕にまでそのとばっちりが来る。

「良いねえ、いつも迎えに来てもらって！」と同僚に言われるみたいだ。
そうだろ、そうだろ？
もっと感謝しなくてはいけないんだ！

「飲み会ばかりだなあ」
「パパだって今度PTAの飲み会があるんでしょ？ いいじゃん！」
確かに、今年度役員になって、少しは飲み会に行くようにはなった。でも、やはり回数としては、女房の比ではない。
しかも、僕は一度も迎えに来てもらったことはない！
僕が帰る頃には、女房はゆーたとしっかり夢の中にいる。

ま、その方が僕も気楽だが……。 (笑)

後、二日！今日、「発送しました」メールが届いた。佐川急便で来るんだ！
<http://k2k.sagawa-exp.co.jp/cgi-bin/SagawaWeb.pcgi>
荷物の配送状況がわかるんだ！ 感激！

プリケー -2000/03/23(木) Vol.191-

携帯電話をJ-phoneとドコモの二機種持っている。

ホントは、ドコモに切り替えたいのだが、ショップで「0円」の携帯を女房用に買ったのが、5ヶ月前。後、一ヶ月は使う契約だ。

で、来月にはJ-phoneをやめてドコモに変える予定。

そうなると、もう一台を何にするかということが浮上してくる。

新機種のiモード用を手に入れて、今使ってるのを女房に使わせる。

もっとも、女房はiモードだろうが、何だろうが、ボタン操作はダメだからあくまでも、チェック用に僕が使うことが多くなるだろう。

普通のドコモの携帯にする。

でも、これだと僕が面白くない！ (^_^)

実際に女房が携帯を使うのは、飲み会の時の送り迎えと雪遊びに行ったりした時で、機能についても、電話がかけれて、受けられればそれで良いのだから、最新機種なんてのは、豚に真珠……。

ということでプリペイド方式の携帯が選択肢に入ってきた。

∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴

プリペイド方式の携帯電話を思いついたとき、何と良いところに気がついた、我ながら偉い！ なぁんてほくそ笑みながら、サークルKに出かけていった。

勇んで行ったはいいけれど、やっぱ、そんな甘いもんじゃないんだなぁ。

結局カードの有効期限が、30日間と設定されているから、ドコモの場合は、¥3,000/月ということで、普通の携帯とどっちもどっち、ってことになるのだった。

ついでに、

ツーカー... 3,000円で30日間。5,000円で50日間

J-phone ... 3,000円で90日間。

通話料金で見ると、

ドコモ ... 10円/6秒

ツーカー... 50円/30秒

J-phone ... 90円/分

う~む、こうしてみるとJ-phoneに軍配があがりそうだ。料金が割高になるけれど、

でも、機種購入で5,6千円かかるしなぁ……。

携帯なんて持たなければ良い！ と言ってしまうには、この便利さに僕は慣れすぎてしまった。今更、携

帯がない生活は考えられない(笑)

僕はドコモ、女房はPJ、って線に落ち着きそうだなけれど.....。

いよいよ明日!(しつこいって?)

昨日はついに、「ザ・プレイステーション」なる週刊誌まで買ってしまった。受け入れ態勢はばっちりだぜい! (^)v

コロ付き自転車 -2000/03/26(日) Vol.192-

「自転車に乗りたい」

キックボードを買って、外でガラガラやるようになってから、ゆーたの口とついて、何度か出てきた言葉。

「おじいちゃんがコロをとっちゃったから」

その度に、そういうものだから、おじいちゃんは面白くない。

カウンセラーのSさんは、

「ゆーた君が、自転車に乗りたい、って言い出したのは凄いことですよ」そう言った。

僕もそう思う。

「いつまでもコロをつけて乗っているわけにはいかないだろ?」そう聞くと

「そりゃそうだけれど、少しずつ、少しずつーっつ、コロをとっていくんだよ」

「みんなにバカにされたくないもん、ゆーたは!」

そんな答えが返ってきた。

:.:.'° 。 .:.*.'° ° '.:*:. .:.*.'° 。 .:.*:..*:

「恥ずかしい」という気持ちをはっきりと見定めないといけないんだな。

自分が恥ずかしいんではないのか.....?

恥ずかしい気持ちを押しつけてるだけじゃないのか.....?

ゆーたにとって、どうなのか、ということなんだな。

今日、我が家にコロ付き自転車がやってきた!

プレステ2がやってきた。

でも、我が家のテレビ、今、赤い色が飛んでいる。スーパーマリオの帽子も「黒」く映る。「テレビ買い換えよう~」って言ったら、女房に「バカ」と言われた。(;_;)

安心感 -2000/03/27(月) Vol.193-

今日は早速ゆーたと自転車に乗って遊んだ。

最初の内は久しぶりの自転車と言うこともあり、ぎこちないところもあったが、そのうちコロをガラガラ言わせながら、家の前の道路を行ったり来たりしていた。

僕はといえば、

「ホラ、そこブレーキかけなくっちゃ!」

「左だよ、左のブレーキを主に使うんだってばあ~」

などと言いながらゆーたの横を一緒に走っていた。

走りながら、いっこうに息切れすることもない自分に驚きいていた。

しばらくすると、安心してみていられるようになったので、キックボードを引っ張り出し、一緒に行ったり来たりした。

見ていて思った。

コロがなくてもヤツは乗れるんだなあ、と。でも、コロが付いているという安心感が、何よりもゆーたには必要なんだと。

今年一年、僕はゆーたの心の中のコロを早く外しすぎたのかもしれない。今は、ゆーたが安心できるように、ゆっくりゆっくり休ませてあげたい、そう思った。

おばあちゃんが、だいぶゆーたの「わがまま」に参っているようだ。
う～ん、困ったなあ……。

ジグゾーパズル -2000/03/28(火) Vol.194-

大体色弱の僕は、未だかつてジグゾーパズルなんぞには、手を出したことはなかった。あの中間色がグワッと押し寄せてくるようなものは、絶対に相容れない。色弱検査の表を思い出させてくれる。

どうしてあの絵が数字に見えるのだろう？

あの色弱検査で、数字がわからない僕に、みんなは「なんだコイツは？

こんなのがわからんのか？」と言った目をするのだった。

ゆーたは4週間かけてメンタルクリニックで、カウンセラーのSさんと2人で200ピースのジグゾーパズルを作った。

作ったと言っても、ほとんどSさんがやり、ゆーたは横からあーでもない、こうでもないと言っているだけのようなだったが。それでも、ゆーたはジグゾーパズルができあがっていくのを、とても楽しみにしていた。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

晴れてジグゾーパズルは完成した。

「完成したら、今度はウチでつくるか？」

「ふみゅ！」 < ゆーたが機嫌のいいときにする返事 (^^ゞ

かくして、今度は300ピースのジグゾーパズルを買って、作り始めた。

ま、予想通り、いや予想以上にゆーたは「力」にはならなかった。

横にいて「早く作れ」だの「今日中に完成させる」だのとうるさいったらありゃしない。確かに難しいこととは難しいが、それ以上にじっくり考えないといけないというのは、ゆーたにとってはとっても大変なことなのだ。

結局、色のよくわからない僕が悪戦苦闘する羽目になるのだ。

これはわかりきっていたことだが、やはりしんどかった。 (--;)

でも、作っている間、ゆーたは側にいて彼奴なりに考えてはいるようだった。

「オイ、これに繋がる色を探してくれえ～」

「ホラ、上と横が出っ張ってるヤツだよな、ここは……」

な～んて声をかけながら、少しでもゆーたがピースを入れられるようにしたりする時間は、また、楽しいものだった。

ゆーたなりに完成したことが嬉しく、早速、のりをつけて乾かしている。

「オイ、また、パズル買うのか？」

「あたりまえじゃん！」

だって……。(;_;))

ここ3日ほど、パズルの見すぎで目がショボショボしてる。(--)

我慢のできない子 -2000/03/29(水) Vol.195-

「このままじゃ、あの子は我慢ができないどうしようもない子になってしまう」

おばあちゃんがそう言った。

「違うんだよ。ゆーたには、今、ゆっくりさせてあげることが必要なんだ。本当に心が疲れ切ってしまっているんだよ。だから、Y(姪)やT(甥)と同じように考えないで！ ウダウダしたいときは、ウダウダさせてあげて！」

「じゃあ、何でもかんでもやりたいようにさせろ、ってわけかね？」

おばあちゃんとの会話はいつもこんな風に終わる。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

おばあちゃんのゆーたへの接し方を見ていると、僕が中高校生の頃一番嫌った「僕の母親」の姿が重なってくる。だから、おばあちゃんに何か言う時の僕の言葉の中には、必ず自分自身の過去の記憶がフィルターとしてかかってしまう。これじゃいけないと思っても、どうすることもできずにきた。

結局のところ、僕の母親は絶えず誰かの世話をすることによって、自分を確かめてきたのだ。それが相手にとってどうであるかという前に、自分がそうすることにより、心の平衡を保ってきたのだった。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

体も大きくなり力も強くなったゆーた。相手の矛盾をしっかりとついても覚えてきた。時には、おばあちゃんの襟首をつかんだりすることもある。

そんなゆーたに、ほとんど参ってしまっているのだろう。

しかし、ゆーたにしてみれば、今まで何でも「いーわ、いーわ」で来たおばあちゃんが、突然自分への接し方を変えてきた、というよにしか思えないのだろう。

僕の心の中から、「母親」の姿を消し去らなければいけないんだ、あくまでも「ゆーたのおばあちゃん」として接していかないといけないんだ、そう思う。

おばあちゃんに変わることを要求するのではなく、おばあちゃんに対する僕の接し方を変えないといけないのだ。

でも、これがホント難しいんだなっ……。(;_;))

「不登校の息子とPTA会長の父親の話」というメールマガジンを一年間の限定で発行することにしました。ホント、来年はどうなるんだろう？

不安がつきまといます。

「3年B組金八先生」が最終回だった。

僕の教員生活のスタートの一年前の1979から始まったこのシリーズ。よく見たものだった。

この番組、好評を博す反面、「現実離れしている」とか「生徒はあんなふうではない」と言った声も聞こえる。

だが、僕は違う。この番組を見ていると、自分の教員時代をまざまざと思い起し番組に共感するところがかなりあるからだ。もっともこれは僕が「金八先生」憧れ続けてきたという面が、かなりの部分を占め、どうしてもひいき目に見てしまうからだろう。

しかし、ほんの数えるほどしかないにせよ、教室の空気がふるえるような瞬間は確かにあるのだ。こればかりは経験していないと、何とも理解しがたいかもしれないが、一人の言葉が、更に他の言葉を生み出し、それは更に全体に広がっていく。決して話をしないヤツにしても、目が輝く。

「心が心を揺さぶる」と言ったらよいだらうか？

「深く、静かに広がる時間」と言ったらよいだらうか？

それは時には授業の中であったり、時には帰りのHRであったり.....。

それは、どうしようもない状態から、彼女が、クラスが大きく動き出す時であったり.....。

そして、そうした瞬間はともするとマンネリになりがちな教員生活に、大きな力を与えてくれた。

生徒達によって、僕は何度も何度も自分を変えてもらった。

どうしようもないゴンタクレな連中が、たまらなく好きだった。

.....

今は教員時代を懐かしむだけの毎日になってしまっているが、僕にとって大学を卒業してからの20年近い生活は、本当に色々なことを教えてくれたし、僕を育ててくれたと思う。

確かに今、教育現場は大変なことが多いだろう。

でも、「魂がふるえる瞬間」を一人でも多くの子ども達に、そして教室に生み出して行って欲しいと、心から願う。

子ども達をとりまく環境はますますひどくなっているかもしれない。

でも、子ども達に罪はない。

どうしようもない状況の中で、出口の見えない苛立ちを覚えたり、自分の気持ちを表現すべく言葉も見つからないで苦しんでいる子ども達.....。

子ども達には豊かに、穏やかに、のびやかに健やかに育って行って欲しい。

子ども達は、みんな人の心のあたたかさや、やさしさを求めていると思うのだ。

この先、ゆーたの前に「金八先生」は表れることがあるのだろうか？

.....

こうして家にいながらにして、インターネットでコチョコチョやっけていても、「やっぱ人間っていいよな」「まだまだ捨てたモンじゃないぜ」って思うことが確かにある.....。

2000年4月

買い物 -2000/04/02(日) Vol.197-

「もう、これじゃあどうしようもないね」

目に見えて色が悪くなっていくテレビを前にして、ついに女房がそう言った。「テレビ買おうか」という一声に、僕とゆーたは大喜び。

早速2人で、Jhoshinへテレビを見に行き、その場で買ってきてしまった。
勿論、「夏のボーナス一括払い」で.....。

:.:.:'° 。 .:*.:'° ° ' .:*.:. .:*.:'° 。 .:*.:.:.*:

「3階（おもちゃ売り場）に行っていていいよ」

配達の確認などをしている時、待ちきれなくなったゆーたにそう声をかけた。

.....しばらくして僕も3階に行ったが、ゆーたはビニール袋を手に提げていた。

ヤツはJhoshinに出かける前に、お小遣いを持って来ていたのだった。

そして、何も相談することなく、自分でさっさと買っていたのだった。

「ほほお～」

小さなことだけれど、自分で決めて自分で動く、そんな姿が嬉しかった。

:.:.:'° 。 .:*.:'° ° ' .:*.:. .:*.:'° 。 .:*.:.:.*:

ジグゾーパズルの第二弾を買ってやった。今度は「爆ボンバーマン」これは線や色がはっきりしていて、非常に見やすい！

早速家に帰って2人で始めたが、ゆーたには丁度良いようだ。

でも、僕にしてみるといささか物足りない.....。

まずいなあ、こうしてジグゾーパズルにはまっていくんだろうか？

:.:.:'° 。 .:*.:'° ° ' .:*.:. .:*.:'° 。 .:*.:.:.*:

おじいちゃんが自転車を買ってきた。

「ゆーたと一緒に行かれるように」ということだ。

先週のメンタルクリニックに行った時の、カウンセラーのSさんが言った言葉を思い出した。

「ゆーた君は、ホントにみんなに愛されて育ってきていると思います。今、心はとても傷ついているかもしれませんが、これを乗り越えられたら、傷つかないでスゥーって来るよりも、ゆーた君の成長にとってプラスになると思います」

ホントその通りだと思う。ゆーたの周りには、優しい人がたくさんいる。

:.:.:'° 。 .:*.:'° ° ' .:*.:. .:*.:'° 。 .:*.:.:.*:

携帯をドコモに変えた。

J-phoneの携帯電話を解約しにショップに行ったら、カラー液晶の携帯が「0円」だった。

「e-パック」(月額1400円)というがあり、ついつい衝動的に申し込んでしまった。J-phoneのスカイメー

ルは、仕事の連絡などにも使っていたので、ま、いっか〜と。

こうして僕も携帯電話会社の戦略に、しっかりと乗せられているのだった。
やっぱ、「新しもの好き」なんだと思う。(笑)
女房は新しい携帯電話の存在に気が付いていない。

∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴

春って何かとモゾモゾと動き出したくなる季節なんだなあ。
だから色々を買いたくなる、って?????(爆)

久しぶりに外を走ってきました。いよいよ二週間後には10 kmのレース。
間に合うだろうか.....?

2人で外へ... -2000/04/03(月) Vol.198-

今日は朝からおじいちゃん、おばあちゃんは出かけていった。
女房は新学期の準備のために学校へ。
さて、久々の時間。何しようか、と。

10時半から始まる「名探偵コナン」は絶対に見たい。
天気予報は午後から雨。
ってなことで10時前から40分ほど外へ出かけていった。
ゆーたはこる付き自転車、僕はランニングで。

いつもは自転車も家の側だけしか乗っていなかったのが、ゆーたにしてみれば「遠出」になる。

∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴

いつもはMP3のプレーヤーを持って音楽を聞きながら走るのだが、今日はそれもなし。僕もゆーたも相手のペースに合わせるができない。(笑)

「そこの道を左だよ〜！」
「センターラインに寄りすぎ、寄りすぎ！もっと左！」
「あそこは『止まれ』だよ〜」

走りながら声を出すのは、やっぱりしんどい！
でも、ゆーたはとっても楽しそう。風が気持ちいいみたいだ。

∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴

やっぱりゆーたは右足首が固くて、どうしてもペダルから外れてしまい、うまく力が伝わっていかないみたいだ。足が外れるたびに、ゆーたは自転車を止め、ペダルにかけ直す。

「自転車を止めるときは、コロの力を借りるんじゃなくて、どちらかの足で支えるようにしてやんなよ！」
そうってはみたものの、どうしてもコロで自転車を支えてしまう。

:.:.:'° 。.:.:'° ° ' .:*.:. .:*.:'° 。.:.:'.*:

10時25分頃、「コナン」に間に合うように家に戻ってきた。
ゆーたの自転車、まだまだ危なっかしい。
でも、それ以上に楽しそうなゆーたの顔が嬉しかった。

そうなんだな。

確かにコロがなくてもゆーたは自転車に乗れるだろう。だが、コロのあるなしではなく、ゆーたにとって楽しいことは何なのか、ということなんだなあ.....。

いつコロをとるか、ということなどはさして問題ではないのだ。

ゆーたは今までよりも、ずっと遠くへ、しかも自分の力で動く術を手に入れたのだから。これから先、もっと色々なところへ行って、自分の体で感じていけばいいんだ。

僕も気持ちのいい汗をかくことができた。

なんか嬉しくなって、お昼はゆーたの好きなロツテリアでハンバーグを食べに行った。(^^)

いよいよ新学期が近づいてきています。そう、僕のPTA会長も.....。

ってなわけで「ああ、PTA」というPTA活動の情報交換に特化したメーリングリストを開設することにしました。詳細はまた。

無洗米 -2000/04/05(水) Vol.199-

初めてこの「無洗米」を女房が買ってきたときは、去年の暮れの頃。

冬の寒い時、夜中になってお米を洗うのを忘れてしまったことに気が付き、慌ててお米をとぐ。夜中なので、既にボイラーのスイッチは切られていて、下に降りていってスイッチを入れるのも、面倒くさいし寒い！

だから冬場のお米の研ぎ忘れは、ちょっとした心の葛藤が必要になるものだった。(笑)

で、この「無洗米」の登場に僕は狂喜乱舞した！(オーバーな！)

いやあ、ホント楽になったもんだ！

:.:.:'° 。.:.:'° ° ' .:*.:. .:*.:'° 。.:.:'.*:

最近、このご飯のセットの仕事は、ゆーたの手に移っていった。

もっとも、「タダ」ではなく「30円」の労働報酬つきだが。

決まった小遣いをあげていない我が家では、ゆーたのできる仕事に対して5円、とか10円とかその都度あげている。

「肩たたきは5分20円」

「朝の新聞とり10円」

「ゴミ出し1袋5円」

.....ゆーたも「買ってもらう」よりも「自分で欲しいものを自分で買う」ことを考えるようになり、お金に対する執着はうるさいほどだ。

時には、必要以上にお金を要求したり、それが聞き入れられないと、おばあちゃんのお財布から小銭を抜き出ししたりすることもある。

:.:.:'° 。.:.:'° ° ' .:*.:. .:*.:'° 。.:.:'.*:

新しい労働の価格交渉も、また楽しい。
出してやってもいいなあ、と思う額より少な目に言う。
当然、ゆーたはたくさん(とてつもなく)要求する。

「ん～ん。しょうがない！ 後10円値上げしてあげよう！ どうだ！」

「よっし、おけ！」

……てな感じで。まだまだこちらの方が一枚上手なのだ。

ご飯の準備は、ゆーたの毎日の収入源としては大きなもの。

だから、夜になると「お米やるよ～！ 明日は何合！」と必ず聞いてくる。

もっとも、まだまだ手つきは危なっかしくて、そこら中にお米をばらまいたりすることの方が多いけれど……。(笑)

テレビが来ました！「きれいだ！」「やった！」「感動的だね！」

ホントきれいです。色弱の僕でもよくわかります。同時にプレステ2のグラフィックの美しさに、改めて驚きました！

モスバーガー -2000/04/06(木) Vol.200-

毎週木曜日はメンタルクリニックの日。

必ず夕食は「ロッテリアに行こう！」言い出す。

僕もロッテリアにしる、モスバーガーにしる、コンビニにしる、あまり嫌いな方じゃない。しかし、ゆーたと出かけるたびに外食となると、これは経済的に非常に厳しいものがある。女房に言っても、「家で食べればいいじゃないの！」という具合で経済的保証はない。(;_;))

月曜日の昼にも買い物ついでに、ゆーたとロッテリアに行ったばかりだ。

ゆーたは今日も「寄っていこう」と言い出した。

「パパはお金がないんだよ、ホントに。ゆーた少しは出してくれる？」

「ええーっ！ ヤダよお～！」

「じゃあ、今日はやめようか？」

「……………」

何とも言えない表情のゆーた。

結局、モスバーガーに寄ってあげることにした。しかし、やはり財布の中身は非常に寂しい。で、ゆーただけ食事をして、僕はコーヒーだけにした。

:*:~!° 。.:*:~!° ° !~*:~.。.:*:~!° 。.:*:~!~*:

テレビドラマなんかでは、親が何も食べずに子どもだけが食事をしている時などは決まって「とーちゃん！ とーちゃんは食べないの？」と子どもがふと手を止めて、訪ねるのが相場だが(ホントか?) ゆーたときたら、こっちのことなどおかまいなしに、わき目もふらずに焼き肉ライスバーガーと格闘していた。

僕はコーヒーを飲みながら、ゆーたのポテトをくすねて食べてやった。

それでも気が済まない僕は、車を運転しながら、

「ああ、お腹減った！」

と何度となく口にしていたのだ。 (;_;))

今日は始業式。夜、新しい担任の先生から電話があった。「明日、寄らせてください！」とのこと。

ドキドキ！

新しい担任 -2000/04/07(金) Vol.201-

4時過ぎ、学年主任の先生と新しい担任のY先生がやってきた。

上がってもらってゆっくり話をするつもりだったが、新年度の会合がまだ終わらず、急いで戻らないといけないとのこと。玄関先での立ち話となった。

「Yです。ゆーた君、よろしくな！」

にっこり笑って、ゆーたに手を差し出した。ゆーたはとても恥ずかしそうに出された手を握りしめた。

良い先生だ、と直感的に思った。

目が優しい。恐らく僕のこの感覚は間違えはないと思う。

隣のクラスの担任には、4年生の時の担任だったM先生がいる。

M先生の時も、クラスの雰囲気は良かった。みんながゆーたを支えてくれた。

クラスの名簿を見たら、ゆーたへの配慮を感じた。ありがたいことだと思う。

:.:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*:

「学校に行っていないことを、一番気にしてるのは、ゆーたです。だから、本人が『よし、行ってみようかな』と思うまで、ゆっくり待ってあげて下さい」それだけを伝えた。

「学校の帰りに、寄っていてもいいかなあ？」とY先生は言った。

ゆーたは嬉しそうに

「金曜日は、テレビがあるしい……。月曜日から水曜日だといいなあ！」等と注文を付けたりして。(^^ゞ

:.:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*:

学校に行っていない生徒を「戻すためだけ」に、クラスに働きかけるのはやめて欲しいと思う。

クラスの人々にとって、ゆーたが学校に行くことがプラスになるのだったら、色々な事を考えるきっかけとしてゆーたのことを語って行って欲しい。

それが結果的に、ゆーたにとってもプラスになるのだと。

逆に上辺だけの対応では、ゆーたもそしてクラスの人々も傷つけてしまうことになるから、中途半端な対応しかできないのなら、対応しない方がましだと思うのだった。

Y先生は、そんな思いを受け止めてくれそうだ……。

もう一つ嬉しかったこと。

学級通信に「坂本龍馬が好き」と書いてあった。(^^ゞ

僕も話が合いそうだ。(笑)

いつのまにやら、この「ぼちぼち…」も200号を超えました。講読してくださっている方も500名を超えている。こんなメールマガジンに……、という思いでいっぱい。
心から感謝します。

電話がけ -2000/04/09(日) Vol.202-

「どうしてクラスの委員を決めるのに、親が電話がけしなくちゃならないんだ！」とブツブツ言いながら、昨日の夜からアチコチに電話をかけまくっている。

毎年始業式の日、「クラス委員の投票用紙」が配られる。

昨年度と今年度の役が記入されており、親達は「てきとー」にをつける。

翌日、PTAの運営委員、要するに親達が開票し、得票の多い人から電話をかけ、各クラスの委員2名をお願いするのだ。

こんな仕事があるとは、ついぞ思っていなかった。

僕の経験からも、「クラスの委員は学級のまとめ役として、学級担任(学校)からお願いするもの」と思いこんでいたからだ。金曜日の夜の開票作業はあくまでも、作業だけだと。

特に僕の該当学年である6年生は、子ども会だの婦人会だのスポーツ少年団だの、いろいろな役が回ってくる。家庭の状況もまちまちだ。

そんなところに「小学校のPTA」を名乗る見ず知らずの人間から電話がきて、「役員をお願いします」とくるわけだ。

何軒かけたんだろうか？

何とかかんとか頼み込んで、後少して決まりそうだ。

しかし、しかし、これもなんだかなあ……。(--;)

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:.. .:*:・'° 。.:*:.....*:

PTAに関するML始めた。題して「Oh!PTA」

MLのタイトルを決めるときに、最初は「ああ、PTA」にしたんですが、なんか最初っからため息混じりじゃこれは先が思いやられるなあ、と。

これまたメールマガジン同様、一年間の限定ML。

感覚的に書きなぐるのではなく、自分の考え方を整理するために開設した、と言ったらいいだろうか？
もっともっと考え方の幅を広げていきたい。

「Oh!PTA」メーリングリストのご案内は、こちらです。

<http://www.osamu.net/ml/> 気楽にご参加下さい。

学級通信 -2000/04/10(月) Vol.203-

遅まきながら一昨日、壁に貼ってある去年の学年だよりや学校の連絡網などをはがした。黄ばんだ紙、ボロボロになったテープ。

去年ゆーたが学校に行かなくなった10月以降、貼るのをやめてしまった。

その時点で、ゆーたの学校生活は止まってしまっていた。

「オイオイ、ゆーた！ Y先生ってこんなこと書いてあるぞ！」

先週、担任の先生が持ってきた「学級通信」を読んであげた。

「ちゃわん」という学級通信には、「詩をひとつ」と題して飯田寛夫さんの「ぼくは川」という詩が紹介されていた。

新しいクラスを前にして、子ども達に何を伝えようかとアチコチ詩を探している担任の先生を思い浮かべた。同時に「青年教師」だった頃の自分の姿も……。(^_^)

ゆーたは静かに聞いていた。

:.:.:'° 。 .:.:.:'° ° ' .:.:'. .:.:.:'° 。 .:.:'.:.:':

新しい学年だよりを再び壁に貼った。

「日まで給食ないんだね」

「あ、今日は身体測定だ！」

学年便りの行事日程を見ながら、僕に話しかけるゆーた。

こんなところにも、「学校に行けない自分」を気にしているんだゆーたがわかる……。

いよいよ…… -2000/04/14(金) Vol.204-

いよいよ明日は、PTAの委員総会(PTA総会の前段階)ってのがあって話をしないといけない。総会の予行演習みたいなヤツだが。

ああ、始まってしまうんだあ……、って思わずため息が出てくる。

この間、新しい運営委員の連絡網を作ったり、ジャブみたいな作業が色々あって落ち着かない。まあ、こんな感じで一年間過ぎていくんだろうか？

運営委員の15人中、e-mailアドレスを持っている人、持つ予定の人が8人。

早速日常的なコミュニケーションに使い始めている。

「明日の委員総会は、ネクタイですか？」

「いや、僕はジーパンですが…」

ってな感じで。

これ使って面白いことができるかな？ 退屈しないだろうな！

:.:.:'° 。 .:.:.:'° ° ' .:.:'. .:.:.:'° 。 .:.:'.:.:':

いよいよ明後日16日は、小笠掛川マラソン。

10kmのレースへ参加。

当初、女房とゆーたも一緒に行く予定だったが、結局というか案の定、僕一人で行くことになった。女房は薫製づくり、ゆーたはテレビが見たい、ということだった。

膝の裏を痛めてから、あまり走れてないので、ひじょーに不安。

先週あたりから、ようやく走れるようになったと思いきや、今度は「まめ」ができて、痛くて走れない日があったり…。

途中で歩いたり、棄権したりはしたくないなあ、という思いが強い。

ゆっくりゆっくり走ってこよう、って。

「今日は、晩ご飯の片づけやらなくていいからね」

これが10 kmを無事走り終えた僕への女房の最大の贈り物だった。(笑)

：*：*：*。：*：*：*。：*：*：*。：*：*：*。：*：*：*：*：

静岡県の西部地方、掛川につま恋というヤマハのレジャー施設。

ここに今日は、全国から1万人近いランナーが集まったのだ。

掛川インターを出てからの渋滞がひどく、会場に着いたのは9時半。丁度フルマラソンがスタートした時だった。受付をすませて荷物を置いて着替え終わったのは、スタート10分前。アップもろくにできない状態で慌ててスタート地点に。

10 kmの参加者は約1000人。

記録を狙う人は前の方に位置している。

僕などは後ろの方。スタートの合図があっても、なかなか前に進まない。

「コースは園内を2周」と聞いたときから、「しんどいなあ」と思っていた。

この「つま恋」には何度か遊びに来ているが、色々な屋外施設があり、坂の上り下りがきついのだ！とにかく1周目はゆっくりいこう、たとえどれだけ抜かされても、調子がよくなっても、そう呟きながら走り始めた。

「どうしてあんなにスピード出せるの？」と思うくらいに、下り坂でみんなスピードをあげていく。僕は「我慢、我慢！」と意地になって(笑)より一層スピードを落とす。

二周目に入ったときの時間は、27分30秒。5分30秒/1kmのペース。

ちょっと早すぎるぞ、このままだと膝が痛くなるぞ、という心配が頭をよぎった。

一方、僕と同じくらいの所を走っていた人達のペースがガタンと遅くなってきた。でも僕は呼吸も乱れてなかった、どこも痛みない。

「よっしゃ！」

と悪い虫が頭をもたげた。

スピードを上げた。特に上り坂でヒョイヒョイ他の人を抜いていくのは、何とも言えず爽快だった。

(^^ゞ

.....7 kmあたりかな？ 長い下り坂。急に右膝が痛み始めた。

ありゃ、これはまずい！

このまま走れなくなるのか！

そんな不安がよぎり、極端にスピードを落とした。今度は、周りの人達にどんどん抜かれていった。(;-;)

残り1 kmちょっとの辺り。膝の痛みは消えた。

え~い、行っちゃえ！ と再度スピードをアップ。

途中少し痛みがぶり返したけれど、「行け！行け！」でそのまま走り続けた。最後の坂を登り切った頃、痛みの感覚はなく、体も軽く感じた。

Finish 地点が目に入った。

芝生の感触が何とも言えず気持ちが良い。

ゴール地点には僕の行っているスポーツクラブのトレーナーの人達も応援に来ていた。
「鈴木さ～ん！」

その声に思わず、両手を振って応えた。

ゴール地点を通過。

思わず、小さくガッツポーズを取っていた。(^^)

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:・'. .*:・'° 。.:*:・*:・*

前回のレースの時と異なり、今回は膝の故障からの走り込み不足が、不安材料として絶えず頭の隅にあった。だから「とにかく楽しい」という感覚にはほど遠かった。

むしろ途中で走れなくなったらどうしよう、そんなことばかり考えていた。だからこそ最後まで走り切れたことが、たまらなく嬉しかったんだと思う。

「楽しみ」の中身がより深いものになっているのだろうか？
自分への課題がより大きなものになっているのだろうか？

会場を後にするとき、続々とフルマラソンに参加した人達が帰ってきた。

最後の坂道で歩き出す人、歯を食いしばって走る人、何とも言えない笑顔を見せている人……。

一方、途中でリタイヤして「収容車」に乗せられて返ってきた人達ともすれ違った。

「いつかは」と思って走り始めたマラソンだけれど、「いつか」が次第に僕の心の中にしっかりと形作られていった。

教材販売 -2000/04/17(月) Vol.206-

「もしもし、私の××と申しますが、ゆーた君のお母様いらっしゃいますでしょうか？」

昼寝中に(おい!)電話で起こされ、すごぶる機嫌の悪い声で僕は、受話器から流れる声を聞いていた。

「いませんけれど？」

「お仕事でいらっしゃいますか？」

「はい」

「それでは後ほどご連絡したいと思います」

「チョット待ってください。どんなご用件ですか？」

「ゆーた君の教材について、ご連絡した次第ですが…」

「あの、そういうのは結構ですから、電話しないでください」

「わかりました。失礼いたします」

……こんなのはまだ良い方だ。

用件を聞いても、「いえ」とか「ちょっと」としか言わない輩も多い。そんなときは決まって「我が家はナンバーディスプレイですから、お宅の番号わかります。しつこくかけてくるなら、こちらとしてもきちんと対応しますから」

どう「きちんと対応する」のかは全然考えてないが(笑) そう答えることにしている。そこからは二度とかかってくることはない。

:*:~!° 。.:*:~!° ° '!:~!。.:*:~!° 。.:*:~!~!~!:

教材の売り込みが6年生になって、ホントに多くなってきた。
ダイレクトメールも勿論そうだ。

ゆーたに言うと

「やるわけないじゃん！」と相手にしない。

ヤツはとにかく「勉強」とか「教科書」とかには頭っから受け付けない。

もっとも僕も「学校の勉強なんて、どーってこたあないぜ！」とは言っているが。

それでもやらないよりもやってみようって方が嬉しいなあ、という本音もチラリと顔をのぞかせる。

ま、いっか！

「今からでは遅すぎる」とか「まだ間に合う」とか「高校受験に向けて」とか言った言葉に踊らされて、「学ぶ」ことが嫌いになるよりも、自分のペースで学び続けるようになることの方が、どれだけ大切なことか！

ゆーたは6年生の教科書に、名前すら書こうとしない。(^^)

ゆーたの机の上には、300ピースのジグソーパズルの第三弾が、広げられたままだ。

足のみめが痛い！痛い！痛い！痛い~っ！
42.195なんて「夢のまた夢」……？

留守番契約 -2000/04/18(火) Vol.207-

ペットボトルにタッチおじさんの携帯ストラップ。

それがゆーたの小銭入れだ。何か家の手伝いをするたびに、ジャラジャラ言わせながら、「ホイ、円ね！」とくる。

お金につられどうかはわからないが(少なくとも効果はかなりある！)言われなくても、朝起きたら新聞を取りに行ったり、放置された洗濯物のカゴを見つけると洗濯機に持っていったり、寝る前になると「明日は何合たくの？」と、フットワークがかなり軽くなってきた。

:*:~!° 。.:*:~!° ° '!:~!。.:*:~!° 。.:*:~!~!~!:

昨日からおばあちゃんは、天理市に出かけた。

僕が出かけようとするときに、車で送っていったおじいちゃんは、まだ帰ってこなかった。その時の僕とゆーたの会話。

「おい、一人で留守番してくれたらきちんと留守番料出すぞ！」

「おお、いいねえ~」

……以下、価格交渉が続く……。

「じゃあ、100円 / 1時間、ってことで決まりね！」

ということになった。

ゆーたは多少不安みたいだが、おじいちゃん、おばあちゃんの自由も生まれるし、本人のためにもなる。また、ゆーたの小遣いも増える。

一石三鳥、といったところだ。

.:*:・'° 。.:*:・'° ° '.:*:.. .:*.・'° 。.:*:...*:

玄関のチャイムが鳴った。そのとき、ゆーたは下にいて一人で遊んでいた。
「チャイムが鳴ってもカギを開けちゃダメだよ」と言っておいたにも関わらずドアをあける音と、誰かの声がして慌てて下に行った。

玄関には「恵まれない人のために花を買ってくれないか?」と、女性が立っていた。このところ、僕の町内でもアチコチ回っているグループがある、という話を聞いたことがある。
「申し訳ありません。ウチはそういうのはお断りしています」
そう言って帰ってもらった。

「ゆーたあ、カギを開ける前に『どちら様ですか?何のご用ですか?』と聞かないとダメだよ」と言っておいたが、何とも言えない複雑な思いがした。

ゆーたはホントに大人たちの愛情を一杯に受けて育ってきている。
今までゆーたの接してきた大人たちは、皆善良な人達ばかりだ。
大人に対する不信任、というものをゆーたは知らないのではないかとすら思ってしまう。色々ひどい事件を起こしたりするのは、ブラウン管の中や、新聞・雑誌の世界での出来事と思っているのかもしれない。

「大人社会は危ないことがいっぱいあるんだぞ」
事実、その通りだが、そう教えなければならぬこと自体が、何とも言えず悲しかった。

明日は水曜日。「帰りがけ寄っても良いですか?」担任の先生がまた、寄ってくれるそうだ。

筍 -2000/04/23(日) Vol.208-

筍が我が家の中を飛び交っている。
と言っても、筍のキャッチボールとかでは無論ないが.....。
金、土、日と立て続けに我が家に筍がやってきた。

我が家の周りには農家が多い。
女房が作った薫製を持っていくと、
「これ持って行って!」と色々な野菜が手に入る。

キャベツ、人参、セロリ、エシャレット.....。
先だってインターネット通販で買った、「安いジャガイモ」もまだ食べおおせていないし、最近、野菜中心の食卓に様変わりしてきた。ゆーたはこうした食事を「粗食」と呼ぶ。(^^ゞ

.:*:・'° 。.:*:・'° ° '.:*:.. .:*.・'° 。.:*:...*:

昨日、担任の先生が来る予定だった。
月曜日からクラス写真を撮るから、誘ってみたい、ということで我が家に顔を出すということだった。
女房は金曜日にももらった筍を先生にわけようと準備していた。

.....結局先生は来ずに、今日、我が家にやってきた。
手に筍を持って.....。

「これ、ウチの子どもと掘ってきたんです。よかったらどうぞ」

先生の手はまだ、土の色が残っていた。

「しまった！ 先を越された！」

実は我が家にも筍が……、などととても口に出せずありがたく頂戴した。

先生の好意が嬉しかった。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

帰りがけ、例によってY先生は

「じゃあな！ ゆーた君」と言ってちよっぴり汚れている手を差し出した。

「少し手がきたないけれどな……」と少々照れながら。

ゆーたはいつもにもまして、手をちょろっと出ただけだった。

「ゆーたあ、こういう土の色がついた手は、ホント素敵なんだぞ」

ま、その言葉に込めた僕の思いは伝わらないだろうと思いつつ、僕はそう言った。でも、いつかゆーたにもわかってくれるときがきたら嬉しいな、と思いながら……。

あらららら、「授業参観」「PTA総会」「肩書き」「大河内清輝君」……たくさん書きたいことがあったんですが、考えている内に時間はどんどん過ぎちゃいました。思いついたら書かないと消えちゃいますね。

観客二人 -2000/04/24(月) Vol.209-

クレヨンしんちゃん「嵐を呼ぶジャングル」を観てきた。勿論、ゆーたと二人で……。書きながら思った。いい歳した大人が一人で、真っ昼間、しんちゃんを観てたら、と……(--;)

午後1時10分開始。「きっと観客少ないと思うよ」などと話ながら1時頃、劇場に到着。館内にはお客さんは……4人いた。(爆)

しかしその4人も僕たちと入れ替わりで出ていった。

473席(あまりにも寂しかったから数えた!)ある劇場が僕たち二人の専用映画館になっていた。いつもは大声で笑うゆーたを時々たしなめながら観ていたが、今日は、周りを気にすることなく、ゆーたもせいせいと笑っていた。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

クレヨンしんちゃん、下品とか(確かに!)下ネタが多いとか(ウム!)子ども達が真似をして良くないとか色々と言われることもあるけれど、僕は面白いと思う。好きだなあ。

女房はとても一緒には行かれない、と言うが、僕の方は結構楽しみにしていたりもする。

ゆーたはしんちゃんのどこが良いんだろうか？

今日も、アクション仮面がパラダイスキングにやられているとき、しんちゃん達が一生懸命応援するシーンがあった。ふと横を見ると、ゆーたも顔つきを変えて、真剣に画面を見入っていた。

「あの時、ゆーたは感激したの？」

「う～ん、そうゆーわけじゃあないんだけどお」

変なところを見られてしまった、というような顔をした。

.:*:.'° 。.:*:.'° ° .'.:*:. .:*.:'° 。.:*:.:.*:

今まで観に行った映画は全部パンフレットを買っている。どんなものでも何かのついでに思い返すこともあるだろうから、と。

今までは、僕の方でお金を出していたが、今日は、日頃貯めているお小遣いで、ゆーたはパンフレットを買った。出かけるときに、「そうだ、パンフレット買わなくっちゃ！」と。

自分で自由に使える小遣いを持つことは、やっぱり良いもんだと。

でも、これからまた、「お金がない、お金がない」が続くんだろうなあ。

.:*:.'° 。.:*:.'° ° .'.:*:. .:*.:'° 。.:*:.:.*:

帰りの車の中、「とおべとおべ、もおちよっとお～！」なんて二人して歌ってた。丁度、一旦停止の所だった。

停止線を少し越えた所で止まったら、なんとおまわりさんがいた！

「ちょっとそっちに入って！」と。

一瞬ドキっとした。

最初は絶対に一旦停止違反で、切符を切るつもりだったと思う。

おまわりさんは、隣のゆーたをチラッとみた後、雰囲気が変わった。

「もう少し手前できちんと止まってよ！」と言ってお終いにしてくれた。

よかったあ～。

ゆーたが手にしていたしんちゃんのパンフレットの御利益だろうか？（笑）

小林さちこがエンディングテーマを歌ってました。
なかなか良い曲でした。

たかがゲーム -2000/04/26(水) Vol.210-

「ゆーた、とっても変な顔してたよ！」

ゆーたが下に行った後、あきらかに僕を非難する目で女房は言った。僕にもわかっていた。

僕もゲームは好きだ。やっているうちに次第に熱くなっていく。

また、ゆーたと僕とのコミュニケーションの中で、ゲームは重要な位置を占めている。進め方などを色々聞いてくるゆーたに対して、こちらのゆとりがある時は良いのだが、同じことを何度も聞いてきたり、「こうしたらいいよ」ということを聞かず、自分の好きなようにやって最後には泣きついてくる時などは、どうしてもイライラしたり、言葉がきつくなってしまうのだ。

そして、ついつい先回りして、「あーしろ、こーしろ」となってしまう。

「たかがゲームのことで」という気持ちが女房にはある。

でも、それが毎度のことで、全部が全部こちらにとぼっちりがやってくるのはたまったものではない。

：*：*！° 。：*：*！° ° '！*：*..。：*：*！° 。：*：*...*：

プレステーションの「デジモンワールド」という育成ゲームがある。

ひと頃、デジタルモンスターには、ゆーたと二人で随分遊んだものだった。ゆーたはやたらと先に進めたがって、とにかく「育てる」こともせず、敵に戦いを挑んでいく。当然のことながら「やられる」。「もっと育ててあげないとだめなんだよ」

何度言っても、同じことの繰り返し。うまくいかない「パパ、やってよ」とくる。

ゆーたが育てた(?)弱々しいデジモンでは、勝てるわけがない。

「こんなので勝てるわけがないよ」とブツブツ言いながら、バトルに挑む。何とか勝てることもあるが、とても時間もかかるししんどい!

「だから、最初っからパパの言うとおりにやっておけば良かったでしょ?」となる。

一度や二度のことではなく、ゲームの度に毎度のことになれば、こちらイヤになってしまう。

：*：*！° 。：*：*！° ° '！*：*..。：*：*！° 。：*：*...*：

でも、どうしてだろう?

学校のことや他のことでは、それなりにゆーたに合わせられるようになってきたと思うのだけれど、ゲームのこととなるとムキになってしまうんだらう.....?

単に僕もゲームが好きで熱くなりやすいから、というだけではなんか、スッキリしない。

「いちいち、口にするまい!」そう思って黙っているときに限って、ゆーたは「パパやってよ」となる.....。

メモリーカードなるものを買いました。これでゲームのデータがセーブできるようになりました。これで僕もゲームが進められる!(--;)

やっぱりゲーム -2000/04/27(木) Vol.211-

昨日から、「ゲームのこととなるとムキになってしまうんだらう.....?」ということがずっと頭から離れなかった。何かしらふっとした時間の隙間に、その思いが顔をもたげてくるのだった。

こんなときはしょうがない、考えるのが面倒くさくなるまでつきあうしかない。そう思って一日過ごしていた。

で、思った。

「ゲーム」をしている時、ゆーたの欠けている能力とをイヤと言うほど見せつけられるからだろう、と。これでもか、というくらいに僕の目の前に突きつけられるゆーたの課題。その課題の多さ、壁の高さに僕はイライラするのだから、と。

物事を筋道たてて考える...

右とか左とかいった認識能力...

人の思いを受け付けず、自分の考えに固執する...

.....。

こうやって言葉にしまえば、簡単だしゆっくり時間をかけないとダメだよ。他のことと一緒にでしょ?となる。

でも、どうして「ゲーム」の時なの? という思いは消えなかった。

：*：*！° 。：*：*！° ° '！*：*..。：*：*！° 。：*：*...*：

木曜日はメンタルクリニックの日。

ゆーたのカウンセリングが終わった後、カウンセラーのSさんにその話をした。

「……自転車や、勉強のことなんかは、『ま、できなくても良いや』って思いうけれど、『ゲームはなんとかしたい』という強いこだわりがゆーた君の中にあるからだと思いますよ。これは何とかしたい、って思いが強いからでしょうね」と。

なるほど、そうか！

「こだわりの強さ」故に、ゆーたもイライラして、こちらにもぶつけてくるのか！ と。他のもののようにてきとーな距離を置けないんだ。

:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.. .:*.:'° 。.:*...*:

「もっと簡単なことにこだわりを持ってくれば、楽なんだろうがねえ。ゲームって難しいですモンね」
「お父さんしかつきあえないですからね。こればかりは……」

結局の所、

「ゲームが悪いのではない！ ゆーたが悪いのも勿論ない。悪いのは僕なんだ！」

ということだろう。(笑)

なんでもかんでも自分で背負い込むのではないけれど、モヤモヤが晴れたことで、随分と気持ちはスッキリした。

昼間、本屋へ行って「攻略本」を買ってしまった。ゲームをやるには「予習」が必要なのだ！ (^^)

2000年5月

やっぱりヌメモン(;_;) -2000/05/01(月) Vol.212-

「どうやっても、ゆーたはやっぱりヌメモンなんだ……」

泣きそうになるのをこらえて、ゆーたが言った。

「ヌメモン」というのは、今、ゆーたが夢中になっているゲーム「デジタルモンスター」のキャラクタ。

このゲームは、卵から、モンスターを育てていく育成ゲーム。

幼年期、成長期、成熟期、完全体……と育てていく。

その際、ご飯をあげたり、トイレに連れて行ったり、バトルをしたり、トレーニングをしたり、時にはほめ、時には叱り、そうやって育てていくのだ。

モンスターはその育て方によって色々進化していく。

で、この「ヌメモン」というのは、「ウンチ」をモデルにしたナメクジのようなキャラクタ。育成に失敗(ご飯をあげ損ねたり、トイレに行かせなかったり……)すると、この「ヌメモン」になってしまうのだ。

実際にやってみると、結構難しく、僕も結構「ヌメモン」になってしまう。

ゆーたの育成方法には、それこそゆーたそのものが表れている。

丁寧さがなく、「育成ミス」ばかりしている。

で、結果、今度こそは、と思っても「ヌメモン」になってしまうのだ。

「どうせゆーたは……」という言葉にはドキっとした。

「ヌメモン」の姿と自分とをだぶらせているゆーた。

ゆーたが自分が育て上げた、という実感を持てるようにしてあげたいと、思うのだった。

：*：*’° 。 :.*:.’° ° ’.:*:. :.*:.’° 。 :.*:’:*:

育てる中に「ほめる」「怒る」というのがある。

言うことを聞かなかったりしたら「怒る」。すると「しつけ」があがる。

バトルに勝ったりしたら「ほめる」。すると「ご機嫌」があがる。

「あ～あ、しつけができてないから、命令聞かないぞ。もっときちんと怒らないとダメだよ」

「あんまり怒りすぎたら、可哀想ジャン！」

これまた、ドキ！ っとした。 (--;)

最近忙しいです。と言ってもデジモンのゲームに.....。
「どうすればいいの？」に答えるためにはそれなりの予習が必要なのです。
5月です。走っていて「緑」の美しさを改めて感じます。

喫茶店 -2000/05/03(水) Vol.213-

以前、時間が潰しに喫茶店に行った。

特にお気に入り、マンガ喫茶。

少年マガジン、サンデー、ジャンプ。ビックコミック、オリジナル、スペリオール.....。片っ端から読んでいた。時にはランチを含めて2時間近くも居座ることもあった。

マラソンを始めてからは、とんと行かなくなった。また、行ったとしてもホンの短時間で切り上げるようになった。時間ももたない。マンガはコンビニに行ったときの立ち読みで済ますようになった。(オイオイ)

マンガを読むよりも、外を走っていた方が気持ちが良いからだ。

：*：*’° 。 :.*:.’° ° ’.:*:. :.*:.’° 。 :.*:’:*:

今日は、女房はインターハイの予選。おじいちゃんとおばあちゃんは協会へ出かけていった。ということで僕とゆーたと二人っきり。

5月5日の子どもの日を前に、ゆーたはウキウキしていた。

今まで、子どもの日には、何かしら買ってあげていたからだ。

新聞広告を広げ、欲しいおもちゃがあったみだいで、

「ねえ、パパあ～、子どもの日だから、欲しいものがあるんだ！」

「ん？何が欲しいの？」

「3980円するヤツ」

「ええーっ！ そんなお金パパにはないよっ！ パパが出してあげられるのはせいぜい1000円だなぁ.....」 < 現実の問題として(涙)

途端にゆーたの気持ちやしぼんでいくのがわかった。

「1000円だったら何も無い方が良くんだ！ どうせゆーたなんかは...」

.....始まったなぁ、と思った。一度こうなると浮上するのはなかなか難しい。「どうせゆーたなんか」そ

う言いながら、下においてコタツで寝てしまった。その後、お昼のご飯も食べずにゴロゴロしていた。

しばらくしたら、女房が帰ってきた。

女房とのやりとりの中で少しは気持ちがほぐれてきたみたいだ。

しかし、何かことある毎に僕を非難するような口調で、突っかかってくる。

「もお、やだ！」

一言発して、僕は外へ出かけた。

:.:.:'° 。 .:.:.:'° ° ' .:.:.. .:.:.:'° 。 .:.:..:~*:

小さな、そして静かな喫茶店。

ゆっくりコーヒーを飲みながら新聞を読んだり、持っていったCGIプログラムのソースをチェックしたり.....。しばらくゆーたのことは考えないようにした。

居座ること一時間。

ふうっとため息をついて喫茶店を出た。

5月です。走っていて「緑」の美しさを改めて感じます。

いつかは... -2000/05/04(木) Vol.214-

17歳の少年のバスジャック事件のニュースが、朝からテレビでひっきりなしに流されていた。

そんなニュースに

「可哀想ねえ」「人が死んだら、ホントに取り返しがつかなくなるよな」と女房と僕は話をしていた。

その時、ゆーたが

「これで地球の人口が一人減ったんだよね」

と言った。

ゆーたは時々、こういうことを言う。

その度に僕たちはドキっとしてしまう。

:.:.:'° 。 .:.:.:'° ° ' .:.:.. .:.:.:'° 。 .:.:..:~*:

女房は言う。

「そうじゃないでしょ～」

ゆーたは「しまった」という思うと、決まって「だって～」と自分を守り始める。自分のまずいことを自覚している時であればあるほど、自分を正当化する理由が欲しくなり、「悪魔」が出てきたり「魔女会」が出てきたりする。こちらのゆとりがなく、イライラしているとますます手に負えなくなってしまう。

一呼吸必要になる。

「ゆーたあ、ママやおばあちゃんやおじいちゃんやパパが死んだら、そんな時でも、『人口が減った～』なんて思わないらあ？」

.....名前を出す順番も一瞬考えてしまった。やっぱ、僕は最後だろう(笑)

「そりゃあ、そうだよお！」

「ウン、そうだよね。さっきの亡くなった人にも家族がいたんだよね」

「だってえ、わからなかったんだもん」

「そだな、いつかは自分のことと、周りのことが結びつけられるようになると良いね。今はできなくてもね」

.....それでなんとなく収まった。

∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴

ゆーたがわかったどうかは別にして、「いつかは」という言葉を僕自身が口にできなくなったらどうなるんだらう.....?

「いつかは...」と思い続けていれば、その日が来る。そのために少しずつでも思っている。

17歳の少年達が立て続けに起こした事件は、僕の心の中に「いつか」が信じられなくなる時の事を思い起こさせてしまった。

「親は...」 -2000/05/07(日) Vol.215-

親は考える...自分の娘の性格は誰に似たのか、と

親は考える...自分の娘は非行になんかはしないだろうか、と

親は思う...もう少し、勉強してくれないものか、と

親は思う...もう少し、家の手伝いをしてくれないものか、と

親は願う...人を大切にできる人間になって欲しい、と

親は願う...曲がった生き方だけはしてほしくない、と

親は小言を言う...たとえ娘にどんなにウルサイと思われても

親は小言を言い続ける...たとえ娘にどれほど反抗されても

親は自分の娘に何かあったなら

どこにでもとんでくる

どんなに忙しくてもとんでくる

どんなに遅くてもとんでくる

何もかも、ほっぽりだして

親は考える...、親は思う...、親は願う...、親は言い続ける.....

親は、

自分の娘だから..... 自分の娘だから.....

(1981/6/6 14HR学級通信 No.48)

∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴

この間、何故かしら昔の日記何ゾを引っ張り出して見たくなるが多かった。

もう、20年前の学級通信。

上の詩は、初めてクラス担任を持ち、初めての退学者を出したときだった。

まだ、教師に成り立てだがむしゃらに毎日を過ごしていた。「退学」ということもショックではあったが、

同時にその生徒に対する両親の姿が忘れられず、上のような詩を書いたんだと思う。

「私達には説得できません」

バスジャック事件の時の母親の言葉が心に残る。

上の詩に登場した彼女も二児の母親。
彼女の高校生活はわずか数ヶ月で終わったが、毎年送られてくる年賀状の子ども達の写真、そっくりだと笑っている。

不安定 -2000/05/09(日) Vol.216-

ゆーたというよりも、僕の方だろうか？

先日のバスジャック事件の母親が言った

「私達には説得できません」

という言葉が、いつまでもこびりついてはなれない。

日曜日などは、テレビのどのチャンネルをつけても、「17歳の少年の犯罪」一色。どこの番組のコメントーターか忘れたが、「親がそんなこと言われたら、私達はどうすることもできない」などと言っていた。

僕などは、その母親の気持ちがなんとなくわかるようなきがした。

ゆーたがもっと大きくなって、力もつき知恵もつき、精神だけが今のようなアンバランスのまままで育っていったら、今回のような事件を起こす可能性は決してないとは言いきれない。

今、ゆーたがどうしてもなくパニック状態になってしまう時、正論を言っても、勿論聞かない。ますます興奮させるだけだ。

大体の事は、聞き流すか放っておくかですますが、あまりにも目に余るときは、力づくで2階に連れてきたりするのだが、いつまでも通用するものではない.....。

:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.. .*:.'° 。.:*:..*:

このGW中、どうしてだろう？ ゆーたはイライラしている。

何がゆーたの気持ちを不安がらせているのか、よくわからない。

一方、PTAの仕事、特に「会長」ということで回ってくる色々な役。

それに伴う会合が、次々と入ってくる。

.....地域の体育振興会、公民館の運営委員、放課後児童会の委員、健全育成会の理事(?) etcetc.....。

自分の中の心がバラバラになっていくような感じがしてたまらない.....。

今日は、小学校の第一回目の運営委員会でした。会議は2時間で終了。

この会合は、僕の中でも大事にしたいなあ、と。なかなか良い雰囲気で行うことができました。
良かった、良かった！

伊豆高原 -2000/05/14(日) Vol.218-

女房が伊東での尾木直樹(字、わからん!)の講演会を聞きたいということで昼前沼津の実家を出て、伊東へ向かった。例によって例のごとく、講演会の時間はあまりはっきり調べてない。

「伊東までだったら、1時間もかからないぞ」と僕。

「そんなことないら～？」と方向音痴の女房は言う。

.....何度、この女房の方向感覚のなさに泣かされたことか！ (--;)

案の定、伊東には45分ほど、10時過ぎにはで到着。講演会は午後の2時から。

さて、どうやって時間を潰そうということで、まずは伊東のおもちゃ屋へ直行！ おじいちゃんからもらったお小遣いで何か買わないと気が済まないゆーたの要望に応えるためと、あわせて講演会の時の時間つぶし用に必要という双方の利害が一致したためだ。

：*：*！° 。 .：*：*！° ° '！*：*：.。 .：*：*！° 。 .：*：*：*：

その後、伊東の少し南、伊豆高原へ出かけた。

結婚当初、熱海に1年間ほど住んでいたため、よく伊豆高原には二人で出かけた。もっとも女房はあまり覚えてないらしいが.....

車を走らせながら、「あ、ここ、覚える？」と聞く僕に、あまりにもはっきりと「えっ？ 覚えてないよぉ～」と答える女房。もしかしたら一緒に行ったのは女房じゃなかったかなあ、等という思いも.....
(^^ゞ

伊豆高原も随分と様変わりした。

かつてはペンションくらいしか目立ったのはなかったが、ここ数年で色々な博物館だとか、小さなこだわりのショップや、様々な体験工房などができてきた。

で、時間もないこともあり、ゆーたの好きな「ねこ博物館」に行った。

大人一人1300円。確かに色々面白いモノはできてはいるが、全体的に入館料などが高いのが何とも言えない。

：*：*！° 。 .：*：*！° ° '！*：*：.。 .：*：*！° 。 .：*：*：*：

「先生におみやげ買って行ってあげたら？」

「ポミュがお金出すの？」

「そうだよ」

「.....(--;)」

「パパが半分出してあげるから。値段とか中身じゃなくて気持ちだからね」

「うん、わかった！ じゃ、ママも出して一人3分の1ずつにしよう！ それで、割り切れない分は、ママが出す、と言うことで！」

.....う～む、ここらあたりの知恵はよくまわるヤツだ！

350円のおみやげ。一人110円の出費となった。

：*：*！° 。 .：*：*！° ° '！*：*：.。 .：*：*！° 。 .：*：*：*：

講演会も終わり、途中のローソンで飲み物やおやつを買った。

車に戻るなり女房が、

「ゆーたったら、ひどいよ～！」

「？」

「これ、気がつかないウチに入れてあるのよ！」

見るとデジモンのカード。

値段は150円だった。しっかりヤツは元を取っていた。

「講演会面白かった～」と女房は言っていました。「ホントにママは我が儘なんだから～」と言うと、「今日は良いでしょ？ 母の日なんだから！」と。そうなんです。母の日でした。

エビフライ -2000/05/16(火) Vol.219-

「食事の時のおかずなどで、自分の好きなものを一番最後までとっておく人は貧乏だった」と何かの時に言われた。逆に裕福な人は、最初においしいもの、自分の好きなものから食べていくのだ、と。

僕は、いつもおいしいものは最後の最後までとっておく。(^^)

:.:.:'° 。 .:.:.:'° ° ' .:.:.:。 .:.:.:'° 。 .:.:.:~*:

伊豆高原でのこと。

食事は豪勢にいこう！ ということで「地魚」という言葉に惹かれて落ち着いた感じの和食のお店に入った。ゆーたは、あじの刺身定食。女房はヒレステーキ定食。そして僕はミックスフライ定食を頼んだ。

.....う～む、どこが「和食」なんだろうか。(笑)

僕のミックスフライ定食が運ばれたのは、一番最後だった。

大きなエビフライがあった。

例によって例のごとく、僕は一番最後にとっておき、一口パクついた。

食事を終えた女房が言った。

「パパのエビフライおいしそうね。ちょっと頂戴！」

半分ほど残った。

「おいしいねえ、ゆーたも一口もらおう？」

「どうしようかなあ。フライは太るからなあ.....」

「やめとけ、やめとけ！」とは僕。

「う～ん、でも一口だけ」等と言いながらも、結局、僕の所にはエビの尻尾だけが戻ってきた。(;_;

悲しみを感じつつも、何とも言えず可笑しかった。

連日の会合.....。でも、PTAの委員さん達との話ができるのは、とても良いことだと。大変だけれど、楽しい会合が二日続きました。でも、明後日からは.....?????

ハードディスク -2000/05/22(月) Vol.220-

いやあ、忙しかった！

連日のようにどこかで会合があって、ほんとにまあ、ってな感じ。少し前からハードディスクから異音が出ていた。こりゃ危ない！ と、危機感を募らせていた。丁度、油の切れたような、「ギーギーッ」という音が、回転音と一緒にしていたのだ。たった。

う～ん、去年の二の舞を踏むまい、と今度は準備万端、バックアップをとってハードディスク交換に踏み切った！

何もこんな忙しいときにやらないでもいいものを、と思いつつ、この先、時間的に余裕が生まれる保証はない。ノートパソコン、e-one、MOを駆使して、久しぶりにパソコンを引っ張り出した。

で、再セットアップしたはいいいけれど、どうも今ひとつ不安定。

なかなか元の環境には戻らなかった。(今も、まだUSBの関係がどうもよくなかったり) 実際、よくも

こんなにインストールしてるモンだ、とあきれたり感心したり.....。(^^ゞ

:.:.:.°. ° .:.:.°. ° ' .:.:.°. .:.:.°. ° .:.:.:.:.:

大事なデータとして特に気をつけたのが、やはり一連のメールマガジンのバックナンバーとHPのファイル。そして色々作ってきた、ワードや一太郎やエクセル、住所録ファイル。これらはこの世に二つとないものだからなあ。

日記の代わりに、パソコンを使うようになってから、特にこの「ぼちぼち」は、今までの自分を振り返るために大きな意味を持っている。このデータをなくしたら、一番、ショックを受けるだろうなあ。

.....あ、でも、誰か保存してある人がいるかな？（爆）

:.:.:.°. ° .:.:.°. ° ' .:.:.°. .:.:.°. ° .:.:.:.:.:

完璧を期したつもりのバックアップ。
でも、しっかり抜けていたものがあった。
辞書ファイル。 < 単語登録辞書があ.....。(;_;)
HPのお気に入り。 < あれだけ集めるのは、大変だったのに...(;_;)

ま、いっか！
一時は、ほんとにパソコンを買い換えないとだめなんかなあ、と冷や汗ものだったから。やっぱり、自分で作ったパソコンはかわいいモンだ、と。夜中一人でニンマリしていた。（病気か？）

今週も明日から、連日のようにPTAの会合です。う～ん、素敵！（..）

元教員 -2000/05/24(水) Vol.222-

夜、保体部の会合が終わった後、副部長をやっているお母さんが、
「ゆーた君、どう？」と声をかけてきてくれた。
去年同じクラスの女の子のお母さん。
教室に行ったら、「ゆーた通信」があったから手紙を入れてきた、と子どもが言っていた、と。

:.:.:.°. ° .:.:.°. ° ' .:.:.°. .:.:.°. ° .:.:.:.:.:

ゆーたの親という立場を離れて、昔に立ち返り、もし自分がゆーたの担任だったらどうするだろうか、と
考えたりもした。

学年の担任団で話し合い、「ゆーたのことを学年全体の中で、どうとらえるか」ということを確認する。
そこがぶれていたら話にならない。クラスにとってどう位置づけられるのか、学校の中でどう位置づけられるのか、ということがポイントになるだろう。

総論的、一般論的に「学校に来られない不登校の子どもはかわいそう」ということならば、何もしない方が
良い。

子ども達への問いかけ。
実際、ゆーたはクラスのみならず、不愉快な思いをさせたこともたくさんあった。そうしたことも含めて、
学校に来られない「友達」というものをどう考えるのか、ということ投げかけたい。

学校に来ていないときに思うことと、いざ学校に行った時、色々なことに直面した時に思うことでは、全く違うのだから…。

親たちに対して

きちんと話をする場所が作られれば良いなあ。

単に「ゆーた」という個人の問題ではなく、一人一人の問題として、人を思いやるとか、他人を大事にするとはどういうことなのか、といったことを考える絶好の機会として位置づけられるのか、ということ。

:.:.:'° 。 .:*.:'° ° ' .:*.:. .:*.:'° 。 .:*.:.:*.:

教員時代、生徒が問題を起こした時に僕は必ず、
「この問題をきちんとクラスみんなに投げかけたい」

そう親にも本人にも言ってきた。

そして学級通信にも個人名を出して、問いかけてきた。

最初は嫌がる親もいた。

でも、「トラブルは次の段階に進む一番の良いきっかけ」だと一貫して思ってきた。トラブルに真正面から立ち向かう力量が、他でもない僕自身につきつけられ、また、それが僕自身を成長させてくれたとっている。

:.:.:'° 。 .:*.:'° ° ' .:*.:. .:*.:'° 。 .:*.:.:*.:

僕だったら……。

そう思うことはたくさんある。

しかし、それは「教師経験者」としての「僕」であって、「親」としては担任や学校が考えることだと思っている。

でも、正直、その二つの人格がうまく使い分けられない自分がいるなあ、そう思う。

パソコンの再セットアップの時に、ICQのコンタクトリストのバックアップ、忘れてました。すみませ〜ん。一度ICQでメッセージお願いします。

友達 -2000/05/23(火) Vol.221-

先週あたりから、友達が我が家に遊びに来るようになった。

担任の先生が毎週やってきて「ゆーた通信」に対するクラスの友達の手紙を持ってくる。ゆーたもまた、その度に思いついた「さもないこと」を書いて先生に渡す。

先生は学校の一角に「ゆーた通信」を貼っておく。その横には、「ゆーた君へのお便り」という箱が設けられている。

先生はクラスの子ども達に、「書いてほしい」ということは言わずに、我が家に来る前に、その箱に入っている手紙を持ってくる。

:.:.:'° 。 .:*.:'° ° ' .:*.:. .:*.:'° 。 .:*.:.:*.:

「信用できないんだなあ……」

そんなことをゆーたが口にした。

つまりこういうことだろう。

先生への信頼感なり、安心感なりはそれなりに生まれてきてはいる。心の中で気にしている「学校」が少しは近づきつつあるのかもしれないが、その思いが強くなればなるほど、「本当に大丈夫なんだろうか」という気持ちも強くなっているのではないだろうか？

それが「信用できないなあ」という言葉になっているのかな、と思う。

：*：*！° 。：*：*！° ° '！*：*..。：*：*！° 。：*：*...*：

先週の水曜日、先生が来るより一足先に、クラスの友達が3人遊びにきた。そのうち二人は、去年も同じクラスだった子だ。久しぶりに我が家に子ども達の声に戻ってきた。

あるお母さんに言われました。クラスの子も達にも親たちにも、きちんと話をしてほしい。しっかりと理解してあげたい、と。これについてはまた.....。

2000年6月

背中を押す -2000/06/01(木) Vol.222-

毎週水曜日には、担任の先生が必ず我が家に来てくれる。

その度に「ゆーた通信」に寄せられたみんなの声を届けてくれ、ゆーたはまた、新しい「通信」を書いて先生に渡す。

昨日先生はとっても忙しいらしく(そうだなあ、運動会前だもんなあ...) 玄関先で顔を見せただけで帰っていった。ただ、

「明日は、クラス写真をとる最終日だから、先生はゆーた君に是非、来てもらって、全員で写真を撮りたいと思っている」

そう言った。

クラスのみんなからも

「ゆーた君と一緒に写真を撮りたい」という声が多く寄せられていた。

「う～ん、どうしよう.....」

「明日の朝、時間がわかったら電話するから」

先生は帰っていった。

：*：*！° 。：*：*！° ° '！*：*..。：*：*！° 。：*：*...*：

夜中、僕は最近ゆーたと一緒にやっている、「デジモンワールド」のラストボスの直前までゲームを進めておいた。ゆーたが朝起きたときに、必ずやるだろうと思って.....。

朝、夢見心地の僕の耳に、ゆーたの「あ、ムゲンドラモンだあ！」という声が聞こえてきた。

.....見事(笑) 敵をやっつけてゆーたはエンディングを迎えることができた。

：*：*！° 。：*：*！° ° '！*：*..。：*：*！° 。：*：*...*：

2,3日前から寝込んでいるおじいちゃんから、地域の4つのゴミ集積所からアルミ缶を集めてきてほしい、と頼まれていた。

「おい、ゆーた！一緒に手伝ってくれたらアルバイト料払うぞ！」

「いくら？」

「そうだなあ、20円かな？」

「ええっ！少ないよお！」

「そっか、一カ所10円。4カ所40円！ ボーナスで+5円。45円でどうだ！」

「うん、いっかな……」

アルミ缶の回収は9時頃から。

~~~~~

そうこうしているうちに、先生から電話があった。

「8時20分頃から撮りますが、どうでしょう？」

ゆーたは電話でモゴモゴ言っていたが、とりあえず電話を切らせた。

「ゆーた！ 今日に行こう！」

「先生はゆーたのことを思ってくれてるのは、わかるでしょ？ クラスのみんなも待っている気持ちはわかるでしょ？ 今日が写真の最後なんだよ。今までゆーたに『こうしてほしい！』って言ったことのない先生が、今日の写真はみんなで撮りたい！って初めて言ったでしょ？ それに応えてやってもいいんじゃない？

みんなも待っているみたいだし……」

「写真を撮って、アルミ缶の回収に行って、ボタン電池を買いに行く、ってのはどうだ？ 時間的にも丁度良いぜ！」

~~~~~

体育館シューズを持って、ゆーたは学校に行った。

学校に着いたとき、担任の先生が体育館の前で待っていた。

その横には、今まではずいぶんと声をかけてくれてきた、先生もいた。

ゆーたのクラスの写真撮影が終わった。

「緊張したよおっ！」

撮り終わった後、ゆーたはそういった。

~~~~~

メンタルクリニックに行く前に、本屋に寄っていった。

ゆーたが欲しがっていた、「デジタルモンスター」の本を探しに。

「今日はパパが買ってあげるよ。でも、いい？ これはゆーたが学校に行ったから買ってあげるんじゃないよ。今日、ゆーたが『ヨイショ』って勇気を出したことが嬉しかったんだよ」と。

「これから先も、ゆーたは自分の気持ちと戦ったりすることがあるだろうし、勇気を出して行くことがたくさんあるかもしれないね」

どこまでわかってくれるかは別にして、そう僕は話しかけた。

ゆーたはデジモンの本が気になって仕方なかったが……（笑）

最近、疲れがたまってます。気候のせいもあるんですが……。ちいっと体がだるいですね。

「そうだねえ、怒れちゃうねえ～」

まるで小さな子どもに言うような口調で女房が言った。  
その言葉がとってもストレートに僕の心の中に入ってきた。

:\*:・'° 。.:\*:・'° ° '・\*:..。.:\*:・'° 。.:\*:...\*::

昨日は小学校の運動会。

昨年まではなんだかんだと言いながらも、運動場にゆーたの姿があったのだが、今年はPTA会長として僕だけがグラウンドにいた。

一日中、子ども達の姿を目で追っていた。  
一生懸命にがんばっている子ども達...  
そんな子ども達を精一杯励ます先生達。そして親たち...

中でも、同じ6年生の子ども達を見て、「こんなにもしっかりしてきたのか」と何度も驚いた。

君、随分と背が伸びたなあ...。  
××さん、随分と表情が大人びてきたなあ...。  
しっかりしているなあ.....。

やはりゆーたの姿のない運動会は、なんとも寂しいものだった。

:\*:・'° 。.:\*:・'° ° '・\*:..。.:\*:・'° 。.:\*:...\*::

最近、ゆーたは「疲れた」とか「どうせダメなんだ」とよく口にするようになった。おじいちゃんがちょっと寝込んだりしてることもあるのだろうが、「ゆーたは病気だから」と言った具合に.....。

今日も一日ゆーたと顔をつきあわせながら、いつもは受け流すゆーたのそうした言葉に、過剰なほど反応している自分がいた。

「ダメ、ダメ、ってそう言い続けることが一番ダメなんだ」

「最初っからあきらめてしまったら話にならんだろ！」

.....。

:\*:・'° 。.:\*:・'° ° '・\*:..。.:\*:・'° 。.:\*:...\*::

忙しいのもあるんだろうなあ。

今日の夕方地域での体育振興会の会長さんの所に出かけるという約束をすっかり忘れてしまった。昨日、話をしたばかりなのに.....。

時間がホント細切れになってしまっている。

一つ一つのことに関連性がなく、次から次へと頭を切り換えていかなければならない。いつも時間を気にしている。

でも、やはり一番は、昨日の運動会なんだろうな。

ゆーたによって色々なことを教えてもらったという感謝の気持ちはありつつも、ゆーたと周りの子ども達



のギャップをまざまざと見せつけられたという気持ちの方が、今は僕の心の中では大きなものになっている。

思いっきりへこんでしまっている。

## 2000年8月

発熱 -2000/08/08(火) Vol.224-

昨日ゆーたが突然、39度の熱を出した。  
こんな熱を出すのは、あまり記憶にない。

この二ヶ月というもの、毎日のようにゆーたの感情の起伏に振り回され続けてきた。  
ちょっとしたことで怒り出す。

特におばあちゃんに当たることが多い。

ちょっとしたことでゆーたが怒ったりすると、それを真正面から説き伏せようとするのだ。ますますゆーたの気持ちは抑えられなくなる。

「もっとさあーっとかわしてあげればいいのになあ」

と思いながらも、ゆーたとおばあちゃん、おじいちゃんのやりとりを聞く。

そのうちどうにも手がつけられなくなって、

「パパあ、ちょっと来て！ ゆーたがしょうもないから！」と呼ばれる。

僕はますます気持ちが重くなっていく。

もちろん、ゆーたの怒りはますます激しくなる。

:.:.'° 。.:\*.'° ° '.:\*:. .:\*.°'° 。.:\*...\*:

ゆーたの感情がコロコロ変わるのにあわせて、僕の思考もコロコロと一日のうちに何度も変化を見せる。  
朝のうちは、とっつても前向きに物事を考えていた僕が、ゆーたが、「どーせゆーたなんか！」と叫んだりしているのを聞くと、途端に気持ちが暗く沈んでいく。

そう、一日のうちに何度も何度も、そんな浮き沈みを繰り返す。

パソコンの前に向かう時間がないわけではない。

色々との揺れや、ゆーたのことを書き残そう、そんな思いでパソコンに向かっているけど、思考が中断させられたり、気持ちが萎えたり。そんな毎が続いた。

:.:.'° 。.:\*.'° ° '.:\*:. .:\*.°'° 。.:\*...\*:

「自分の感情を思いっきり出せるようになったことは、良いことですよ。大事なことです」メンタルクリニックの先生はそう言うのだが、毎日、ゆーたの感情をぶつけられている僕たち大人にとっては、「本当にそうなの？」という気持ちが心の奥底にある。

そんな毎日の中でのゆーたの発熱。

痙攣止めを朝晩飲ませているおかげで、ゆーたは生まれてからこのかた、痙攣を起こしたことはない。ただ、医者には、高熱を出したときには気をつけるように、と言われてきた。いわゆる「熱性痙攣」というやつだ。

ゆーたが熱を出すたびに、この「熱性痙攣」を起こさないようにと、僕たちはオロオロする。こんなオロオロした気持ちも実に久しぶりだった。

一方、この二日間というもの、ゆーたはとっても穏やかだった。  
そうだろう。家族みんながゆーたの病気を気にして、とにかく優しく接していたから。

：\*：\*！° 。：\*：\*！° ° '！\*：\*..。：\*：\*！° 。：\*：\*...\*：

ふと思った。

ゆーたが熱を出してふーふー言っている時と同じように、普段もゆーたに接してあげなければいけないのではないかと。

身体の病気と同じように、普段もゆーたは心の中で、高熱と戦っているのだらうなあ、と。憎まれ口ばかり叩くゆーたを見ていると、ゆーたが抱える心の重さを、僕たちは忘れていたのではないだろうか？

：\*：\*！° 。：\*：\*！° ° '！\*：\*..。：\*：\*！° 。：\*：\*...\*：

この2ヶ月の間に、ゆーたは12歳になり、僕もまた一つ歳をとった。  
そして、今日は女房の誕生日だった。  
もっともっと、ゆーたを包んであげなければ、と思った。

実に久しぶりの「ぼちぼちいこっ！」です。  
心の揺れが大きい分だけ、書きたいこともあったけれど、どうしようもありませんでした。

## ドラクエ7 -2000/08/28(月) Vol.225-

先のファイナルファンタジーに続き、ドラゴンクエスト7が発売された。  
テレビでは発売当日の様子が放映され、その買ったばかりのゲームを奪い取る事件も……。200万本が販売されたドラクエ。そのうちの一本が我が家にある。

買ったのはゆーたではなく、僕。(^^ゞ

インターネットで発売がアナウンスされた直後に注文した。  
発売日当日は、前日からPTAの全国大会に参加しており、山梨に出かけていた。26日に自宅に届いているのだが、一刻も早く家に帰りたかった。夕方、自宅に戻った時には、ゆーたが既にパッケージを開けていた。

食後、早速、遊び始めた途端、  
「ゆーたもやりたい！」  
と、ゆーたにとられてしまった！

.....それは、パパのだぞ！（..）  
そう思いつつも、ゆーたが寝た後の9時過ぎまでの我慢だ！

：\*：\*！° 。：\*：\*！° ° '！\*：\*..。：\*：\*！° 。：\*：\*...\*：

攻略本もないために、どうしても詰まってしまうと、インターネットにアクセスして情報を仕入れる。う～ん、面白い！ ついつい、夢中になってしまう。

昨日の日曜日、午前中は子ども会の資源回収。昼前まで、段ボール箱の整理に追われていた。夜は夜で、P T Aの三役会議。

自宅に戻ったのは、9時半過ぎ。疲れはたまり眠かったのだが、僕の手はコントローラーを握りしめていた。

時計はいつしか12時を回っていた。

こりゃいかん、と一度ゲームを終えた。

「うん、もう少しだけ！」

朦朧とした頭で初期画面で、ゲームスタート...、したつもりだった。

「ぼうけんの書を消去しました！」

このメッセージに、一度に目が覚めた！

やめればよかったのだ！ おとなしく寝ていれば.....。

主人公のレベルは9まであがっていた。

プレイ時間、約10時間。

.....二日間、ゆーたの合間をぬって進めてきた僕のドラクエ7は、跡形もなく消えていた。

誰が悪いわけでもない。

自分が悪いのだから、仕方がない。

仕方がないと思いつつも、力がドドドッと抜けてしまった。

ただ、ただ、涙.....。

ホント、アホだわ.....。

夏休みのキャンプ、磯遊び、色々楽しいこともありました。それらはまた、どっかで.....。

## 2000年10月

修学旅行 -2000/10/05(木) Vol.226-

に、行く予定だった。

しかし、昨晚、寝る前に荷物を整理し始めた頃から、「腰が痛くなってきた」だの、「朝のズームインが見られない」などと言い出した。結局、無理していくことないよ、ということになった。

僕は先ほど、修学旅行に行かれなくなったことを伝えるために、見送りがてら浜松駅まで行って来た。

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° '.:\*:.。.:\*:.'° 。.:\*:.:\*.:

毎週水曜日にかかさずやってきてくれる担任の先生。

2学期に入り、修学旅行の話を持ち出した。

「NHKのスタジオパークの見学」「ディズニーランド」「お小遣いは1万円以内」.....。そうした魅力に惹かれて、「行きたい」とゆーたは言い出した。

しかし、不安は大きく、僕も一緒に。しかもホテルの部屋は、一部屋用意してもらうことに。さらに、母親と離れて眠ることに異常なくらい恐怖感(?)を抱いているために、可能ならば、夜には合流する、ということにした。

しかし、女房が、雨で体育大会が延期になったため、宿泊はできないということになった。それも影響したのだろう、結局、不参加となり、僕は久々のメールマガジンを書いている。

:\*:・'° 。.:\*:・'° ° '・\*::.。.:\*:・'° 。.:\*:...\*::

浜松駅のホームで新幹線を待っているとき、クラスの子も達の何人かが僕の所に来て、  
「ゆーた君、やっぱり無理だったの？」

「一緒に行かれると思ってたんだけどねえ...」  
等々と声をかけてきてくれた。

昨日の帰りの会で、担任の先生が「明日の修学旅行にはゆーた君も参加できそうだと伝えたと、拍手をしてくれた子ども達がいたと聞いた。動き出す新幹線の席から、いつまでも僕に向かって手を振り続けてくれた子ども達。

「今晚からでも、明日からでもいいですから、来られるようだったら連絡下さい。対応しますから」そう言ってくれた先生。

ゆーたの心に彫りつけられたものは、確かに大きいかもしれないけれど、本当におまえの事を気にしている友達や先生がいるんだぞ！

駅の喧噪の中、ホームを歩きながら、こうした人たちの優しい心に接することができないものだろうか、そう思うと涙が出そうになってしまった.....。

久しぶりです。「明日、日帰りで一緒にディズニーランドで合流しようか？」

ドラクエと一緒にやりながら、そんな風に、声をかけました。

「うん、それは良いねえ」とゆーたは言ってましたが.....。 (^^)

不安 -2000/10/06(金) Vol.227-

「ねえ、ママあ！ パパったらね、明日ディズニーランドに行こうって言うんだよあ〜」 帰ってきた女房に向かって、開口一番ゆーたはそう言った。

やはり気にしているんだなあ、と。

昼間、ゆーたに「もし、行く気があるなら日帰りで行こうか？」と僕が聞いたときには「う〜ん、それもいいねえ！」などと言ってはいたのだが.....。

クラスの友達や先生達のやさしさに触れて欲しい、その思いからだったが、やはりゆーたにはプレッシャーだったようだ。

:\*:・'° 。.:\*:・'° ° '・\*::.。.:\*:・'° 。.:\*:...\*::

ゆーたは「不安なんだなあ」と口にする。

「疲れちゃうんじゃないかと思う」「おなかが痛くなるかもしれない」等と言うのだが、結局の所、大きな集団が不安なんだろうなあと思う。また、みんなは自分の所に手紙を書いてきてくれたりもするが、本当に、自分を受け入れてもらえるのだろうか、というところなんだろう。

確かにそうだろうと思う。

今まで学校の中で、さんざん「足手まとい」的な存在として、みんなにからかわれてきたりしたのでから.....。

昨日も「5年生の時、トイレに入っていると友達がのぞいたりした」と、僕と二人でトイレの話をしていたときに、突然ゆーたは言った。勿論、笑いながら話はしていたが、その時の様子は何となく目に浮かぶ。周りの子ども達にとっては、自分たちの日常レベルのからかいかもしれないが、何かにつけて色々と言われていたゆーたにとっては、決して「許容範囲」ではなかったのだろう。

学校生活のアチコチにゆーたの心を切り刻むことがあったのだろう。だから、6年生になってみんなが成長したとはいえ、ゆーたには「学校においでよ」「待ってるよ」という言葉を受け入れられないのだと思う。

ゆーたの学校生活は、去年の10月で止まってしまっているのだ。

:.:.・'° 。 .:.:.・'° ° ' .:.:.°. .:.:.・'° 。 .:.:.:.:.\*:

「こっちにおいで」ではなく、ゆーたの側にきてあげてくれたなら、そう思った。

久々のメールマガジンでした。  
「心配してました」「気にしてました」「お久しぶりです」「発行されてないから削除されたかと思ってました」等々.....  
ありがとうございます。

行きたかった -2000/10/07(土) Vol.228-

そうなんだと思う。  
でも、「行けなかった自分」がいる。  
やっぱり自分はダメな人間なんだ.....。そうゆーたは考える。

:.:.・'° 。 .:.:.・'° ° ' .:.:.°. .:.:.・'° 。 .:.:.:.:.\*:

一昨日、修学旅行に行かないことにした時、おじいちゃんとおばあちゃんに「修学旅行の事は、とても気にしているから、絶対話題にしないでよ」「行けばよかったのに、なんて言わないでやってよ」そう念押しした。昨日ゆーたはとてもイライラしていた。ゲームをやっている、いつも「パパあ、やるよお！」なんてことも言わずに、ブツブツ言いながら一人でやっていた。そして、やりながら、おばあちゃんはどうした、おじいちゃんはどうしたと、思い出したかのように文句を言い始めた。

毎度のことながら、適当にあしらってはみてもそのうち、こっちもたまらなくなる。ゆーたのイライラはわからないではないが、だからといって、人に当たり散らして良い、ってわけでもない。こっちにも忍耐の限度がある。最後には、「そんなに人に当たるな！」と僕も怒った。ゆーたは下に行って、今度はおばあちゃん達にイライラをぶつけ始めた。

:.:.・'° 。 .:.:.・'° ° ' .:.:.°. .:.:.・'° 。 .:.:.:.:.\*:

担任の先生や、クラスの子どもの気持ちも少しはゆーたの心に届いているのだなあ、と思った。一方、行きたくても行けない自分がある。そんな自分を、「ダメな人間」と思いこむことによって気持ちの整理をつけようとしている。

「自分を責めちゃダメだよ。行こうかな、って考えたりしたことだけで、十分なんだよ」

そう言ってあげようかとも思ったが、なかなかその機会が見つからないまま一日が終わっていった。

冬から春にかけて走っていた、佐鳴湖を久しぶりに走りました。

でも、一週6.5kmがまともに走れなくなっていました。

走っていても、全然楽しくありませんでした……。

## フレッツ I S D N -2000/10/11(水) Vol.229-

おじいちゃん、おばあちゃんとゆーたがギャンギャンやるようになってからというもの、昼間外に出ることが少なくなった。今までだったら、時間を見つけては、スポーツジムに出かけたり、パソコンショップに行ったり、僕が関わっているパソコンのメンテナンスをやったり、と。

出かけようかな、と思っていると下からゆーたの怒った声が聞こえてくる。

そうすると、途端に何かしようという気持ちが萎えてしまい、「仕方なく」パソコンに向かってみたりする。

かといって、HPを更新したり、メールマガジンをじっくり書こう、というアクティブな気持ちではないから、インターネットであちこちのHPを見るとはなく見ている、そんな状態。

自ずと電話代もかさんでくる。

：\*：\*’° 。：\*：\*’° ° ’\*：\*’。：\*：\*’° 。：\*：\*’\*’

そんなわけで、この間、インターネットの新しい接続サービスも色々調べてみた。フレッツ I S D N、A D S L、CATV、無線……。で結局、フレッツ I S D Nに申し込むことにした。

費用は、月4500円がNTT。

で、プロバイダだが、今入っているD T Iは、まだこの地域にはサービスが開始されていない。じゃ、プロバイダを乗り換えるか？ でも、D T Iは気に入っている。

ってなことで、450円/月のASAHIネットに入ることにした。

勿論、安かろう、悪かろう、ということで、ま、速度の低下はやむを得ないかな、と覚悟はしているが、とりあえずD T Iがサービスを開始するまでのつなぎとして。

：\*：\*’° 。：\*：\*’° ° ’\*：\*’。：\*：\*’° 。：\*：\*’\*’

女房やゆーたは自分が気が向いた時にインターネットに繋いでいる。

彼らには、電話代がいくらかかっているか等というのは念頭にない。

勿論、テレホーダイの時間は、ぐっすり眠っている。

今週の土曜日から、あこがれの「常時接続」になる。

先ほどNTTから電話があって、新しい電話番号を教えてくれた。

なんとなく、ウキウキしてしまう。(笑)

INSの通信料は、毎月5000円以上。  
だったら、電話代を気にせずに繋がれるほうが良いじゃん！という所。  
それと、新しいものに首を突っ込んでみたい、という気持ちも...(^^ゞ  
今週の日曜日は、ランニングサークルのチームで、駅伝に出ます。  
42.195を最高11人で走ろう！ というヤツ。  
僕は5kmを走るようになった。いやぁ、どーしょー！！！！(冷汗)

## 立ち話 -2000/10/12(木) Vol.230-

今週の土日には町内の秋祭りが行われる。  
今日は、子ども達の太鼓・笛の練習に子ども会の役員としてつきあった。  
勿論、ゆーたは参加しない。

僕たちの町内では、6年生の全家庭が子ども会の「役員」となる。  
その中から、公平にくじ引きで、三役4名を選出する。  
同じ6年生の家庭だから、ゆーたのこともよく知っている。  
そんなわけで、今年一月の役員のくじびきを僕は免除してもらった。  
(その後、PTAの会長を引き受けてしまったのだが.....)

:.:.:'° 。 .:.:.:'° ° ' .:.:'. .:.:.:'° 。 .:.:'.:'.:':

子ども達の指導をしてくれる地域のおじさん達や子ども達にお茶を出したり、休憩中や最初と最後、子ども達が道路に飛び出したりしないかを見守るのが当番の仕事。

当然、練習中は暇になる。

外でタバコを吸いながら、ぼんやりしていたら、一緒に当番にあっていたA君のお母さんが話しかけてきた。

「ゆーた君、どう？ 元気？ 修学旅行は、行けなかったの？」

:.:.:'° 。 .:.:.:'° ° ' .:.:'. .:.:.:'° 。 .:.:'.:'.:':

A君のお母さんは、自分の子どもの事を話し始めた。

4年生の後半から、食べる事ができなくなったこと。

食べられるようになって、直ぐにもどしてしまうこと。

2年以上にわたって、そんな毎が続いているということ。

最近になって、ようやく少しずつではあるが、食べられるようになってきたということ。

その後、担任の先生の話、去年の学級崩壊の話、立ち話は練習の終わり頃まで続いた。

「でも、ホント子育てって、子どもよりも私たち親が、教えられるのよね。ゆーた君も、大丈夫よ！ だって、お父さんがこんなにゆったりと構えてくれているんだもん、ね。」

そう言ってくれた。

僕自身の外面と内面の違いは別にしても、ゆーたのことを気遣ってくれる気持ちが、とっても嬉しかった.....

学校、地域のつきあいは、僕の担当。

たまに女房に子ども会の会合や、地域の活動などに出てくれよ、と言っても答えはいつも「ヤダ！」

来週の木曜日、女房が試験前の「指定休」というヤツでお休み。三人でどこかに遊びに行こう、ということになりました。

## 親父の入院 -2000/10/28(土) Vol.231-

親父、大正15年生まれ。73歳。

本当に器用な人だと思う。

<http://osamu.net/family/garakuta.htm>

に「じいちゃんのおもちゃ箱」というページをつくってあるが、今は、リサイクルに凝って(?)いる。アルミ缶を回収して、地域の老人ホームに車椅子を送ったり、ペットボトルやトレイやトイレトーパーの芯を使って、色々を作ったり.....。

最近では、市内の公民館や小学校から、「講師」として呼ばれたり。

忙しい人だ。

元国鉄の職員で、電気関係の設計をやっていた(ようだ)。

S Lの写真から、短歌、鉄道模型.....。手先の器用な人で、何をやらせてもそのできればえには驚くものばかりだ。鉄道模型などは、鉄道模型ファン(?)とか言う雑誌に、写真が掲載されたり、JR浜松駅の構内に飾らせて欲しいと言われてたり。短歌では、「国鉄歌人会」だから、第一回の大賞をとったりと。

机に向かっていたり、何かを作っている姿が、僕にとっての親父の姿だ。それは今、一緒に暮らしながら、対象となるものは変わっていても、本質的には、何も変わっていない。

:\*:~!° 。.:\*:~!° ° '~\*:~.。.:\*:~!° 。.:\*:~!~\*:

一昨日の木曜日、親父が入院した。

持病のメニエール氏病が再発したのだった。

こうなると1週間ほど、寝込んでしまう。とにかく横になって、じっとしているしかないという。しかし、今回、往診に来てくれた近所の先生が、「血圧が高い」ということで、非常に心配した。病院に行っても、血圧は高くなるばかりで、親父は何度ももどしたりした。

結局、救急車で大きな病院に入院することになった。

:\*:~!° 。.:\*:~!° ° '~\*:~.。.:\*:~!° 。.:\*:~!~\*:

最近、手足がブルブルと震えるようになった、とはお袋の話。

確かに、ベッドに横たわりながら、親父の両足、左手はひっきりなしに、震えている。

「この際だから、頭の方などもきちんと調べてください」

そうお願いした。

CT、MRIの結果、別にどこも異常は見られず、「脳梗塞などの心配はありません」と。

ホッと一安心。

でも、親父やお袋の歳を、改めて直視してしまい、とても戸惑っている自分がそこにいた。

毎日が過ぎるのが早いです。もう、10月も終わろうとしています。

今年も.....なんていう季節が近づいてきたんですね。今年一年の僕は.....?



老い -2000/10/30(月) Vol.232-

親父の病名がわかった。  
今日、病院で主治医から、僕と親父の二人で話を聞いた。

詳しくは書かないが、難病指定されている病気。  
お袋には、「検査結果は明日出るみたいだから」とお茶を濁しておいた。  
もう少し、きちんとした知識を得てから話をしたかったからだ。

自宅に戻った後、インターネットでアチコチのHPを見て回った。  
医学部が出しているHP。  
介護体験者のHP。

一番わかったことは、これからずっと、親父や僕たち家族は、その病気と仲良くつきあっていかなければ  
ならないということ。

親父が死ぬまで、ずっと.....

.....

ゆーたもこれから先、色々な事が待ち受けているだろう。  
そして、今回のことで明快になった「介護」「老い」という問題。  
いずれにせよ、一人の力では太刀打ちできるものではなく、家族が支え合っていかなければ、ならないだ  
ろうなあ、と。

.....

介護の問題については、「いずれは」とは思っていた。  
いや、正直言えば、親父やお袋を直視しようとせず、できるだけ目を向けないでいたような気がする。  
しかし、もうまっすぐ見ないといけないんだらうな。そういう時が来たんだらうな.....。そう思う。

お袋にどうやって説明したら良いのか、ちょっと頭を悩ませています。  
ま、明日にはきちんと話をしないとイケないなあ、と。そして姉貴にも。

## 2000年11月

ハーフマラソン -2000/11/18(土) Vol.233-

後、12時間後にはハーフマラソンがスタートしている。  
エントリーはしたものの、親父の入院・退院、小学校の音楽会と立て続けに色々あってまともに走って  
いない。制限時間は2時間半。  
今までのレースとは違って、どこかが痛み出してリタイアってことも十分あるなあ、って。  
やめようかな、とも思った。未だにやめたい気持ちも半分。

距離に対する不安もさることながら、未体験なものに対する不安が大きいのかなあ..... ??? ?

よくわからないや！

まあ、途中でしんどくなったらやめればいいや。

でも、ちょっと恥ずかしいぞ！ (\*^\_^\*)  
そんな思いが錯綜している。

:::..!° 。 :::..!° ° ' !.::~.. :::..!° 。 :::.....:::

できるところまででいいんだよ。  
がんばれるところまででいいんだよ。  
無理をしたってダメだよ。

なんかゆーたに向かって話しているような気分で、自分の心に話しかけている……。

音楽会が終わりました。  
本番よりもリハーサルの方が面白いですね。先生達の素顔が見られて…。

2 時間 02 分 -2000/11/20(月) Vol. 234-

記録証を持って帰ったとき、女房は家でビデオを見ていた。  
「ホラ、これ、これ！」  
女房はチラッと横目で見、直ぐにテレビに視線を移した。  
ま、予想したとおりの反応とは言え、走り終えてホッとした僕の充実感とのギャップは何とも言えないものだった (..)

僕たち夫婦はこんなものだ。  
お互いがやることには、それぞれ干渉しない。どうぞ、ご自由に、といった具合で。  
女房は女房でせっせと薫製づくりやケーキ作りに励んでいるし……。  
もっとも、ゆーたのことや家族三人で出かけたり、何かすることは大切にしているが。  
一緒にやれることは一緒にやる。  
興味のないことに無理矢理つきあわせることはしない。  
それでもやっぱり「頑張ったね」くらいは欲しいと思うのは欲張りなのだろうか？ (爆)  
僕だって、女房がつくった薫製は、おいしいって言って食べるぞ！

そんなこと言うと、  
「私の薫製は、みんなの役に立ってるでしょ？ アンタが走ったって、別になんの足しにもならないでしょ？」って答えが返ってきそうだ。(笑)

:::..!° 。 :::..!° ° ' !.::~.. :::..!° 。 :::.....:::

2 1 km という距離は、とにかく長かった。でも、楽しかった。  
初めてのハーフマラソンということで、ゆっくりとしたペースで走っていたから、足がつるとか、苦しくて苦しくて…という状況ではなかった。それでも、足にはしっかりと大きなまめができて、その痛みだけが  
つらかった。

給水所が見えてくると、あそこまでと思った。  
ボランティアの中学生達の「頑張ってください～」という声嬉しかった。  
沿道のおじいちゃん、おばあちゃんたちが手を振ってくれる。  
にっこり笑って応える。

一人で家の周りを黙々と走っているのとはわけが違う。

最初はあれほど遠いと思っていた21km先のゴールが、次第に、そして確実に近づいてきた。この感覚を味わいたくて、多くのランナー達がこうしたレースを楽しむのだろう。

たとえゆっくりでもいい。

歩き続ければ、ゴールは必ず見えてくる。

久しぶりに、実感した。

新たにできた両足の裏の大きなまめ。痛いなの！ 歩くのもしんどい～！

昨日は、我が家でゆーたがまた、おばあちゃんと一緒に悶着あったと。

ハーフの余韻に浸ることも許されず、一気に現実に引き戻されたのであった。(..)

## 成長速度 -2000/11/21(火) Vol.235-

「ゆーたは、他の子どもよりも、成長するのに2倍の時間がかかるのよ。う～ん、今は6歳くらいかな？だから、ゆーたには子ども時代が人の2倍あって、私たちもたくさん楽しめるのよ」女房がそう言った。

「でも、思春期の反抗期が2倍あったらいやだなあ」

女房は笑いながら、そう付け加えた。

なるほどなあ。

言い得て妙、ってヤツかな？

おいおい、待てよ。そんなこと言ったら、ゆーたが成人するのは、40歳かあ？

後、28年もあるのかあ…… (..)

僕は70越えてるぞ！（爆）

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° .'\*:.. .\*:.'° 。.:\*:..\*:

確かにゆーたは成長していると思う。

他の子ども達、12歳の年齢という一般的なくくりから言ったら、他人との関わり、社会的能力はかなり劣るものがあるのは事実だ。それでも、ゆーたの成長をそこここで実感する。

僕は二つの目を持ち、その間で揺れ続ける。

ゆーた自身をまっすぐ見つめる目と、一般的な目と。

いつでもまっすぐ見つめてやりたいとは思いますが、そのためには、僕自身が精神的にもっともっと成長しなければ、と思う……。

昨日は遅くまでテレビを見てました。「失望感」かな、やっぱり。

「所詮こんなモンだよ」と言ってしまうとそれまでだけれど……。

## 2000年12月

### 親ばか -2000/12/2(土) Vol.236-

「ねえ、パパとママってホント、親ばかだと思うでしょ？」

洗濯物を干しながら、何かの拍子に、女房はゆーたに向かって聞いた。

その時、僕はパソコンに向かっていた。

「うん、そう思うよ」

「ところで、ゆーた、親ばかってどんな意味だか知ってる？」

「うん、馬鹿な親ってことでしょ」

僕も女房は、大笑い。

「そっかぁ、馬鹿な親、ってことだと思ってたんだ！ で、ママやパパの馬鹿な所って、どこ、どこ？」  
僕は思わず聞いてしまった。

「だって、ママはよく自分で『バカだなあ』って言うじゃん」

「じゃ、パパは？」

「う～ん、えっとねえ……。ないかなあ？」

僕には気兼ねしたのだろうか、それとも咄嗟に思いつかなかったのだろうか、ともかくゆーたの「馬鹿な親」二人は、顔を見合わせて笑っていた。

∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴

なんだかんだといいながらも、我が家には笑い声は絶えることはない。  
一番は、女房のあっけらかんとした性格によるものだろう。  
この笑い声が無くなったら、ホント、大変なことだと思う。

「ウチの子が一番、可愛いのよ！」って言い張る親のことを「親ばか」って言うのよ

女房の説明にゆーたは納得したのかしないのか、それは定かではなかったが、そんなひとときに、胸がキュっとなる。

12月になりました。今年も後少しで終わりです。  
12月31日、何を思っているのでしょうか？

空振り -2000/12/4(月) Vol.237-

疲れた。

知人のパソコン購入の相談を受け、行きつけのショップに朝電話を入れた。

懇意にしている店員さんは12時からの出社とのこと。時間が空いたので、3月に行われるロードレースの申込書を取りに、市の教育委員会出かけた。

主催者に問い合わせたときに、「市の教育委員会にある」と言われ、先だって市役所に行ったら、「教育委員会は移転しました」とあった。

新しい教育委員会に興味もあったので、行ってみた。そしたら「すみません、こちらではなく、市役所の6階のフニヤラカ課においてあります」だそう。パーキングチケット代金、300円が無駄になった。

市役所の6階に再び出向いた。パンフレットがおいてある。さばくってみたが、見あたらない。「あのお、すみません」と。

「あ、それ、切らしてしまってます。こちらが住所ですので、直接申し込んだ方が早いと思いますが……」  
「後、アリーナ（体育館）にも置いてありますが」

丁度、パソコンショップの側だったので、アリーナに寄ってみた。  
何となく静かだ。イヤな予感がした。

「今日は、休館日です」

駐車料金200円はしっかりとられた。

まったくう、と思いながらショップに着いた。

「は、本日休みになっております」

「えっ？ 朝問い合わせたら、12時について言われたんですが？」

「それが急に……」

「はい、もう、結構です！」

:.:.:'° 。 .:.\*:.'° ° ' .:.\*:.. .:.\*:.'° 。 .:.\*:..:.\*:

ここまでハズレが続くのも珍しいかもしれないが、500円と無駄にした数時間のことを考えたら、無性に腹が立ってきた。

家に帰ると、ゆーたがドラクエの最後のバトルをしていた。

自分でやつつけられたことが嬉しくて、うるさいったらありゃしない！

「ダメ！ 今日、パパは滅茶苦茶機嫌が悪い！ 空振りばかりでいやんなっちゃた！ だから、寝る！」と昼寝をしてしまった。

なんて無意味な一日だったろう！

こんなことなら、ゆーたと一緒にプラモデルを作ったり、遊んでいてあげたら良かったのに……。 (;\_;)

午前中、学校へ行って校長さんと少し話してきました。

相談を受けている女の子の事が話題でした。難しいですね。学校と家庭が信頼関係を築いていくのは……。

コピー用紙 -2000/12/5(火) Vol.238-

朝食が終わった後、台所で片づけをやってしていると、ゆーたがプリンタの所にそぉ〜っと近寄っていった。紙が欲しいのだ。ゆーたはよくコチョコチョコと「書き物」をしている。

作り話や、自分で想像したキャラクターのヒットポイントがどうのと、さもないことを書いている。しかも、ちょこっと書いて後は、そこらにポイ。広告の裏でも良いのに、と思うのだが、ゆーたは真っ白な紙が欲しいらしい。

だからいつも、裏が使える印刷ミスをした用紙を置いておく。

「ホラ、その裏が使えるヤツがあるだろう」と。

以前も、いざ印刷しようとしたら、用紙がなくなっていた、なんてこともあったりした。そんな時は、全く頭に来る。

:.:.:'° 。 .:.\*:.'° ° ' .:.\*:.. .:.\*:.'° 。 .:.\*:..:.\*:

「ゆーた、今日はダメ！ 紙が残り少ないんだから！ パパが仕事で使うんだから！」と今朝はきつい口調で言った。

ゆーたは口をとがらせ、下に降りていった。

大体こういうときは、下に行き、おばあちゃんに当たり散らすのが常だった。

「ああ、また、大きな声を出すのかなあ」と、心中穏やかでなかった。

しばらくすると、ゆーたが戻ってきた。

ん？ 手になにやらたくさん紙を持っているではないか！

「おい、どうしたんだ、それ？」

「おじいちゃんに言って、一緒に紙がないか探してもらったんだ。そしたらこんなたくさんあったんだ」と嬉しそうな顔をしてゆーたは言った。

嬉しかったのはこちらの方だ。

「へえ～、そりゃ良かったなあ！ でも、それ以上に、パパはゆーたがそうやって我慢したり、他の方法を考えたことが、めちゃくちゃ嬉しいぞ！ う～ん、お前もせーちょーしたなあ！ もう、誉めちゃう！」

：\*：\*！° 。：\*：\*！° ° '！\*：\*..。：\*：\*！° 。：\*：\*...\*：

最近、ゆーたが少し変わってきたと思う。

随分と感情を爆発させることが少なくなってきた。

ちょっと注意するだけで、わめいたりしたものだが、とんと少なくなった。

いや、時には、僕が間違えて怒ったりしても、サラッと「違うよ、こうしてたんだよ」と、受け流したりもする。

へえ～、と思うことがしばしばある。

小さいけれど、確かな変化だ。

パソコンショップに行って用紙を買ってきました。その時、ゆーた用にA4の用紙を一つ買ってきてあげました。

昨日、スポーツショップに寄ろうかと思っていきましたが、空振り続きでイヤになって止めました。今日、気持ちを取り直して出かけました。なんと、定休日でした。（；；）

## 20世紀 -2000/12/31(日) Vol.239-

12月25日のクリスマスの日、「ロバート・キャパ賞展」を親子三人で静岡まで出かけた。「20世紀と人間」と題して、ロバート・キャパ賞を受賞した人たちの写真展だった。

ゆーたは怖かったみたいで、空母の写真を二つほど見ただけで、後は目を伏せてさっさと出て行ってしまった。女房もゆーたと一緒に足早に人混みの中に消えていった。

おかげで僕は一人、ゆっくりゆっくりと見ることができた。

：\*：\*！° 。：\*：\*！° ° '！\*：\*..。：\*：\*！° 。：\*：\*...\*：

所狭しと戦争、動乱、テロ、飢えなどがこちらを見つめる展示場は、得も言えぬ雰囲気をかもしだしていた。

インドシナ、ハンガリー、ベトナム、チリ、ニカラグア、イラン、イラク、南アフリカ、サラエボ.....。テレビや新聞報道で驚きもしたが、すぐに日常の中に忘れ去られた様々な出来事を改めて見つめ直すことになった。

そして、それらの切り取られた出来事は、今もまだ、世界の各地で消えることなく爪痕を残し続けているものたちばかりだった。

：\*：\*！° 。：\*：\*！° ° '！\*：\*..。：\*：\*！° 。：\*：\*...\*：

早々に会場を後にした僕たちは、焼津のさかなセンターに寄っていった。

三人でアチコチ試食しながら、「これが良い、あれ買おう！」などと言いながら。

改めて「平和」を思った。

平々凡々たる日常。

他愛のない会話。

こうした日々が、たまらなく愛おしく思う。

この一年、とっても大きな変化があったわけではないけれど、昨日と何も変わることなく「ああ、一年が終わるね」と言い合える僕は、本当に幸せなんだと思う。

:\*:.'° 。..\*:.'° ° '.:\*:.。.:\*:.'° 。.:\*:.:.\*:

21世紀になろうとしている。

次の世紀、人類はどんな歴史を刻んでいくのだろうか？

ゆーたは何を見つめていくんだろう.....？

やっぱり、これからさきも「ぼちぼちいこっ！」です。

皆さんからいただいたたくさんのメール、とても嬉しかったです。

心からお礼を申し上げます。

紅白歌合戦が始まりました。月並みですが「よいお年を！」